

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
1. 情報処理 ―考え方の基礎とBASICプログラミング	共	1991年4月	同志社女子大短期大学部 B5. p. 258	情報処理とは何かを把握し、コンピュータによる情報処理がどのようになされるかを体験することを目的に書かれた書。「第3章 多量のデータを処理する」を担当した(pp. 89～144)。パソコンを利用した情報処理のためのプログラミングを習得し、情報を処理するためのベーシックによるさまざまなプログラムの作成を解説した。共同執筆者: 松井淳、高橋順子、蒔田明史、片山雅男、柿木正平、本多忠紀。
2. 京都深泥池・氷期からの自然	共	1994年8月	藤田 昇・遠藤 彰編 京都新聞社 B6. p. 183	高層湿原の発達した浮島をもつ京都市深泥池の動植物の生態を解説した書籍。「浮島の植物と水位」(pp. 44～45)、「モウセンゴケ」(pp. 81～82)、「池の南北断面模式図」(p.25)を担当した。「浮島の植物と水位」では、浮島上の微地形や水位の季節変化と植物の分布との関係を説明し、「モウセンゴケ」ではモウセンゴケの捕虫過程と生育環境について解説した。共同執筆者: 藤田 昇・遠藤 彰・片山雅男他41名。
3. グリーンセイバーベーシック (3級)テキスト 植物・自然環境に関する手引き	共	1998年3月	樹木・環境ネットワーク協会 B5. P. 212	身近な植物に関する知識をもとに生態系や自然保護を学び、自然との正しい接し方を身につけるために制定された検定試験のためのテキスト。「第1章 植物の基礎知識 第1～3節」(pp.1～58)、「第2章 植物の文化・習俗」(pp.75～96)を担当。第1章では植物分類の基礎知識、植物の外部形態と生活史を、第2章では日本人の季節感と植物、里山の伝統的利用について述べた。共同執筆者: 片山雅男、下園文雄、清水義和。
4. 自然のシステムに学ぶ ―生活環境論―	共	1998年4月	化学同人 B5. p. 186	人々の生活様式や社会システムの変革をはかり、環境問題の根本的な解決を試みた書。「第2章 生きものの暮らし方に学ぶ」を担当し(pp.53～86)、生態系概念、植生遷移、日本の自然植生、里山の生態学、自然環境問題を扱い、自然のしくみを学び、生活に生かすかを論じた。実践的な環境論として毎日新聞(1998年5月28日)で紹介された。共同執筆者: 浜田仁、片山雅男、田中真澄、梅沢直樹、久米直明。
5. グリーンセイバーアドバンス テキスト 人と自然の調和ある共存のために	共	1999年3月	樹木・環境ネットワーク協会 B5. p. 214	植物と自然環境に関する検定試験のためのテキスト中級編。「第2章 日本人の生活と植物 第1～2節」を担当した(pp. 33～67)。この章では、記紀神話や昔話の中の植物、民間伝承の中の植物、民間信仰にゆかりのある植物についてその由緒来歴を詳述した。共同執筆者: 片山雅男、下園文雄、清水義和、洪澤寿一、岩槻邦男。
6. グリーンセイバーマスターテキスト 自然を守るための理念と方法	共	2000年2月	樹木・環境ネットワーク協会 B5. p. 278	植物と自然環境に関する検定試験のためのテキスト上級編。「第3章 自然の学び方」を担当した(pp. 141～195)。この章では、植物相調査法、植物社会学的調査法と毎木調査法の手順とデータの処理、植生断面図の作成法、植生図の利用法、動物の調査法について詳述した。共同執筆者: 片山雅男、下園文雄、清水義和、岩槻邦男、池田武邦。
7. グリーンセイバー ―植物と自然の基礎をまなぶ―	共	2002年1月	研成社 B5. p. 208	植物の知識をもとに自然保全や自然文化を学び、自然との接し方を身につけるための書。「第1章 植物の基礎知識」(pp. 11～83)、「第4章 植物の文化・めぐみ」(pp. 179～204)を担当。第1章では植物分類の基礎知識、植物の形態と観察、植物の生活史と生育特性や生育環境を、第4章では日本人の季節感と植物、木材の利用、農耕と植物、里山の伝統的利用について述べた。共同執筆者: 片山雅男、清水義和、下園文雄。
8. グリーンセイバー・アドバンス	共	2005年1月	研成社 B5. p. 252	植物の基礎知識をもとに、自然との接し方を身につける書。「第1章 植物の自然史」(pp.9～22, pp.24～48)、「第2章 日本人の生活と植物」(pp.49～109)、「主な有毒植物」(pp.207～221)を担当。第1章では生命の起源と多様化、分類体系、生物地理、第2章では神話や民間伝承と植物、江戸時代の都市・農村・山村の暮らしと植物、有毒植物について詳述した。共同執筆者: 片山雅男、清水善和、下園文雄。

9. 深泥池の自然と暮らし ー生態系管理をめざしてー	共	2008年3月	サンライズ出版 B5. p. 247	天然記念物「深泥池」の現状と保全についての書籍。このうち「植物の開花・開葉のフェノロジー」(pp.90～92)を担当し、浮島や開水域、周辺部の二次林の植物の展葉・紅葉・落葉現象と開花・結実の特徴を述べた。共同執筆者:川那辺浩哉、田端英雄他。編集:深泥池七人委員会編集部会。
10. グリーンセイバー・マスター	共	2008年10月	研成社 B5. p. 245	自然環境に関する課題を広範囲に取り上げ、個人がどのように対応すべきかを考えるための書籍。「第4章 自然から学ぶ」(pp.125～172)を担当し、対象となる自然の調査法と自然観察、自然保全を扱った。植物相調査法、植生調査法、生育状況調査法、陸上動物調査法、自然観察の手法とマナー、自然観察会の実施法と留意点について述べた。共同執筆者:岩槻邦男、清水義和、下園文雄、片山雅男。監修:岩槻邦男。
(学術論文)				
1. 深泥池浮島の植生	共	1981年7月	「深泥池の人と自然」 深泥池学術調査報告書 pp. 92～94 京都市文化観光局 付図:深泥池浮島植生図	京都市北区にある深泥池には中央に植物遺体からなる浮島があり、その上に発達した高層湿原にはオオミズゴケのビュルテとその間のシュレンケなど多様な微地形が存在する。過去に詳細な調査がなく、今回浮島の植生の現状を正確に記録にとどめるため、全域に渡って植生図を作成した。現地での調査を担当した。共同研究者:土屋和三、藤田昇、田端英雄、松井淳、片山雅男他14名。
2. 深泥池浮島の生態学的研究	共	1981年7月	「深泥池の人と自然」 深泥池学術調査報告書 pp. 95～133 京都市文化観光局	京都市にある深泥池の浮島上高層湿原では、さまざまな発達・崩壊過程にあるビュルテがみられる。浮島湿原の現状を把握するため、浮島の水位と浮沈、浮島堆積物の構造、開水域と浮島上の水質、ミズゴケの生態的特性などと植生やビュルテの形成・崩壊との関連を調査した。また、これにより深泥池湿原の保護に対する提言をおこなった。現地での調査を担当した。共同研究者:土屋和三、藤田昇、田端英雄、松井淳、片山雅男他14名。
3. 暖温帯二次林のフェノロジー 木本構成樹種の開舒・伸長及び落葉現象について(修士論文)	単	1982年2月	京都大学大学院理学研究科 A4. p. 64	暖温帯二次林(アカマツ林、コナラ林)を構成する主要木本種について、開舒の時期、新条の伸長・展葉・落葉のパターンを明らかにし、各パターンの持つ生態的な意味を考察した。併せて、森林の階層構造や生育形との関係を考察し、個々の種の森林群集内でのフェノロジカルな地位について論じた。
4. 同志社田辺校地の植生と植物相 ー特に植生と土壌および地質との関連性についてー	共	1984年3月	同志社大学校地学術調査委員会 B5. p. 54	京阪奈丘陵を構成する大阪層群は礫層、砂礫層、砂層、粘土層が互層をなしている。この上に発達する植生がこの地質・地形と関係していることを明らかにした。また、土壌の物理的・化学的分析をおこなった結果、液相と気相、礫含量、保水量等が植生型と関係することが明らかになった。植生調査と土壌調査を担当した。共同研究者:田端英雄、横山卓雄、村田源、岡川長郎、片山雅男、吉川省子、東松郁雄、竹村恵一
5. 深泥池浮島上における植生の主要構成種の種子発芽特性	共	1985年3月	文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書 pp. 21～32	深泥池浮島上には、ビュルテとシュレンケなどの微地形が存在し、浮島の季節的な浮沈もあって多様な水分環境が見られ、生態的に異質な植生が発達している。ここでは発芽・定着への水位と基質の影響に着目し、現地と実験水槽で、主要構成種46種の発芽特性と水没耐性を調べ、浮島上の植生分布を論じた。研究の責任者として、実験の計画、遂行、取りまとめを担当した。共同執筆者:片山雅男、清水義和、土屋和三、藤田昇。
6. 深泥池の水質とミズゴケ類の消長	共	1985年3月	文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書 pp. 15～20	深泥池にはミズゴケ類の遺体からできた浮島がある。ミズゴケ類からなる高層湿原の水質は酸性で貧栄養であるが、近年、水質の悪化により、ミズゴケ類が減少している。そこで、浮島上で水を採取し、pHを変化させてミズゴケ類の成長を追跡した。その結果、生育期にpH7以上の水に水没しているとミズゴケ類に被害がでることが明らかになった。野外での調査とまとめを担当した。共同執筆者:藤田昇、片山雅男。

7. 京都市深泥池浮島高層湿原の植物生理・生態学的研究	共	1989年3月	日本生命財団研究助成金(自然保護)研究報告書A4. p. 31	京都市深泥池浮島ではミズゴケ類の生育場所が水質悪化に伴って縮小、消滅傾向にある。この研究ではミズゴケ類の消長や浮島植生の変化を水位、水質から解明した。また、ミズゴケ類の成長・枯死を野外調査と生理学的実験から明らかにし、高層湿原維持への対策を検討した。植生調査、ミズゴケ類の消長、水位、水質、構成種の発芽などを担当した。共同執筆者:藤田 昇、片山雅男、原口 昭、田中 歩、柴坂三根夫、辻 英夫。
8. Antioxidative enzymes in seedlings of Nelumbo nucifera germinated under water (水中発芽したハスの実生の酸化防止酵素)	共	2001年	PHYSIOLOGIA PLANTARUM Vol. 112 pp. 39~46	低酸素の水中で発芽したハスの実生で、酸素欠乏に呼応した酸化防止酵素の変化を調べた。その結果、スーパーオキシドジスムターゼ、デヒドロアスコルビン酸還元酵素とグルタチオン還元酵素の活性が気中の暗条件下で発芽した実生よりも低下すること、カタラーゼ、モノデヒドロアスコルビン酸還元酵素の活性は同じであることがわかった。(共同研究につき担当部分抽出不可)共同執筆者:丑丸敬史、金松澄雄、片山雅男、辻英夫。
9. 暖温帯落葉広葉樹種のシュートの形成過程について	単	2002年3月	夙川学院短期大学研究紀要 第26号 pp. 1~18	伸長・展葉パターンを異にする落葉広葉樹4種について、葉の形態的諸特性やシュート上の葉の分布及び分枝などの定量的計測をおこない、伸長成長や葉の生存様式のもつ生態的意義について論じた。その結果、これらの4種が生育期間を通じて、光合成産物という限られた資源を葉や枝にいかに関与して有効な空間を獲得しているかが明らかになった。また、それぞれの種の生育環境との関連についても論じた。
10. Chloroplasts in seeds and dark-grown seedlings of lotus (ハスの種子と暗条件下で成長した実生の葉緑体)	共	2003年	JOURNAL OF PLANT PHYSIOLOGY Vo. 160 Short Communication pp. 321~324	多くの高等植物の乾燥種子には葉緑体ではなくエチオプラストがある。ここではハスの乾燥種子のシュートに若い葉緑体があり、暗黒下でも発芽中に成熟した葉緑体になることを示した。また、葉緑体と葉緑体結合タンパクCPIとLHCPを含んでいた。ハスの葉緑体形成の特徴は生育地と結びついた適応戦略を示唆した。(共同研究につき担当部分抽出不可)共同執筆者:丑丸敬史、長谷川敬展、天野豊巳、片山雅男、田中滋康、辻英夫。
11. Restoration of floating mat bog vegetation after eutrophication damages by improving water quality in a small pond	共	2010年3月	The Japanese Society of Limnology	京都市北区にある深泥池の浮島高層湿原が富栄養化によるダメージを受けた後、池の水質の改善によってどの程度回復したかを1980年と2006年の植生調査を比較検討した。共同執筆者:辻野亮、藤田昇、片山雅男他。
12. 保育・教育にとつての里山の教育効果—里山の自然と生活から子ども達が学ぶこと—	単	2017年3月	夙川学院短期大学研究紀要第44号 (114頁)	里地里山環境の本来持っている機能を持続的に発揮させながら、子どもたちの発達に効果的な教育・保育活動について検討した。教育・保育活動の特徴と里山の特徴のマッチングを行った結果、里山の多様な動植物の世界が子どもたちに多くの刺激をもたらし、教育・保育上の効果が高いと考えられた。また、個々の里山活動と子どもの保育・遊び・学習との関連性を検討した。これらを基に、保育活動を維持・発展できるような里山づくりを提案した。(pp:82~91)
13. 教員免許状更新講習「緑を守る!からはじめるeco教育」の実践報告(I)園庭や校庭の植物的自然を生かした生活科教育や理科教育への取り組みと環境教育の実現	単	2017年3月	夙川学院短期大学教育実践研究紀要 第10号 (112頁)	理科や生活科の授業で、自然や環境をどのように捉え、子ども達の指導にあたるのかを現役の教員に向けて指導した実践報告。自然や環境に関して教育現場で生じている問題点を事前アンケートで把握し、教員が自信を持って教育現場に立てるような教材研究や指導方法を紹介した。また、幼少期における自然体験がその後の理科教育や環境教育の理解にいかに関与しているかを述べた後、園庭や校庭の身近な自然を授業に取り込む方法を実地で指導した。(pp:3~11)
14. 生活科の実践的教材としての昆虫の育ち方カードに関する研究	単	2018年3月	夙川学院短期大学教育実践研究紀要 第12号 (100頁)	生活科の授業で観察・発見した昆虫の生活をもとに昆虫の育ち方カードを試作した。そのカードをゲームとして子どもたちが遊ぶことによって、授業外でも自主的な振り返りが行われ、その繰り返しの中で新たな気づきが誘発されることを目指したものである。本稿では、カードを作成するにあたって、種の選定をいかに行うかを検討したのち、10種の代表的な昆虫について4つの発育段階のカードを作成した。これを生活科教育法の受講生を対象に試行し、その教育効果および改善点の検討を行った(pp:74~87)

15. 童謡・唱歌を用いた生活科の合科的な指導法について 一歌によって植物や動物、人の暮らしを学ぶ	単	2018年3月	夙川学院短期大学研究紀要第45号 (142頁)	童謡・唱歌・抒情歌は身の回りの事柄を題材にしたものが多いため、生活科の内容と密接な関係を持っている。本稿では自然を学ぶための歌として、播種や予祝に関して「猿蟹合戦」を、ドングリの重力散布と動物散布については「どんぐりころころ」を、水散布種子に関しては「椰子の実」を例に挙げて解説した。昆虫に関しては「赤とんぼ」の歌から、アキアカネの生態から養蚕や子守奉公などの生活までを解説した。人の暮らしぶりに関しては「村の鍛冶屋」を取り上げ、地域で暮らす人と人とのつながりや野鍛冶の物づくりに取り組む姿勢を理解させる教材としての重要性を示した。
16. 保育者のためのコンピュータ教育(1)画像の表現(1)ビットマップ画像の学習	単	2019年3月	夙川学院短期大学教育実践研究紀要 第13号(68)	(pp:9~20)
17. 保育内容・環境における数と量の取り扱いの指導	単	2019年3月	夙川学院短期大学教育実践研究紀要 第13号(68)	(pp. 21-32)
18. 教育におけるICT活用について(1) -ICT教育の変遷-	単	2019年3月	夙川学院短期大学研究紀要第46号 (142頁)	(pp.3-15)
(その他)				
[研究ノート等]				
1. 第2回自然環境保全基礎調査(京都府) 特定植物群落調査報告書	共	1979年3月	京都府衛生部公害対策室 B5. p. 154	環境庁の委託によりおこなった調査報告書。京都府内の学術上貴重な植物群落、保護を必要とする個体群や植物群落等を調査したもの。貴重なものや地域の植生を代表する植生を中心に、京都府の植生をかたよりなく調査した。合計83ヶ所を収録。植生調査を担当した(pp. 28~29, pp. 73~76, pp. 85~86, pp. 130~135)。共同執筆者:田端英雄、村田 源、藤田昇、角野康郎、土屋和三、片山雅男、津津哲光。
2. 京都の木 -歴史の中の巨樹銘木-	共	1986年10月	京都市文化財ブックス 第1集 B5. p. 82 京都市文化観光局文化観光部文化財保護課	1982年京都市文化財保護条例の制定に伴い京都市内に残る巨樹名木を調査し、その多くのものが京都市天然記念物指定・登録された。その調査報告書。現地調査を担当した。共同執筆者:北村四郎、高田研一、片山雅男、蒔田明史、小野健吉。
3. 第3回自然環境保全基礎調査 追加調査・追跡調査(京都府) 特定植物群落調査報告書	共	1988年3月	環境庁自然保護局 B5. p. 105	第2回調査の際に選定された83ヶ所全群落のその後の状況と第2回調査以降あらたに発見された貴重な群落3ヶ所の生育状況調査の報告書。植生調査を担当した(pp. 11~14)。共同執筆者:田端英雄、小山博滋、村田 源、藤田 昇、片山雅男。
4. 第3回自然環境保全基礎調査 生育状況調査(京都府) 特定植物群落調査報告書	共	1988年3月	環境庁自然保護局 B5. p. 125	第2回調査の際に選定された83ヶ所全群落のうち京都府の代表的な14群落を対象におこなった生育状況調査の報告書。植生調査を担当した(pp. 7~54, pp. 106~124)。共同執筆者:田端英雄、小山博滋、村田 源、藤田 昇、片山雅男。
5. 登山実習 -附属演習林野外実習体験記-	単	1992年2月 1994年2月	自然と教育 第5号 pp. 14~19 奈良教育大学附属農場・演習林 奈良教育大学自然環境教育センターの自然 pp. 69~73 に再録	奈良教育大学附属演習林の概況と野外実習の紹介。標高差700mもある演習林には暖温帯上部のカシ林、中間温帯のイヌブナ林から冷温帯ブナ林までが広がっており、尾根のモミ、シヤクナゲ群落など多様な植生が分布している。これらの群落や特徴的な植物を紹介するとともに、これを生かした野外実習を紹介した。また、学生実習のあり方についても述べた。このため、『奈良教育大学自然環境教育センターの自然』の中に再録された。

6. An endangered peat bog Mizorogaike 深泥池	共	1993年5月	深泥池を守る会 B5. p. 12	ラムサール条約締結国際会場(釧路)で配布するために作成した深泥池の紹介冊子で、深泥池の概要と歴史、植物、植生の部分を担当した(pp2~7)。池の中央部には高層湿原の発達した浮島があり、その生物群集は貴重な自然遺産であり保護活動がなされていることを述べるとともに、堆積物から復元された池の歴史や出現種、浮島上の植生に見られる再生複合体について述べた。また、使用目的を考慮して英文と和文を併記した。
7. フェノロジーに関するモデル 学入門に参加して	単	1993年7月	フェノロジー研究 No. 21 pp. 7~8	フェノロジー(生物季節学)に見られる現象について、いくつかの数理モデルが提唱された。これに関して、フィールドでの観察をもとに、いくつかの事例を挙げながら、その適否を論じるとともに、今後の問題点を指摘した。
8. 自然を紹介する教材学習 ニュース	単 (③は監 修)	1993年4月~ 2004年8月 ①1993年4月 ②1993年8月 ③1994年6月 ④2003年9月 ⑤2004年8月	世界通信教材学習ニュース ①No. 1449(1) ②No. 1459(1) ③No. 1489(1) ④No. 1771(1) ⑤No. 1800(1) 世界通信社	日本や世界各地の自然を紹介し、自然の美しさ、神秘性、生育地や生態的特徴を解説したもの。小学生高学年向けの教材学習ニュースで、小学校に掲示される。①深泥池の植物たち②高山植物の宝庫・礼文島、③モンゴルの大草原に咲く花々、④八ヶ岳の植物、⑤北海道、斜里・以久科の原生花園を取り上げた。小学生に関心を持たせるため、写真を用いて、高度な内容を簡潔に平易な文章で解説した。
9. 深泥池	共	1994年3月	深泥池を守る会 B5. p. 16	京都市深泥池には高層湿原の発達した浮島があり、国の天然記念物に指定されている。道路の拡幅と池の保全に関して、人々に池の重要性を理解してもらうために、14万年の池の歴史や浮島高層湿原の現状を解説した。「浮島とミズゴケ湿原」(p. 3)「深泥池の案内」(pp. 6~13)の執筆、全体の作図と写真、取り纏めを担当した。共同執筆者: 田末 利治、小原 亮子、片山 雅男、村田 源、遠藤 彰、中堀 謙二、田端 英雄、野間 直彦。
10. 生きもの歳時記(連載)	単	1998年7月~ 2003年11月 ①1998年7月 ②2000年8月 ③2001年1月 ④2001年5月 ⑤2001年12月 ⑥2002年8月 ⑦2003年3月 ⑧2003年11月	みどりのニュースレター 生きもの歳時記 ①No. 62:p. 10 ②No. 87:p. 13 ③No. 92:p. 13 ④No. 96:p. 13 ⑤No. 103:p. 13 ⑥No. 111:p. 13 ⑦No. 118:p. 13 ⑧No. 126:p. 13 環境市民	季節の植物に関する連載。①ヒオウギ、②ホオズキ(酸漿・鬼灯)、③フクジュソウ(福寿草)、④カキツバタ(杜若)、⑤サザンカ(山茶花)、⑥サギソウ(鷺草)、⑦フキノトウ(蔦の蔓)、⑧秋を彩るイチョウについて記述した。取り上げた植物について、形態や進化、地理分布や生育環境など植物学的な面に加えて、名前の由来や年中行事、信仰などの文化・民俗学的な側面も紹介した。
11. エコミュージアム里山	単	2000年1月	ECO TODAY VOL. 19 シリーズ 地球の声 身近な自然の重要性第4回 pp. 2~3 リコー社会環境室	日本人の生活に深く関わってきた里山は、人々の生活様式の変化とともに忘れ去られ、放置されているものが多い。自然の特徴を生かしつつ、持続的利用を念頭に置いたかつての里山利用を紹介するとともに、放棄された現在の里山に見られる問題点を指摘し、農耕文化財としての里山の価値を説いた。
12. 身近にある危険な植物	単	2000年3月	EDUCATION TODAY (幼児教育研究所所報 平成11年度号) Vo. 11 pp. 1~4 付表: 主な有毒植物一覧 夙川学院短期大学 児童教育学科幼児研究所	有毒植物が身近な野生植物や園芸植物にみられることを述べるとともに、野外活動のリーダーや教育者、あるいは家庭でも有毒植物に対する知識が必要であることを示した。主要な有毒植物を症状別に整理した。また、有毒植物を系統的な目で捉え、有毒植物を多く含む科を紹介した。さらに、中毒が起こる経緯を実例で解説し、その取り扱い上の留意点を示した。最後に、主要な有毒植物について解説し、有毒植物の一覧表を作成した。
13. 七夕の木 梶の木	単	2002年6月1日	京都御苑ニュース No. 74 (1) 発行: 国民公園保存協会 京都御苑保存会 監修: 環境省京都御苑管理事務所	京都御苑を紹介する季刊ニュースで、東南アジア、太平洋諸島に分布するカジノキを取り上げた。特徴的な葉や花序・集合果について説明した後、クローン繁殖について述べた。また、樹皮を布に加工することから、日本では宮中で七夕の行事に用いられ、このため、京都御苑には特異的に生育していることを論じた。

14. 里山の過去・現在・未来 その可能性とこれから	単	2003年7月	みどりのニュースレター No. 122 環境最前線 pp. 2～3 環境市民	近年、持続可能な社会の模範として脚光を浴びている里山について、かつての森林利用のサイクルやその産物の利用状況を紹介します。現在に至るまでの里山の衰退過程と生物の消失を述べた。また、現在、各地でおこなわれている再生・保全活動と活動団体のネットワークを紹介した。さらに、21世紀における新しい取り組みの基本的理念を示し、バイオマス燃料やコジェネレーションなどを紹介し、21世紀の新しい里山利用を考えた。
15. おくゆかしいロウバイの花	単	2003年12月1日	京都御苑ニュース No. 80 (2) 発行: 国民公園保存協会 京都御苑保存会 監修: 環境省京都御苑管理事務所	京都御苑を紹介する季刊ニュースで、冬を彩る花について解説をおこなった。サザンカとツバキの枝葉と花の比較観察、ロウバイの花の構造と自家不和合成、果実と種子の形態などを説明した。
16. ようこそ木の実ワールドへ!	単	2004年9月1日	京都御苑ニュース No. 83 (2) 発行: 国民公園保存協会 京都御苑保存会 監修: 環境省京都御苑管理事務所	京都御苑を紹介する季刊ニュースで、秋の木の果の解説を行った。ドングリクのような殻付果、センダンの黄色い実、石鹸や追羽根の玉にされるムクロジの果実、イギリスやクロガネモチの赤い実、ナギやサネカズラの実について特徴や利用法を解説した。
17. みんな仲良く暮らしています ー維持管理による生物多様性の維持ー	単	2006年3月1日	京都御苑ニュース No. 89 (1) 発行: 国民公園保存協会 京都御苑保存会 監修: 環境省京都御苑管理事務所	京都御苑を紹介する季刊ニュースで、芝生の維持管理により草本種の移入がおこなわれ、このため、種の多様性が維持されていることを論じた。また、芝生地ではセイヨウタンポポよりもカンサイタンポポが多い理由をその生態的特性から説明した。この他、御苑の春を彩る草や樹木を紹介した。
18. 書評『葉の寿命の生態学 ー個葉から生態系へー』を読んだ	単	2006年3月	フェノロジー研究 No. 41 pp. 35～36 フェノロジー研究会	葉の寿命に関する総説についての書評。著者の退官記念講演会の概要と研究の総括としての本書の出版に触れた後、フェノロジー研究会発足の経緯を紹介した。本書の各項目についての要約をおこない、その捉え方について評した。
19. 地球温暖化のためか近頃 とっても元気です ーサルスベリ (百日紅)の花のトリックー	単	2006年6月1日	京都御苑ニュース No. 90 (2) 発行: 国民公園保存協会 京都御苑保存会 監修: 環境省京都御苑管理事務所	京都御苑を紹介する季刊ニュースで、夏に象徴的なサルスベリの生態を述べたのち、花と花序の形態や開花期について解説した。
20. 京都御苑の自然 観察ガイドブック	共	2007年9月	国民公園協会京都御苑 B5変型判. p. 38	京都御苑の自然を紹介するガイドブック。自然観察の方法、京都御苑の樹木の概観と主要樹木の観察ポイント、草本の概観と主要草本の観察ポイントについて解説した。(pp. 4～14)
21. 牛若丸も小野小町も眺めて いたモミとカヤ	単	2007年12月1日	京都御苑ニュース No. 96 (1) 発行: 国民公園保存協会 京都御苑保存会 監修: 環境省京都御苑管理事務所	京都御苑を紹介する季刊ニュースで、針葉樹の近縁種であるモミとツガ、カヤについて、天然分布、葉や球果の形態比較、伝説・祭祀にまつわる事柄や利用法について述べた。
22. 紅葉賀 王朝の昔に想いを はせて	単	2008年9月1日	京都御苑ニュース No. 99 (2) 発行: 国民公園協会京都御苑 監修: 環境省京都御苑管理事務所	源氏物語千年紀にあたって、清涼殿での紅葉賀を紹介し、モミジとカエデの名の由来を述べた。また、京都御苑に見られるカエデのうち、形態の類似したイロハモミジ、オオモミジ、ヤマモミジについて比較・考察した。
23. 「♪さくらさくら♪は何桜」 ー歌い継がれていくためにー	単	2010年3月1日	京都御苑ニュース No. 105 (1) 発行: 国民公園協会京都御苑 監修: 環境省京都御苑管理事務所	童謡さくらや昔話花咲爺さんのサクラについて、考察を加えるとともにサクラの名の由来や農耕儀礼としての花見やサクラの信仰について述べた。また、御苑の中の桜について紹介を行った。

24. お気に入りの木を見つけてみては？	単	2011年5月1日	月刊京都 5月号 P6 発行:白川書院	京都御苑の自然を紹介する特集記事。このうち、植物を担当し、巨樹やサクラ類の解説と七夕に使われたカジノキ、センダンのコブ病、クロマツの樹洞に生えた桜松の紹介をした。
25. 植物のエコな冬の暮らし方—御苑の樹木のさまざまな冬芽たち—	単	2011年12月1日	京都御苑ニュース No.112 (2) 発行:国民公園協会京都御苑 監修:環境省京都御苑管理事務所	京都御苑に見られる樹木の冬芽の冬越し戦略を紹介した。ハクモクレンは花芽を厚い毛で、葉芽は薄い毛覆い、ドングリやサクラの仲間は数十枚の芽鱗を重ね着する。トチノキは芽鱗を粘液で多量に寒風を防ぐが、アジサイは裸芽と呼ばれ普通の葉を小さくするだけで冬越しをしている。これらについて、その生態的
26. 十二単も洗ったのでしょうか	単	2013年9月1日	京都御苑ニュース No.119 (2) 発行:国民公園協会京都御苑 監修:環境省京都御苑管理事務所	ムクロジの果実の構造を説明し、果皮の笛や石鹸としての利用、種子の羽子板の羽根の玉としての利用を紹介した。また、ドングリ類の殻斗果の比較考察した。また、ニシキギやハゼノキの紅葉、カツラの落葉の香りについても解説した。
27. 「蝉しぐれを聞きながら・ちょっと変わった夏の花を愛でてみよう」	単	2015年6月1日	京都御苑ニュース No.126 (1) 発行:国民公園協会京都御苑 監修:環境省京都御苑管理事務所	京都御苑の夏の植物について紹介した。夏の乾燥に耐える葉をもつタイサンボクは、原始的な特徴を示す大きな花をつけ、花の進化の学習に適していることを述べた。また、同じ原始的な植物でも特異的な花の形態を示すセンリョウも紹介した。梅雨の昆虫の飛翔の少ない時期に高い結実量を獲得するためのガクアジサイの巧妙な開花戦略について論じた。
28. ケヤキ	単	2015年7月15日	市民しんぶん西京区版にしきょう 自然がいっぱい！ 洛西ニュータウン通信1 発行:京都市西京区役所	洛西ニュータウンの自然の豊かさや生物多様性を紹介する連載記事。象徴的な街路樹であるケヤキの名の由来や季節的な変化を述べるとともに、特徴的な樹形や葉形について述べた。
29. クズ	単	2015年9月15日	市民しんぶん西京区版にしきょう 自然がいっぱい！ 洛西ニュータウン通信2 発行:京都市西京区役所	洛西ニュータウンの自然の豊かさや生物多様性を紹介する連載記事。秋の七草の一つクズを取り上げ、葛粉の製法と大型の蝶形花、三出複葉や害草としての被害を述べた。
30. ナンキンハゼ	単	2015年11月15日	市民しんぶん西京区版にしきょう 自然がいっぱい！ 洛西ニュータウン 通信3 発行:京都市西京区役所	洛西ニュータウンの自然の豊かさや生物多様性を紹介する連載記事。中国原産のナンキンハゼを取り上げ、紅葉の美しさと蟻に覆われた白色種子が鳥散布で分布域を広げていることを紹介した。
31. クロガネモチ	単	2016年1月15日	市民しんぶん西京区版にしきょう 自然がいっぱい！ 洛西ニュータウン 通信4 発行:京都市西京区役所	洛西ニュータウンの自然の豊かさや生物多様性を紹介する連載記事。赤い実が美しく、民家にもよく植えられるクロガネモチの名の由来を述べた後、雌雄異株で、接木により雌株が流布していることを解説した。
32. ツバキ	単	2016年3月15日	市民しんぶん西京区版にしきょう 自然がいっぱい！ 洛西ニュータウン 通信5 発行:京都市西京区役所	洛西ニュータウンの自然の豊かさや生物多様性を紹介する連載記事。照葉樹林の代表的樹木であるツバキを取り上げ、名の由来や花の合着、鳥による花粉の媒介、椿油や灰としての利用を紹介した。
33. ヒトツバタゴ	単	2016年5月15日	市民しんぶん西京区版にしきょう 自然がいっぱい！ 洛西ニュータウン 通信6 発行:京都市西京区役所	洛西ニュータウンの自然の豊かさや生物多様性を紹介する連載記事。中国、台湾、朝鮮と対馬、木曾川流域に隔離分布する珍しい落葉樹のヒトツバタゴ(ナンジャモンジャノキ)を取り上げ、名の由来や開花状況、秋の黄葉と結実を紹介した。
34. 生き物たちのしたたかな駆け引き	単	2016年6月1日	京都御苑ニュース No.130 PP. 2-3 発行:国民公園協会京都御苑 監修:環境省京都御苑管理事務所	明治10年から苑地化がすすめられた京都御苑にはドングリの仲間を筆頭に全国各地、時にはタイサンボクやメタセコイアなどのように海外から集められた樹木も植栽された。これらの樹木を紹介するとともに、それらを餌や住処として生息するチョッキリの仲間やアゲハの生態について解説した。また、苑内の落葉が微生物によって分解されていく過程も紹介した。
35. ヒシ	単	2016年8月15日	市民しんぶん西京区版にしきょう 自然がいっぱい！ 洛西ニュータウン 通信7 発行:京都市西京区役所	洛西ニュータウンの自然の豊かさや生物多様性を紹介する連載記事。池沼に生育する一年生水草ヒシについて浮葉植物としての発芽・生育特性と浮葉の形態について解説した。また開花・結実についても紹介

36. コウヤボウキ	単	2016年10月15日	市民しんぶん西京区版にしきょう 自然がいっぱい！ 洛西ニュータウン 通信8 発行:京都市西京区役所	洛西ニュータウンの自然の豊かさや生物多様性を紹介する連載記事。キク科唯一の落葉小低木であるコウヤボウキについて、当年枝と二年枝の形態比較と開花習性について解説し、高山野での簪としての利用
37. センダン	単	2016年12月15日	市民しんぶん西京区版にしきょう 自然がいっぱい！ 洛西ニュータウン 通信9 発行:京都市西京区役所	洛西ニュータウンの自然の豊かさや生物多様性を紹介する連載記事。落葉高木センダンは、10～12月頃に黄褐色の実を稔らせるのに因んで、「千団」と呼ばれた。邪気を払うとされ、古くは処刑された首を晒したことを紹介した。
38. ロウバイ	単	2017年2月15日	市民しんぶん西京区版にしきょう 自然がいっぱい！ 洛西ニュータウン 通信10 発行:京都市西京区役所	洛西ニュータウンの自然の豊かさや生物多様性を紹介する連載記事。中国原産の落葉低木ロウバイは、ロウ細工のような花弁と芳香が特徴的な花をしていて、長卵形のこげ茶色の偽果の中に扁平な黒い種子が入っていることなどを解説した。
39. モウソウチク	単	2017年4月15日	市民しんぶん西京区版にしきょう 自然がいっぱい！ 洛西ニュータウン 通信11 発行:京都市西京区役所	洛西ニュータウンの自然の豊かさや生物多様性を紹介する連載記事。中国江南原産のモウソウチクについて、その名は中国二十四孝の孟宗にちなむことや渡来経路を述べた。また、京都の盆栽培の方法について紹介した。
40. ヤマボウシ	単	2017年6月15日	市民しんぶん西京区版にしきょう 自然がいっぱい！ 洛西ニュータウン 通信12 発行:京都市西京区役所	洛西ニュータウンの自然の豊かさや生物多様性を紹介する連載記事。京都では北山に多く。初夏、白い総苞に囲まれて咲く花を白い頭巾の僧兵に見立てて名がついたことや、9月頃に熟す赤くて丸い果実は甘くて食べられることなどを紹介した。
41. アオギリ	単	2017年8月15日	市民しんぶん西京区版にしきょう 自然がいっぱい！ 洛西ニュータウン 通信13 発行:京都市西京区役所	洛西ニュータウンの自然の豊かさや生物多様性を紹介する連載記事。庭園樹や街路樹として植栽されるアオギリの名の由来と特徴的な果実の構造について解説した。
42. そっと草木に問いかけてみましょう 素敵な答えが返ってきます！	単	2017年9月1日	京都御苑ニュース No.135 PP. 2-3 発行:国民公園協会京都御苑 監修:環境省京都御苑管理事務所	明治初頭、御所周辺の公家屋敷を取り壊して造られた京都御苑には全国から集められた樹木が植栽された。これらの樹木のいくつかについてその原産地を紹介した。また、ツバキ科やブナ科、バラ科などの近縁種の観察のポイントを解説するとともに、御苑内での生育環境についても述べた。また、イロハモミジを例に木々の葉の紅葉のメカニズムについても解説した。
43. スダジイ	単	2017年10月15日	市民しんぶん西京区版にしきょう 自然がいっぱい！ 洛西ニュータウン 通信14 発行:京都市西京区役所	洛西ニュータウンの自然の豊かさや生物多様性を紹介する連載記事。照葉樹林の極相樹種であるスダジイを取り上げ、生育地や開花と結実、食用としての果実の利用を紹介した。
44. サザンカ	単	2017年12月15日	市民しんぶん西京区版にしきょう 自然がいっぱい！ 洛西ニュータウン 通信15 発行:京都市西京区役所	洛西ニュータウンの自然の豊かさや生物多様性を紹介する連載記事。初冬に咲くサザンカを取り上げ、野生のサザンカの特徴とツバキとの交配で作られた多数の園芸品種の特徴を述べた。また、ツバキとの違い
45. シナマンサク	単	2018年2月15日	市民しんぶん西京区版にしきょう 自然がいっぱい！ 洛西ニュータウン 通信16 発行:京都市西京区役所	洛西ニュータウンの自然の豊かさや生物多様性を紹介する連載記事。中国中部原産のシナマンサクを取り上げた。名前の由来や開花時期や状況のマンサクとの違いを紹介するとともに特異的な花の構造について
46. ヤマザクラ	単	2018年4月15日	市民しんぶん西京区版にしきょう 自然がいっぱい！ 洛西ニュータウン 通信17 発行:京都市西京区役所	洛西ニュータウンの自然の豊かさや生物多様性を紹介する連載記事。日本の野生の桜の代表種であり、和歌にも多く詠まれたヤマザクラを紹介した。寿命が長く大木になり、赤色を帯びた葉と白い花が同時に開くことで、ソメイヨシノと区別できること。樹皮は樺細工に、材は堅く浮世絵の版木に用いられることなどを紹介
[口頭発表]				
1. 暖温帯二次林のフェノロジー(I)コナラ林構成木本種の開舒と伸長	単	1982年3月	日本生態学会 第29回大会 大阪市立大学 日本生態学会 第29回大会講演要旨集 p. 136	暖温帯落葉広葉樹二次林において、構成木本種33種について、新条の開舒、伸長量、展葉数、落葉数を追跡調査した。開舒の時期が低木層で早いこと、常緑種が遅れること、伸長パターンは林内では急成長型と中間型が見られたこと、落葉の様式が展葉の様式と関係すること、常緑樹の落葉が春に起こることなどが明らかになった。

2. クスノキ科におけるShootの形態と伸長・展葉様式について	単	1985年3月	日本生態学会 第32回大会 広島大学 日本生態学会第32回大会 講演要旨集 p. 214	樹木の新条における形態形成の過程は、種の生活様式を明らかにする点で重要である。この点で多様な新条の形態を持つクスノキ科15種について、芽鱗数、伸長中の新条が芽鱗に覆われている期間、展葉数、伸長量、側枝の伸長量等の測定をおこなった。この結果、4タイプの新条の形態形成過程が認められ、新条の形態のもつ意味が明らかになった。
3. 大阪層群の土壌と植生	共	1985年3月	日本生態学会 第32回大会 広島大学 日本生態学会第32回大会 講演要旨集 p. 321	京阪奈丘陵を構成する大阪層群は礫層、砂礫層、砂層、粘土層が互層をなしている。その上に成立した植生は地質との間に明瞭な関係があり、礫層上にアカマツ林、砂層上にコナラ林、粘土層上にタケ林、粘土層上の湿地にハンノキ林がみられる。土壌の物理的・化学的分析の結果、液相と気相、礫含量、保水量等が植生型と関係することが明らかになった。植生調査を担当した。共同発表者：田端英雄、岡川長郎、片山雅男、横山卓雄。
4. 暖温帯林のフェノロジー II. 湿地林構成木本種の開舒・伸長と落葉について	単	1986年4月	日本生態学会 第33回大会 京都大学 日本生態学会第33回大会 講演要旨集 p. 14	生育地の違いにより、種の生育期間や伸長・展葉様式がどのように影響されるかを谷筋下部ハンノキ疎生湿地林と隣接するコナラ林とで比較した。その結果、湿地林では開舒、展葉、伸長開始期が遅れ、落葉樹の落葉期は逆に湿地林が早かった。このため、生育期間では約1ヶ月短いことが明らかになった。新条の伸長期間は湿地林に長いものが見られ、高木性樹種で違いが著しく、短い生育期間を有効に利用していることが明らかとなった。
5. 輝緑凝灰岩と頁岩の上に見られる土壌と植生	共	1986年4月	日本生態学会 第33回大会 京都大学 日本生態学会第33回大会 講演要旨集 p. 55	隣接して地質と植生が異なる地域が京都府北部にあり、共に神社林として、植生と土壌がよく保存されている。植生調査と土壌の物理・化学分析の結果、輝緑凝灰岩地域は急峻な地形で常緑カシ林が、一方の頁岩地域は緩やかな地形でシイ林が発達していた。両者とも透水性、三相分布等は類似していたが、シイ林は易有効水が多く、カシ林は難有効水が多かった。植生調査を担当した。共同発表者：田端英雄、片山雅男、岡川長郎。
6. ミズゴケ類の消長からみた深泥池浮島の遷移と水質	共	1986年4月	日本生態学会 第33回大会 京都大学 日本生態学会第33回大会 講演要旨集 p. 66	深泥池の浮島上には、ビュルテ、シュレンケという高層湿原特有の微地形が存在する。浮島上のpHやCa ⁺⁺ 濃度、電気伝導度の測定とミズゴケ類の生育調査の結果、浮島の中央部は酸性の水質が保たれ、ビュルテの新生が見られるが、冬期、pH7前後の開水域の水が流入する周辺部でビュルテの崩壊が進行していた。ミズゴケ類の分布調査、生育実験を担当した。共同発表者：藤田昇、片山雅男、原口昭、松井淳、土屋和三、田端英雄。
7. コバノミツバツツジの発育過程の進行に伴うshootの伸長・展葉・落葉様式の変化	単	1988年4月	日本生態学会 第35回大会 東北大学 日本生態学会第35回大会 講演要旨集 p. 208	コバノミツバツツジの発育過程を新条の伸長・展葉・落葉現象から考察した。匍匐段階では頂枝、側枝とも機能的分化が少なかった。上伸段階初期では新たに加わった主軸の頂枝が長期間伸長、展葉を続け、機能の分化が見られた。上伸段階後期では添伸成長がみられ、頂枝の伸長、展葉の期間が短くなった。発育過程の進行に伴い、前段階の特徴を残しながら、新しい段階を特徴づける新条が付け加わっていくことを明らかにした。
8. 暖温帯二次林構成樹種の葉の生存様式について	単	1989年8月	日本生態学会 第36回大会シンポジウム『葉の生存期間』 釧路公立大学 日本生態学会第36回大会 講演要旨集 p. 87	葉の生存様式は生育期間の利用様式として重要である。そこで、コナラ林の主要構成木本種について葉の生存様式を比較し、生育形、落葉習性、新条の形態、伸長様式との関係からその生態的意義を考察した。落葉性樹種では展葉日と落葉日は温度の他に葉位や新条の形態と関係することを示した。常緑性樹種では開舒日が遅れると共に越冬葉の役割についても言及した。半落葉性樹種では形態と寿命が結びついてることを示した。

9. 京都市深泥池浮島湿原の環境とその再生・遷移	共	1989年8月	日本生態学会 第36回大会シンポジウム『日本の湿原の遷移』 釧路公立大学 日本生態学会第36回大会講演要旨集 p. 136	深泥池の浮島にはミズゴケ湿原が発達している。冬の沈下が小さく、pHも5以下の中央部では、高層湿原の再生複合体がみられるが、沈下が大きく、開水域の水の流入でpHが6台になる部分では退行遷移し、ミツガシワ純群落になっていた。アシ部は通年冠水し、低層湿原化していた。浮島の植生分布がミズゴケ類の消長に影響する水質と水位によることを示した。植生調査と水位測定を担当。共同発表者：藤田昇、片山雅男、原口昭。
10. 京都市深泥池浮島高層湿原の再生・遷移	共	1991年4月	日本生態学会 第38回大会 奈良女子大学 日本生態学会第38回大会講演要旨集 p. 178	深泥池浮島にはミズゴケ類の生育する高層湿原的部分と低層湿原的部分、ミツガシワが広がるシュレンケなどが見られる。ここでは浮島の高層湿原の再生や低層湿原への退行遷移と浮島の水位、水質との関係を明らかにするため、方形区調査をし、主成分分析を用いて植生の序列づけをした。この結果、再生遷移過程を反映した2つの序列が明らかになった。植生調査、水位、水質の調査を担当した。共同発表者：藤田昇、片山雅男、八田修三。
11. 井の口山の台杉と北山の自然	単	1992年7月11日	北山の峠と自然を考えるシンポジウム 主催：北山の自然と文化をまもる会 京都教育文化センター(京都市)	京都の北山地域はクリ、ナラ類、シデ類など落葉広葉樹林からなる中間温帯林が広がっている。この林はシイやブナなどの優占種を欠いているため、遺存種など多くの種が共存している。本講演では北山地域の自然植生と代表的な植物の特徴を解説するとともに、日本海側の尾根筋を中心に生育する天然伏条台杉(アシウスギ)の生育特性について、京都市の天然記念物に指定されている井の口山に群生する台杉を例に論じた。
12. 利尻島の自然と植物	単	1992年7月21日	利尻島塾 カルチャーパーク自然教室 主催：利尻富士町教育委員会 カルチャーセンター・リップ館(北海道利尻富士町)	利尻島の地質と植生分布との関係を解説し、主要な植生についての特徴を述べた。また、姫沼の浮島の貴重性とその取り扱い上の留意点など、その保護・管理面等についての提言もおこなった。さらに、礼文島の植生を概観するとともに、本州の高山植物を紹介し、植物の水平分布と垂直分布についても解説した。
13. 斜里海岸林の植物について	単	1992年7月25日	講演会「森とシマリスたち」 主催：シマリスとミズナラの森を見守る会 後援：斜里町立知床博物館 斜里町立知床博物館(北海道斜里町)	シマリスとミズナラの森を見守る会の助成金による調査についての報告会。斜里海岸の古砂丘に発達するミズナラ林とトドマツ林の特徴と構造についての調査報告をおこなった。斜里海岸の植生分布と汀線から内陸部への植生の推移について述べた後、ミズナラ林の森林構造とその特徴、主要植物の生態について報告した。また、乾燥しつつあるガツタンコ湿原の生態学的な位置付けと保存についての提言をもおこ
14. 西表島の植物たち - 亜熱帯の植物はなぜ貴重なのか特徴と現状 -	単	1992年11月28日	第2回シンポジウム「西表を考えるⅡ」 共催：西表野生基金・イリュウタイの会 日本動物植物専門学院(京都市)	西表島の植生分布を地質との関係を中心にして論じた。まず、西表島の気候条件にふれ、西に傾斜した地形と地質についての特徴を述べた。次いで、西表島が日華区系と東南アジア区系の干渉地帯にあることで種の多様性の高いことを指摘した。照葉樹林と湿地林、海浜林、マングローブ林、照葉樹二次林、草原、竹林、松林、耕作地についてその立地と構造や特性を述べ、保全上の留意点を挙げた。また、固有種や準固有種を紹介した。
15. 美山町・芦生の森(ブナ原生林)	共	1995年6月11日・10月23日	同志社大学公開講座(サンワみどり基金寄付講座)「ヒトと環境」『森と水』 フィールドワーク サンワみどり基金寄付講座報告書 pp. 115~117. pp. 119~121.	京都府美山町にある京都大学芦生演習林でおこなった土壌や森林の仕組みと植物の生活を把握するためのフィールドワーク。このうち、植物を担当し、暖温帯の京都市内から冷温帯の芦生への植生の変化や安曇川のマダケ林の利用、芦生の地形・地質と植生の関係、アシウスギやブナ林と溪畦林の構造、森林の土壌、芦生での危険な動植物とその対処法、木地師の森林利用などについて解説した。鈴木博之(地質)・片山 雅男(植物)。

16. 雑木林の植物たち ー残したい身近な自然ー	単	1995年11月23日	奈良県立博物館をつくる会 第6回講演会「滅びゆく里山の自然」 主催：奈良県立博物館をつくる会 奈良教育大学教育実践指導センター(奈良市) 奈良奈良県立博物館をつくる会会報 第11号 pp. 1～3	都市近郊林として利用され続けてきた里山について、主要構成要素である、雑木林、田、畑、竹林、植林地等を地形や経済的側面から位置付けた。また、特に中心となるアカマツ林とコナラ林の立地、構造、優占種の生活史を取り上げ、里山の過去の利用状況を紹介した。また、放置され荒廃している現状とその原因を挙げ、保全への提言をおこなった。
17. 水と緑の最前線「山村と森林」を考える	単	1996年2月12日	シンポジウム 水と緑の最前線「山村と森林」を考える 共催：北山と鴨川の自然をはぐくむ会・京都市林業研究会 後援：京都・水と緑をまもる連絡会、京都府林業研究グループ連絡協議会 京大大会館(京都市)	米山俊直先生の「山村文化の意味」の講演の後、パネラーの一人として講演した。山村への憧れと現実の生活、都会生活とのギャップ、過疎化について述べた後、北山地域の植物の特徴的な利用を紹介した。また、持続的利用可能なものとしての伐採法、林業振興策、エコツアー等について提言し、動植物の棲み場所として望ましい森林の姿についても言及した。
18. 海岸林の植物	単	1996年8月29日	自然史講座特別講演会 主催：斜里町立知床博物館 斜里町立知床博物館(北海道斜里町)	斜里海岸に見られる植生の帯状分布について、汀線から古砂丘までを対象としたベルトランセクト調査の結果とミズナラ林の構造について発表し、植生と微地形との対応を示した。また、これらの植生は水分環境や飛砂の影響をうけるとともに、海風に強く左右されていることや道路による分断の影響の大きいことを示した。さらに、斜里平野に残存する湿原や谷地まなこの貴重性を述べ、その保存についての提言をおこなった。
19. 身近な自然と共に生きるまち ー里山とまちなかの緑の復元ー	単	2000年3月14日	長岡京市エコシティ連続講座 「いっしょにつくろう環境のまち長岡京」 主催：長岡京市・ながおかしょう市民会議 長岡京市市民会館(京都市府長岡京市)	持続可能な地域社会の創造・環境まちづくりをめざした長岡京環境基本計画のビジョン策定のための連続講座でアドバイスと提言を行なった。長岡京市と周辺地域の地形・地質・水文の特徴を述べ、それと対応させて、西山地域の落葉広葉樹林、丘陵地域の竹林、低地部の湿地の特性と問題点を指摘した。また、都市部の緑地の現状とかつての長岡京市の姿も紹介し、自然を生かしたまちづくりへの指針と提案を示した。
20. 保育環境を考える	単	第1回 2000年9月16日 第2回 2000年11月18日 第3回 2000年12月16日	グループ研究会 〈保育環境を考える〉 主催：京都市右京区保育士会 山の内保育園・仁和寺(京都市) 平成12年度 まとめ pp. 15～33 右京区保育士会	第1回「環境汚染と私たちの生活」では近年の環境問題が日常生活に起因することを述べ、子どもたちへの保護対策を提案した。第2回「錦秋の世界を歩く」では、自然を題材とした野外保育の可能性を述べ、生き物としての植物の観察方法を解説した。また、想像力育成のための植物クラブも紹介した。第3回「園内の自然環境を作るには」では幼児体験の重要性を論じた後、園庭の構成要素や自然の活動について述べた。
21. 京都市の植生 ービオトープの創出にあたってー	単	2002年4月21日	主催：京エコロジーセンター(京都市環境保全活動センター) 京エコロジーセンター(京都市)	京(みやこ)エコロジーセンターオープニング記念講演。京都市域の植物的自然の特性を概観した後、主要な植物群集とその構成種を紹介し、保全・再生への提言を行なった。また、センターの建設時に敷地内、建物内部、屋上に創出するビオトープの設計を担当したが、そのテーマとして、京都市域の代表的自然の再現をめざしたことやビオトープとしての留意点を述べ、その後、ビオトープの各区画の構成についても
22. 登山者のための自然観察入門～植物編～	単	2002年9月16日	第6回中央登山学校・ハイキングリーダー学校 in 香川 主催：日本勤労者山岳連盟 香川県青年センター(高松市) 講演資料集 pp. 61～72 第6回中央登山学校・ハイキングリーダー学校 in 香川報告集 pp. 16～17. p. 21	登山での植物観察を行なう上で必要な知識と技術について述べた。植物名や知識の効用に始まって、植物の構造と機能、生活史、生育形や種子散布様式を山で目にする植物を例に解説した。また、花や果実の進化についても論じた。後半は、日本の自然環境と植生の特徴を述べ、その生態学的な特徴を冷温帯、亜寒帯、高山帯植生を中心にスライドを交えて論じた。同内容の講演を2003年4月26日、2004年9月20日にも行なった。
		2003年4月26日	兵庫勤労者山岳連盟講演会 主催：兵庫勤労者山岳連盟 神戸市勤労会館(神戸市)	

		2004年9月20日	第7回中央登山学校・ハイキングリーダー学校 in 奈良 主催：日本勤労者山岳連盟 奈良ユースホステル(奈良市)講演資料集 pp. 81～92 第7回中央登山学校・ハイキングリーダー学校 in 奈良	
23. 暖温帯落葉広葉樹種のシュートの伸長・展葉様式と形態的特徴について	単	2003年3月21日	日本生態学会 第50回大会 つくば国際会議場(つくば市) 第50回日本生態学会大会講演要旨集pp. 194	当年シュートの形成過程を物質生産の場である空間の獲得という視点で捉え、シュートの着葉位置や葉長、葉幅、葉面積、乾葉重などの形態的特性からシュートの伸長・展葉様式を光合成産物との関係で検討した。
24. 自然といかに付き合うか	単	2003年3月27日	へきなん市民環境会議 主催：碧南市 碧南市市役所(愛知県碧南市)	地域の再生を目指した市民環境会議での発表。20世紀の自然破壊と人工自然に対して21世紀が自然の保全・再生の世紀であることを述べた。また、自然再生の各地の実例を挙げてその問題点と保全・再生のための基本理念を述べた。とりわけ、里山や水田環境、碧南市で重要な油ヶ淵と矢作川河川敷について、生物多様性の減少の原因と対策、自然再生事業についての留意点と順応的管理、モニタリング、ビオトープについても言及した。
25. 京の奥山・京都市左京区大原大見地区の地域づくり	単	2003年11月8日	第5回日本景観学会大会シンポジウム「京都と景観資源」の保全と創造 京大会館(京都市) 第5回日本景観学会大会講演要旨集 pp. 34～42	京の奥山である京都市左京区大見地区について、地形・地質・気象に加えて、過去の土地利用の影響から地域の植生景観の成立を探った。また、中間温帯林としてこの地域に特徴的な植生を紹介し、植生景観を土地利用の面から読み解いた。これらの現況を踏まえた上で、自然公園としての環境の復元・創出の試案を示し、地域づくりのための基本的なスタンスや自然公園としての多様な活用方法を提示した。
26. 高山植物の話	単	2005年9月3日	西宮明昭山の会創立30周年記念行事 主催：西宮明昭山の会 西宮甲東園ホール(西宮市)	日本の植生帯の中での高山植生の位置づけを行なうとともに、高山の自然環境の特性や地史を解説した。その上で、南アルプス、八ヶ岳、北アルプスなどのスライドを用いて、高山帯を構成する各群落の特性を微地形や積雪との関係から述べた。さらに、高山植物の形態的特性を積雪や土壌要因と関係づけて論じた。
27. 植物的自然から地域環境を考える ―植物生態学の視点から―	単	2006年2月2日～3日	主催：京都大学大学院農学研究科 京都大学(京都市)	地域環境科学の大学院生とスタッフを対象に、これまで行ってきた研究を地域環境面から捉えた形で総括した。まず、京都市近郊の植生を位置付けたのち、地質、地形、土壌と植生の関係の研究を紹介した。また、里山の調査例を示し、自然の保全の原則、絶滅危惧種を含む種の取り扱い上の留意点を論じた。また、これまで関わってきた自然保護運動の例や自然の創出の手順を紹介し、京都市大見地区の地域づくりに関しても論じた。
28. 大台ヶ原の植生と温暖化の影響を考える	単	2007年11月11日	日本勤労者山岳連盟全国自然保護担当者会議記念講演 主催：日本勤労者山岳連盟 大台荘(奈良県上北山村)	大台ヶ原の自然環境と植物相を解説したのち、大台ヶ原の亜高山針葉樹林帯と冷温帯夏緑広葉樹林帯の分布と主要植生の概要について述べた。また、大台ヶ原の森林の衰退とその原因について論じた。さらに、地球温暖化と植物への影響について論じたのち、地球温暖化による大台ヶ原の植生変化の予測を行なった。
29. 野外植物調査から温暖化の実態を知る	単	2007年11月24日	大阪府地球温暖化防止活動推進センター第六回知識研修 主催：大阪府地球温暖化防止活動推進センター 大阪府環境情報プラザ(大阪市)	地球温暖化が植物や植生、生態系全体に及ぼす影響について論じた。地球レベルでの温暖化の特性を述べた後、最終氷期以降の気候変動と現代の気候変動との違いについて論じ、日本での地球温暖化の影響例を紹介した。また、動物と植物での影響の現れ方の違いとその原因について指摘し、植物の移動速度と温暖化による絶滅、ひいては生物多様性や生態系への影響について論じた。さらに、生物季節現象とその観測方法について解説した。

30. 登山者のための自然観察入門 ～植物編～	単	2008年9月14日	中央登山学校第9回全国ハイキングリーダー学校 in 蒜山 主催: 日本勤労者山岳連盟 主管: 岡山県勤労者山岳連盟 休暇村蒜山高原(岡山県真庭市)	登山での植物観察を行なう上での注意点を述べたあと、植物の基本構造と機能について解説した。また、植物の生活史や生育形について実例を交えて論じた。また、日本の自然環境と植生の特徴を概観した後、亜高山植生と高山植生を取り上げ、主要な植物群集の生態学的な特徴を述べるとともに地球温暖化による植生への影響について論じ、自然保全上の留意点を指摘した。
31. 『人と自然をつなぐ5本の樹』 地域の自然に溶け込むグリーンスペースの創出	単	2010年8月18日	グリーンエキスパートフォロー研修 主催: 積水ハウス株式会社 サンメッセ香川(香川県高松市)	積水ハウス50周年記念事業「5本の樹」育成プロジェクト(仮称)を推進しサポートするグリーンエキスパートの知識レベル向上とスキルアップをめざすための研修会。生物多様性の3つのレベルに触れ、生物多様性条約と生物多様性国家戦略について解説した。また、日本の森の現状と住宅産業のかかわりを論じ、住宅産業の里山保全とのかかわりの意義を述べた。
32. 「吉祥寺裏山整備 一地域の自然を生かした整備計画の策定に向けて」	単	2010年12月5日	共催: 林野庁・NPO法人 共存の森 川場村役場(群馬県川場村)	中間温帯にある吉祥寺裏山の現況植生について概観し、現況植生を生かした里山整備への提言を行った。具体的には遊歩道の修景、伐採木の選定、高木の間伐と低木林の創出、施設の設置等である。
33. 「交野の里山 一地域の自然の理解と保全に向けて」	単	2010年12月8日	主催: 交野市 交野市役所(大阪府交野市)	交野市環境基本計画の策定に向けて、委員の知識・スキルの向上を目指した講演会。交野市の地形・地質・土壌・気候を概観し、二次林を主とする主要植生の分布と特徴を述べた。また、生物から見た生物多様性と里山の保全活動の意義について論じた。
34. 「“なりわい”としての里山林の活用について」	単	2011年11月12日	公開講座フェスタ2011 主催: 阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット構成機関 さいかくホール(大阪府)	里山林の変貌と問題点について論じた後、生業としての里山への取組事例として、林野庁 森林総合利用推進事業のモデル地域を紹介した。木材資源としての里山の活用事例として、山形県西置賜郡飯豊町中津川地区の取組を紹介した後、都市との共存としての里山の活用事例として、群馬県利根郡川場村の取組について、人が生きていくという観点から里山を問い直した。また、川場村で昨夏より行なっている地域資源を生かした里山散策コースづくりと地元ガイドの養成についても紹介した。
35. 市民参加による 公園・緑地における生物多様性の保全	単	2011年12月13日	国土交通分野における地域の生物多様性保全活動の促進に関する地方セミナー第1回 主催: 国土交通省 港区立お台場小学校(東京都)	生物多様性の保全活動の方法論や多様な主体との連携の在り方等の知見を広く普及するため、行政機関や市民団体を主たる対象に行われたセミナー。緑地と川、海の事例の内、緑地の事例を報告した。まず、生物多様性の3つのレベルについて述べた後、市民参加の保全活動の必然性とメリットについて論じた。また、市民活動を支えるシステム作りを解説した後、緑地・自然公園での事例を紹介した。終わりに、生物多様性の保全から見た緑地の維持管理や生物多様性が市民の財産であることを提言した。同内容の講演を2012年1月12日(豊田市職員会館(愛知県))、2012年1月25日(福岡ガーデンパレス(福岡県))にも行った。
36. 『自然の中での遊び』子どもたちに伝えよう自然の楽しみ方	単	2012年7月21日	主催: 京都市西京区保育士会 桂坂保育所(京都市)	幼児期における自然に対する豊かな経験の重要性を述べ、自然と遊離した現代の子どもたちの問題点を指摘した。日本の代表的な森林植生を例に挙げ、遠く自然より近くの自然の重要性を説いた。季節ごとの様々な植物観察例や身近な昆虫の飛翔の比較を行った。また、体験学習の重要性を論じるとともに、五感を使ったネイチャーゲームと自然のクラフトを紹介した。
37. 「生物多様性保全と緑地管理について」	単	2012年10月4日	2012年度 国土交通分野における生きものにぎわいづくり 近畿地方セミナー 主催: 国土交通省 富田林市市民会館 レインボーホール(大阪府)	生物多様性の保全活動の方法論や多様な主体との連携の在り方等の知見を広く普及するため、行政機関や市民団体を主たる対象に行われたセミナー。今回はキーノートスピーチを行った。まず、生物多様性の3つのレベルについて述べた後、市民参加の保全活動の必然性とメリットについて論じた。また、市民活動を支えるシステム作りを解説した後、緑地・自然公園での事例を紹介した。終わりに、生物多様性の保全から見た緑地の維持管理や生物多様性が市民の財産であることを提言した。

38.「野山北・六道山公園・生物多様性でつながる、市民のいきがづくり」	単	2012年11月20日	2012年度 国土交通分野における生きものにぎわいづくり 四国地方セミナー 主催：国土交通省 愛媛県武道館（愛媛県松山市）	生物多様性の保全活動の方法論や多様な主体との連携の在り方等の知見を広く普及するため、行政機関や市民団体を主たる対象に行われたセミナー。まず、生物多様性の3つのレベルについて述べた後、市民参加の保全活動や市民活動を支えるシステム作りを解説した後、緑地・自然公園での事例として、「野山北・六道山公園における里山づくり」を紹介した。終わりに、生物多様性の保全から見た緑地の維持管理や生物多様性が市民の財産であることを提言した。
39. 基調講演 価値ある緑の保全と創成	単	2013年10月14日	みどりのフォーラム2013 つなげよう人と緑の“わ” 共催：豊中みどりの交流会 みどりのフォーラム 2013実行委員会・豊中市 後援：豊中市教育委員会	豊中市の自然環境を解説した後、それに基づく緑の保全と新たな創成について提言をおこなった。まず、身近な自然の重要性を説いた後、人工的な植栽でも経年の結果、環境保全の対象となりえた例を紹介した。南北に長く、南部の海岸植生から北部の丘陵地植生までの多様な自然環境と豊かな生物多様性を解説した後、既存の植生の保全と新たな緑地の創成に
40. 基調講演 子どもの眼がきらめく里山づくり 里山の自然文化の保全と新たな利活用による地域活性化をめざして	単	2013年11月17日	平成25年度 里なび研修会 in 長野県飯綱町 「森の生きものと人をつなげようー森のようちえん・昆虫の森の保全と活用を通じた里の文化的魅力の創出ー」 主催：環境省自然環境局 共催：NPO法人大地りんごパークセンター（長野県飯綱町）	里山での学習・保育活動による里山空間活用の可能性を探る研修会。子どもたちの発育と自然について、その重要性和有効な自然環境について述べた。かつての里山に利用法と現在の活用法を解説した後、保育空間としての里山の利活用と保育のための里山づくりと留意点を論じた。また、里山保育の有効性について考察した。
41.『京都御苑の樹木環境』	単	2014年8月24日	京都御苑自然教室 第1回室内学習会 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会	京都御苑の樹木景観の成立過程を述べた後、樹木の特性と土壌、気候などの育成環境との関係を論じた。また、御苑の主要植生と巨樹の概況を紹介した。アオバズクの生態と御苑の樹木の関係について論じ
42. 最近の里山のトピックスについて	単	2016年6月5日	関西聚活動報告会 主催：樹木・環境ネットワーク協会 大阪府環境情報プラザ（大阪府）	従来里山での活動は自然保全や環境整備、野外学習や余暇的活動が中心であった。そのため、その活動の多くが個人のボランティアとして行われることが多く、継続性の点で問題があった。近年あらたな取り組みとして生業としての里山林の活用の取り組みが行われている。その事例として、山形県飯豊町のバイオマス事業とCSR活動と群馬県川場村の林床栽培と里山散策の事例を紹介した。
43. 洛西ニュータウンの花とみどり	単	2018年3月17日	洛西ニュータウン まちづくり交流フォーラム ～自然豊かな洛西を未来へ～ 主催：洛西ニュータウン創生推進連絡会 後援：京都市西京区役所 洛西院支所 協力：洛西NTアクションプログラム推進会議公園関係ワーキンググループ	京都西山断層崖の麓で多くの断層と小畑川の開析によって形成された洛西の地形を概観し、大坂層群と段丘堆積物からなる地層の分布状況と形成過程を説明した。また、それを反映した自然植生の分布や考古学遺跡の立地、ならびに農村地域での新田開発やモウソウチク林、富有柿林、栗林の土地利用を解説した。また、米軍撮影の航空写真をもとに洛西ニュータウンの開発前の土地利用を確認し、残された自然と新たに創出された”自然”の現況を概観した。さらに、里山や京都御苑を先行事例として、人工的に創られた”自然”でありながら、住民にとっては身近で最も影響を受けるこれらの自然をどのように捉え、どのように改変しているかの事例を述べた。
44.「こども園での里山遊びの展開と指導法について」	単	2018年6月14日	主催：宝塚市立西谷認定こども園園内研究会 宝塚市立西谷認定こども園（宝塚市）	幼児期における自然に対する豊かな経験の重要性を述べ、自然と遊離した現代の子どもたちの問題点を指摘した。日本の代表的な森林植生を例に挙げ、遠くの自然より近くの自然の重要性を説いた。季節ごとの様々な植物観察例や身近な昆虫の飛翔の比較を行った。また、体験学習の重要性を論じるとともに、五感を使ったネイチャーゲームと自然のクラフトを紹介した。
43. 洛西ニュータウンの花とみどり	単	2019年5月5日	洛西ニュータウン まちづくり交流フォーラム ～洛西の自然～ 主催：洛西ニュータウン創生推進連絡会 後援：京都市西京区役所 洛西院支所 協力：洛西NTアクションプログラム推進会議公園関係ワーキンググループ	地域の自然環境をどのように創出していくかについて、子どもの成育における自然環境の役割という視点で捉えなおした。洛西地域の地質を反映した土地利用を元に潜在自然植生とそこにはぐくまれる里山の生業と文化を紹介した。さらに、ニュータウンの開発での遺跡・自然の取り扱いの特性を考慮した上での自然再生についての提言を行った。

[講演]				
1. 樹医検定セミナー(3級)	単	1996年8月31日 1997年6月28日 1998年7月4日 1999年7月3日	樹医検定セミナー(3級) 日本樹木保護協会(現樹木・環境ネットワーク協会) 主催: 日本樹木保護協会(現樹木・環境ネットワーク協会) 交野市スポーツ文化センター・大阪市立大学附属植物園他(大阪府交野市)	樹医を養成するために設けられたセミナーで、造園従事者対象の単独の講演会形式で実施されていたものを、1996年以降セミナー形式に改変するよう指導した。3級では樹木の治療・管理の視点から樹木を取り扱う上での基礎知識として以下の講演を行なった。①樹木の外部形態、②樹木の生活史。なお、①②の講演の翌日に大阪市立大学附属植物園での実地講習(全日)を行ない、知識の定着を図った。
2. 樹医検定セミナー(2級)	単		樹医検定セミナー(2級) 主催: 日本樹木保護協会(現樹木・環境ネットワーク協会) 交野市スポーツ文化センター・大阪市立大学附属植物園他(大阪府交野市)	樹医を養成するために設けられたセミナーの中級コースで以下の講演を行なった。①樹木の内部構造(樹木の伸長成長と肥大成長のメカニズム)、②根の形態と機能、③樹木と光・水・温度と大気(樹木環境)。なお、①と②は設立当初3級であったが、その後、設定変更し、現在は①を2級で、②を1級(2006年度より2級に変更)にして講演を行なっている。
				①1996年11月23日、1997年10月11日、1998年10月17日、1999年10月23日、2001年6月9日、2002年7月20日、2003年8月10日、2004年11月13日、2005年11月20日、2006年8月27日、2007年9月2日、2008年8月31日、2009年8月30日、2010年8月29日、2011年8月28日、2013年8月25日、2014年8月31日、2015年8月22日 ②1997年2月8日、1998年2月13日、1999年2月27日、2000年2月26日、2001年6月9日、2002年7月20日、2003年8月10日、2005年11月19日、2006年11月5日、2007年11月25日、2008年11月24日、2009年11月23日、2010年11月20日、2011年11月26日、2013年11月23日、2014年11月23日、2015年11月22日 ③1996年11月23～24日、1997年10月12日、1998年10月18日、1999年10月24日、2000年10月22日、2001年10月14日、2002年10月14日、2003年11月24日、2004年11月14日、2005年11月19日、2006年8月27日、2007年9月2日、2007年11月25日、2008年8月31日、2008年11月24日、2009年8月30日、2009年11月23日、2010年8月29日、2010年11月20日、2011年8月28日、2011年11月26日、2013年8月25日、2013年11月23日、2014年8月31日、2014年11月23日、2015年8月22日、2015年11月22日
3. 里山研究	単	1998年1月18日	奈良市青年ボランティア養成セミナー 第9回 『火の研究』 主催: 奈良市教育委員会 主催 奈良市青年野外活動センター(奈良市)	身近な自然の価値を指摘し、その例としてかつての里山と人の共存を述べた。さらに、アカマツ林、コナラ林、竹林、植林地、鎮守の森、集落、茅場、耕作地、水域等について、立地や利用の特性を解説するとともに、昭和30年代以降の里山の崩壊過程を述べた。また、優占種であるアカマツとコナラの生活史と人による利用を解説し、里山との接し方や保全を論じるとともに体験学習として、炭焼きの方法、木炭や木酢液の利用を紹介した。
4. グリーンセーバーベーシックセミナー 第1部「植物の基礎知識1」 第2部「植物の基礎知識2」 第3部「植物の基礎知識3」 第4部「植物の文化・めぐみ」	単		グリーンセーバーベーシックセミナー 主催: 樹木・環境ネットワーク協会 国立オリンピック記念青少年総合センター他(東京都)	植物の基礎知識を基に生態系や自然保護に関する知識、栽培や日本の自然文化を学び、自然と共生できる人を養成するためのセミナー。第1部では、植物系統分類の基礎知識について紹介した。第2部では、植物の外部形態を機能面から論じるとともに花や果実の形態と進化、植物の生活史について述べた。第3部では植物の生育環境として光・水・大気・温度・土壌の各要因を解説した。また第4部では植物の文化とめぐみについて講演した。

		<p>第1部～第3部： 1998年3月30日、1998年4月4日、1998年4月11日、1998年5月17日、1998年11月7日、1999年2月13日、1999年3月13日、1999年3月29日、1999年4月24日、1999年5月8日、1999年11月6日、1999年11月13日、2000年3月30日、2000年4月8日、2000年4月15日、2000年4月29日、2000年10月14日、2001年3月3日、2001年3月10日、2001年4月8日、2001年10月13日、2002年3月2日、2002年3月9日、2002年5月11日、2003年3月15日、2003年4月5日、2003年5月10日、2004年3月6日、2004年4月3日、2004年5月1日、2005年3月6日、2005年3月27日、2005年5月7日、2006年2月25日、2006年3月18日、2006年5月3日、2007年3月17日、2007年3月24日、2007年5月5日、2008年3月29日、2008年4月12日、2008年5月5日、2009年4月4日、2009年5月5日、2010年4月17日、2011年4月9日、2011年4月16日、2012年4月7日、2013年4月20日</p> <p>第4部： 1998年3月31日、1998年4月5日、1998年4月12日、1998年5月16日、1998年11月8日、1999年2月14日、1999年3月14日、1999年3月30日、1999年4月25日、1999年5月9日、1999年11月7日、1999年11月13日、2000年3月31日、2000年4月9日、2000年4月16日、2000年4月30日、2000年10月15日、2001年3月4日、2001年3月11日、2001年4月8日、2001年10月13日、2002年3月3日、2002年3月10日、2002年5月11日、2003年3月16日、2003年4月6日、2003年5月11日、2004年3月6日、2004年4月3日、2004年5月2日、2005年3月6日、2005年3月27日、2005年5月8日、2006年2月26日、2006年3月19日、2006年5月4日、2007年3月17日、2007年3月24日、2007年5月5日、2008年3月30日、2008年4月13日、2008年5月5日、2009年4月5日、2009年5月6日、2010年4月18日、2011年4月10日、2011年4月17日、2012年4月8日、2013年4月20日</p>	
5. ナチュラリストリーダー養成講習会『森を調べよう』-森林の調査方法-	単	<p>1998年8月8日～9日</p> <p>主催：福井県自然保護センター 共催：福井県自然観察協議会 連携：福井ライフ・アカデミー 福井県自然保護センター（福井県大野市）</p>	<p>福井県が行なっている自然保護の思想の普及・啓発をめざしたナチュラリストリーダー養成・資質の向上のための講習会。1日目は植物観察のポイントを述べたあと、植生調査の考え方を論じた。また、被度、優占度、群度等の群落測度を紹介し、各種調査区の設定法を述べた。また、毎木調査法と植物社会学的調査法をデータ処理方法も含めて例示した。2日目はセンター内の落葉広葉樹林でこの2方法で調査を行ない、比較検討した。</p>
6. グリーンセイバーアドバンスセミナー 第1部「植物の自然史1」 第2部「植物の自然史2」 第3部「日本人の生活と植物」	単	<p>グリーンセイバーアドバンスセミナー 主催：樹木・環境ネットワーク協会 国立オリンピック記念青少年総合センター他（東京都）</p>	<p>植物や生態系についての幅広い教養を身につけ、生態系の保全・育成に貢献できる人を養成するための中級セミナー。第1部では生命と多様性の起源を概観し、生物の分類を解説した。第2部では植物の分布と生物地理を論じた。第3部では日本人の生活と植物と題して、神話や信仰と結びついた植物を取り上げた。また、江戸時代の都市・農村・山村の暮らしを持続型循環社会の模範例として紹介するとともに、有毒植物についても論じた。</p>
		<p>1999年4月10日、1999年5月15日、2000年3月18日、2000年5月13日、2001年4月14日、2001年5月5日、2002年3月30日、2002年4月13日、2002年5月5日、2003年3月30日、2003年4月12日、2003年4月19日、2004年4月17日、2004年4月24日、2005年4月23日、2006年4月22日、2007年3月31日、2007年4月14日、2008年4月26日、2009年4月18日、2009年4月25日、2010年5月4日、2011年5月4日、2012年5月3日、2013年5月3日、2014年5月3日</p> <p>なお、2005年4月9日は第1部と第2部を、2005年4月10日に第3部を講演した。</p>	
7. グリーンセイバーマスターセミナー「自然の学び方」	単	<p>グリーンセイバーマスターセミナー 主催：樹木・環境ネットワーク協会 国立オリンピック記念青少年総合センター他（東京都）</p>	<p>生態系の保全・育成に貢献できる人を養成する上級セミナーで、自然を守るための理念とその方法の獲得をめざしている。第1部では、植物群集の捉え方や基本的な調査方法とその応用例について、目的ならびに手順と留意点を解説し、各調査法の長所と短所を指摘した。第2部では、明治神宮神苑内の落葉広葉樹林に20m×20mの方形区を設定し、森林の階層構造の説明後、毎木調査法と植物社会学的調査法を実演し、両者を比較した。</p>
		<p>第1部と第2部：2000年3月5日、2000年11月4日 第1部：2001年11月3日、2002年11月2日、2003年11月2日、2004年11月7日、2005年11月6日、2006年11月4日、2007年11月4日、2008年11月9日、2009年11月8日、2010年11月7日、2011年11月6日</p>	

<p>8. 環境汚染と生物 第1回「環境汚染と生物」 第2回「環境の変化と生物」 第3回「自然環境の保全と活用」</p>	単	<p>第1回 2000年11月30日 第2回 2000年12月7日 第3回 2000年12月14日</p>	<p>平成12年度 環境と生物 主催：高槻市立如是公民館 高槻市立如是公民館（大阪府高槻市）</p>	<p>近年の環境変化が生物に及ぼす問題点や解決策について述べた。 第1回は、オゾン層の破壊、環境ホルモン、酸性雨を紹介し、生活スタイルの見直しを提案した。 第2回は、地球温暖化について、動植物の盛衰、海面上昇などを紹介し、日本の植生の変化を予測した。気温上昇と植物の移動スピードとの関係についても解説した。 第3回は、里山の自然の利用形態を解説した。また、生物保全の意義と擬似自然環境の問題点を指摘した。</p>
<p>9. 里山市民学校での話題提供講演とフィールドワーク 第1回話題提供講演「里山に魅せられてー里山の自然と人々の暮らしー」 第4回フィールドワーク「里山たんけん、はっけん、ほっとけんー大原野森のフィールドを訪ねて」 第5回フィールドワーク「里山再生の現場を体験するー柚の会に学ぶー」</p>	単	<p>第1回 2001年2月24日 第4回 2001年4月7日 第5回 2001年4月21日</p>	<p>里山市民学校 主催：環境市民 第1回：コープイン京都（京都市） 第4回：西京区大原野（京都市） 第5回：朽木村（滋賀県朽木村）</p>	<p>里山保全の実践的方法を学ぶために開講された里山市民学校での講演。 第1回は、里山の自然と人のかかわりを講演し、里山の植生と生物の環境利用、生物の多様性、アカマツ林の管理、竹林の拡大やシカの害などを例に生物に望ましい里山について述べた。 第4回は、里山の現状とその問題点を指摘し、里山と人のかかわりについて提案した。 第5回は、奥山の原生的自然であるブナ林にて、森林の効用や植物の利用などを述べた。</p>
<p>10. 植物学レクチャー「植物観察入門～植物と仲良くなるために」 第1回「葉や茎のしくみとはたらき」 第2回「花と果実のつくりから進化をさぐる」</p>	単	<p>第1回 2003年11月18日 第2回 2003年11月25日</p>	<p>インターカレッジ西宮 主催：西宮大学交流協議会 西宮大学交流センター（西宮市）</p>	<p>野外での植物観察を容易にするための具体的な方法と基礎知識を解説した。 第1回は、実用的な図鑑の使い方、植物の基本構造、葉の起源と構造、葉序の規則性とその生態的意義を解説し、分枝様式から樹形を導いた。 第2回は、シュートの構造を基に、原始的な花の構造から進化した花の構造への変化を解説した。さらに、花葉数の減少、花葉の配列と合着、花の相称性の進化傾向を整理し、種々の果実を用いてその構造と進化も解説した。</p>
<p>11. いろいろの色 第1回「植物の色をめぐって」</p>	単	<p>2006年1月15日</p>	<p>朝日カルチャー大学共催講座 共催：夙川学院短期大学・朝日カルチャー朝日カルチャーセンター・中之島（大阪市）</p>	<p>連続講座の第1回として、全体の構成と各回の紹介を行なったあと、具体的な植物の色を把握してもらうため、花をスライドで紹介した。その後、花の色の役割を構造と関連付けて説明し、自然界に多い花の色、光の波長や色素による花の認識システム、赤・白・黄系統の花と色素について詳述した。また、色の変化する花や紅葉のしくみとさまざまな色素について解説するとともに、色の名の由来も紹介した。</p>
<p>12. 日本の自然</p>	単	<p>2007年3月7日</p>	<p>主催：シニア自然大学 大阪市東梅田学習センター（大阪市）</p>	<p>日本の自然環境として、温度、降水量、地形、地質の特性を指摘し、固有種や暖地系植物と寒地系植物、太平洋側植生と日本海側植生の特徴から種の多様性を考察した。また、日本の亜熱帯植生から高山帯植生までを概観した。</p>
<p>13. 植物と環境</p>	単	<p>2007年9月8日</p>	<p>甲山森林・湿原サポータ養成講座 第3回 主催：西宮市立甲山自然環境センター 西宮市立甲山自然環境センター（西宮市）</p>	<p>六甲山系の自然環境と植生を概観した後、甲山地域の森林と湿原の植物について解説した。また、主要樹種であるアカマツとコナラを例に植物の生育立地と生活史特性の関係について述べた。また、京阪奈丘陵の地形と植生について論じた。講演の後、甲山湿原周辺の森林と湿原についてのエクスカージョンを行なった。</p>
<p>14. 自然が感じている温暖化の真実ー野外植物調査で実態を知るー</p>	単	<p>2007年10月14日</p>	<p>連続講座 CO₂マイナス60%をめざし 5つの行動提案 第5回 主催：環境市民 京都御苑（京都市）</p>	<p>人工的自然としての京都御苑の特性について述べたあと、地球温暖化による動植物への影響を、京都御苑を例として解説した。また、市民が温暖化の影響を身近に体感できる手法として、植物季節現象とその観測方法を紹介した。その後、私たちの生活に及ぼす地球温暖化の影響について論じた。</p>

<p>15. プラントウォッチング 第1回「植物のしくみとはたらきー根も葉もない植物?!」 第2回「葉の七変化ーサボテンの棘は何?ー」 第3回「茎のからくりー葉のつき方から樹形までー」 第4回「花の進化ー八重桜の秘密ー」 第5回「果実のいろいろーイチゴの種子はなぜ外についているのー」 第6回「早春のプラントウォッチング」</p>	<p>単</p>	<p>第1回 2008年1月12日 第2回 2008年1月26日 第3回 2008年2月9日 第4回 2008年2月23日 第5回 2008年3月8日 第6回 2008年3月22日</p>	<p>朝日カルチャーセンター大学共催講座 共催：夙川学院短期大学・朝日カルチャーセンター 朝日カルチャーセンター・中之島（大阪市） 京都府立植物園（京都市）</p>	<p>植物観察の楽しみ方について、植物の形態や生態を中心に解説した。 第1回は植物観察のポイントと植物の基本的な構造と機能について論じた。また、用具の紹介も行った。 第2回は、葉の多様性と進化について論じた。 第3回はシュートの概念や葉序、芽、枝、樹形について述べた。 第4回は、花の基本構造と進化について解説した。 第5回は、果実の構造と進化を論じた。第6回は、前5回の講演内容に関しての現地講演を行なった。</p>
<p>16. 日本人の生活と植物</p>	<p>単</p>	<p>2008年2月24日</p>	<p>環境学習都市にしのみやパートナーシッププログラム・グンゼラブアース倶楽部の支援による事業語り部セミナー 自然を学ぶ 主催：西宮市NPO法人こども環境活動支援協会 西宮市立中央公民館（西宮市）</p>	<p>日本人が日常的に精神的な支えとしてきた植物について、民間伝承や信仰との関係を論じた。植物に対する日本人の意識として松、竹、梅、桜、桃のとらえ方を述べ、日常的信仰と植物、鬼門よけの植物、神仏と植物について論じた。</p>
<p>17. 森林と人とのかかわり</p>	<p>単</p>	<p>2008年3月16日</p>	<p>西宮市立甲山自然環境センター森林環境教育指導者養成セミナー 第4回 主催：NPO法人こども環境活動支援協会 西宮市立甲山自然環境センター（西宮市）</p>	<p>日本人がどのように森林と接し、その恵みの中で生活していたかを論じ、環境教育への活用について提言をおこなった。題材として最も森林と結びつきの強かった、江戸～昭和前半までの山村の人々の生活を取り上げ、季節のとらえ方、自給自足の生活、社会秩序の維持、土地利用、耕作と林業の形態、山村の文化などについて論じた。講演の後、甲山湿原周辺の森林と湿原についてのエクスカージョンを行なった。</p>
<p>18. 春の北山周辺散策 木々の芽吹きを観察しよう!</p>	<p>単</p>	<p>2008年4月5日</p>	<p>西宮市北山緑化植物園花と緑の教室 主催：西宮市北山緑化植物園主催 北山緑化植物園（西宮市）</p>	<p>芽の位置や形態、葉のつき方や枝の伸び、樹形などの生態学的な意味を論じた後、花の形態について解説した。また、園内を巡回し、生育する植物を例に講演内容の観察を行なった。</p>
<p>19. 山の植物の見方、楽しみ方について ー台高山地の植物ー</p>	<p>単</p>	<p>2008年6月28日</p>	<p>第18回自然保護セミナー 主催：奈良県勤労者山岳連盟 奈良県文化会館（奈良市）</p>	<p>動物と植物の相違点を比較考察し、山での植物の捉え方を解説した。植物の基本構造を述べた後、生育形や花冠の形態を紹介した。また、日本の森林帯上における三峰山の位置づけを行い、その主要植生について述べた。</p>
<p>20. 日本列島植物の旅 第1回「南の島々から ー亜熱帯の奇妙な植物ー」 第2回「里山ミュージアム ー人とともに生きる植物ー」 第3回「ブナの森から ー雪と戦う植物たちー」 第4回「亜高山の針葉樹林 ー追い詰められた針葉樹ー」 第5回「高山の植物 ーたくましくいきている可憐な草花ー」</p>	<p>単</p>	<p>第1回 2008年10月25日 第2回 2008年11月8日 第3回 2008年11月22日 第4回 2008年12月13日 第5回 2008年12月27日</p>	<p>朝日カルチャーセンター大学共催講座 共催：夙川学院短期大学・朝日カルチャーセンター 朝日カルチャーセンター・中之島（大阪市）</p>	<p>第1回は、「日本の植物的自然を理解することによって、自然愛護・保全につなげる」という本講座の趣旨説明に続いて、日本の植物的自然の特性として、東亜の植生帯と水平分布、日本の植生帯と垂直分布について述べた。その後、日本の亜熱帯植生について、熱帯と暖温帯の移行帯的性格、主な構成種の特異的な生態について、沖縄ならびに小笠原のスライドを提示して講演した。 第2回は、日本の自然環境と植生について、大陸東岸性気候の特徴、降水量の豊富さ、太平洋型気候と日本海型気候の成因と植生への影響、地形と地質の植生への影響について述べた。続いて、暖温帯常緑広葉樹林の東亜と日本における分布を説明し、亜熱帯林との比較をおこなった。森林のタイプごとの分布や生態的特性についても触れた。また、中間温帯林の成立要因と主要植生を紹介し、里山を構成する主要植生の特徴と持続的利用法を説明した。 第3回は、日本の植物の多様性とその要因について述べた後、日本列島の背腹性と、日本海側多雪地帯での雪圧の植生への影響を詳述した。その後、冷温帯夏緑広葉樹林の特徴を述べ、日本各地のブナ林を紹介しながら、日本海型と太平洋型ブナ林を比較し、樹形や林分構造、ササの生態的特性などを解説した。また、多雪地に適応した樹木の特性についても紹介した。なお、スプリングエフェメラルや汎針広混交林についてもスライドを交えて紹介した。</p>

				<p>第4回は、日本への植物の移動ルートや北方系の植物と南方系の代表植物を紹介し、第三紀周北極要素の隔離分布について論じた。また、亜高山帯の針葉樹林の成立要因を述べた後、日本列島各地の亜高山植生を写真を用いて紹介した。亜高山針葉樹林の遷移や倒木更新について述べた後、主要な植物の生態を解説した。特に、北八ヶ岳縞枯山の縞枯れ現象や岩礫地の偽高山植生には関心が高いように見受けられた。</p> <p>第5回は、汎存種と固有種概念とその実例について解説を行なった後、高山帯の自然環境と高山植物のすみわけを論じた。また、高山植物に見られる隔離分布と新固有種の成立過程を解説した。その後、北アルプス白馬岳の植物を例に挙げて、主要な植物群落の特性を述べ、その代表的な種を紹介した。また、高山帯の抱える環境問題についても言及した。利尻・礼文島の自然についても写真を用いて紹介した。</p>
<p>21. 春の北山周辺散策 木々の芽吹きを観察しよう！</p>	<p>単</p>	<p>2008年4月5日</p>	<p>西宮市北山緑化植物園花と緑の教室 西宮市北山緑化植物園主催 北山緑化植物園（西宮市）</p>	<p>芽の位置や形態、葉のつき方や枝の伸び、樹形などの生態学的な意味を論じた後、花の形態について解説した。また、園内を巡回し、生育する植物を例に講演内容の観察を行なった。</p>
<p>22. 植物の暮らしぶり —知っているようで知らない植物の生活— 第1回「冷温帯に君臨するブナの生涯」 第2回「1年を3ヶ月で生きるカタクリの優雅な？暮し」 第3回「太古の花の姿を今にとどめて生きるホウノキ」 第4回「性転換を繰り返すテンナンショウ」 第5回「見かけは似ていても生き様の違うサギゴケの仲間たち」 第6回「植物の暮らしぶりを探る」</p>	<p>単</p>	<p>第1回 2009年7月11日 第2回 2009年7月25日 第3回 2009年8月8日 第4回 2009年8月22日 第5回 2009年9月12日 第6回 2009年9月26日</p>	<p>朝日カルチャーセンター 大学共催講座 共催：夙川学院短期大学・朝日カルチャーセンター 朝日カルチャーセンター・中之島（大阪市）</p>	<p>第1回は、植物の生活史の主要ステージを解説した後、ブナの特徴と利用について述べた。日本のブナ林の分布と特徴を雪との関係で説明し、日本各地の主要なブナ林について写真を交えて紹介した。また、ブナの花の形態と受粉様式を説明し、毎年結果現象とその理由について考察した。さらに、発芽特性と実生の生残ならびにブナ林の更新様式について論じた。</p> <p>第2回は、カタクリの生育する夏緑広葉樹林の四季を光環境との関係で概観し、スプリング・エフェメラルとしてのカタクリの季節利用について解説した。また、花の構造と訪花昆虫による受粉との関係を紹介した。芽生えから開花にいたる生活史、アリによる種子散布、カタクリ個体群の動態についても述べた。</p> <p>第3回は、ホウノキの樹形、葉、花の構造について紹介した後、その生育地の特性について解説した。ホウノキのフェノロジーを枝の形態と関係付けて論じた。また、原始的な被子植物としての花の形態特性を進化的な視点で考察した。受粉に関しては雌性先熟による自家受粉回避のしくみを、種子散布に関しては鳥による散布や発芽を含めたホウノキの更新についても論じた。また、ホウノキの生活物資としての利用について触れた。</p> <p>第4回は、テンナンショウの基本体制について説明した後、個体サイズの変化に伴う性発現を紹介した。また、テンナンショウのフェノロジーに触れ、開花と受粉様式、花序のしくみとポリネーションについても論じた。鳥による種子散布、発芽、生育に続いて、個体群の構造についても述べた。同属のユキモチソウ、ムサシアブミ、カラスビシャク、コンニャク、ミズバショウ、ザゼンソウについて、写真を交えて解説を行った。</p> <p>第5回は、ゴマノハグサ科のムラサキサギゴケとトキワハゼについての比較考察を行った。両種の基本構造と生育様式を比較した後、花の構造と受粉様式、訪問花昆虫について論じた。種子の生産量と栄養繁殖、種子繁殖については、r戦略—K戦略の観点から論じた。また、生育地による生存戦略についても述べ、放棄田における両者の同所的成育について論じた。両者の生活環の違いを比較するとともに、同じような近縁種の例を紹介した。</p> <p>第6回は、講座の集大成として、実地講演を行った。ラクウショウの気根や樹形、シュートの形態をその生態との関係から論じた。マツに関しては、短枝・長枝の機能分化、球果の構造と発達過程、種子の散布様式を論じ、三葉松を紹介した。また、生態植物園として、植物地理区、ならびに植生帯別に区分されている園内を巡回し、主要生育樹種の生活史特性について述べた。</p>

23. 「森林の生態と森の手入れ ー生きものの暮らし方に学ぶ ー」	単	2010年12月18日	第6期 森林・湿原サ ポーター養成講座 第4 回 共催：NPO法人こども環 境活動支援協会・西宮市 立甲山自然環境センター 西宮市立甲山自然環境セ ンター（西宮市）	自然のしくみを理解した上での森の手入れの考え方 について講演を行った。森林生態系の構成要素とそ の役割や食物連鎖を紹介したのち、森林の種の多様 性と森の手入れの仕方について論じた。
24. 「森林の生態と森の手入れ ー生きものの暮らし方に学ぶ ー」	単	2011年10月16日	第7期 森林・湿原サ ポーター養成講座 第4 回 共催：NPO法人こども環 境活動支援協会・西宮市 立甲山自然環境センター 西宮市立甲山自然環境セ ンター（兵庫県西宮市）	自然のしくみを理解した上での森の手入れの考え方 について講演を行った。森林生態系の構成要素とそ の役割や食物連鎖を紹介したのち、生物多様性と里 山の保全活動について論じた。林野庁の「森林総合 利用推進事業」の取り組みについても紹介した。
25. 「子どもたちに伝えよう自然 の楽しみ方」	単	2011年11月19日	まちの寺子屋師範塾 主催：兵庫県健康福祉部 こども局少子対策課 夙川学院短期大学（西宮 市）	自然との触れ合いの少なくなった子どもたちの現状を 紹介し、近くの自然の重要性を述べた。また、子ども たちの自然との触れ合い例として、自然での遊びを解 説した後、植物の暮らしをの捉え方として、植物の生 活形、種子散布の様式、冬芽の多様性、身近な昆虫 の形態と機能について詳述した。また、体験学習の重 要性について論じた後、子どもと作る自然のクラフト例 を紹介した。
26. 地域の自然をいかにしてな りわいに活かすのか ー植生調査入門ー	単	2012年5月13日	主催：なりわい創造塾 小川町（埼玉県小川町）	地域の自然をなりわいにつなげるために群馬県川場 村の里山林の環境と木質資源を多角的に活かした自 主自立の村づくり、林床有用植物の半栽培、地域材 活用、里山林整備による環境学習と観光資源づくり、 吉祥寺裏山の里山林と周辺田園環境を活用した散策 路整備について事例紹介をし、提言を行った。また、 植生調査の手法について解説した。
27. 『森の生態と私たちの生 活』 ー生きものの暮らし方に学 ぶー	単	2012年10月7日	第8期 森林・湿原サ ポーター養成講座 共催：NPO法人こども環 境活動支援協会・西宮市 立甲山自然環境センター 西宮市立甲山自然環境セ ンター（西宮市）	自然のしくみを理解した上での森の手入れの考え方 について講演を行った。森林生態系の構成要素とそ の役割や食物連鎖を紹介したのち、生物多様性と生 態系の安定性、森林の種の多様性と森の手入れ、里 山の保全活動について論じた。林野庁の「森林総合 利用推進事業」や国土交通省の「国土交通分野にお ける生物多様性保全の取組普及関連業務」の取組 みについても紹介した。
28. 秋の森は宝の山 ー山の 恵みをなりわいにつなげようー	単	2012年10月28日	主催：なりわい創造塾 小川町（埼玉県小川町）	地域の自然をなりわいにつなげるために、小川町小 瀬田の”なりわいの森”に生育している植物の利用法 と豊かな森林の空間利用に関する提言を行った。ま た、植物の同定法と植生図の作成方法について解説 した。

<p>29. 神戸夙川学院大学2012年秋期 公開講座 「信仰と植物の旅へのいざない 神々の遊ぶ森へ出かけてみませんか」 第1回 うま酒の三輪の神と縁(ゆかり)の神杉 第2回 「葵祭」と糺の森 第3回 現地講座 鞍馬山の魔王尊と木の根道</p>	<p>単</p>	<p>第1回 2012年11月9日 第2回 2012年11月16日 第3回 2012年12月1日</p>	<p>主催：神戸夙川学院大学 神戸夙川学院大学（神戸市）</p>	<p>自然崇拜から生まれた古都の神社仏閣を取り上げ、そこに縁のある植物を中心に、自然から見た古社、名刹の旅に誘う講演。第1回は大和国一之宮大神神社の旅として、甘南備山や磐座の信仰を紹介し、神と人との婚姻説話とゆかりの植物について述べた。まず、三輪山周辺の地形と観光名所を紹介した後、神奈備山としての三輪山と磐座信仰、三輪山の植生を解説した。また、三輪の神々と大物主神の神婚説話について述べた。また、酒の神としての信仰と駿の杉木についても紹介した。 第2回目は、山城国一之宮、賀茂社（上賀茂神社と下鴨神社）を取り上げた。上賀茂神社は甘南備山、下鴨神社は湧水をめぐる信仰である。まず、上賀茂神社と下鴨神社が祭られた立地を論じ、両社の由緒を説明した。また、八咫鳥と丹塗の矢の説話を紹介した。さらに、御阿礼祭と御蔭祭、葵祭について解説し、そこに用いられるフタバアオイとカツラ、ヒカゲノカズラについて論じた。暖温带平野部の極相林である糺の森の価値についても述べた。 最終回は洛北のパワースポット鞍馬寺を訪れ、魔王尊の奇石の信仰から生まれ、守られてきた豊かな自然を案内した。鞍馬の立地、鞍馬・貴船の中間温帯の植生、鞍馬寺の歴史と祭事を解説した後、山門から由岐神社、本殿、僧正ヶ谷、奥之院を経て貴船まで、植物と社殿などを紹介した。台スギの生態、鞍馬石、カツラ、玉杉、モミの極相林、木の根道、石灰岩と化石、フジの巨木、メグスリノキなどの解説を行った。</p>
<p>30. 『森林の生態と現代』 生きものの暮らし方に学ぶ</p>	<p>単</p>	<p>2013年10月26日</p>	<p>第9期 森林・湿原サポーター養成講座 共催：NPO法人こども環境活動支援協会・西宮市立甲山自然環境センター 西宮市立甲山自然環境センター（西宮市）</p>	<p>自然のしくみを理解した上での森の手入れの考え方について講演を行った。森林生態系の構成要素とその役割や食物連鎖を紹介したのち、生物多様性と生態系の安定性、森林の種の多様性と森の手入れ、里山の保全活動について論じた。林野庁の「森林総合利用推進事業」や国土交通省の「国土交通分野における生物多様性保全の取組普及関連業務」の取り組みについても紹介した。</p>
<p>31. 『プラント・ウォッチング入門』 ～身近な植物と仲よくなるために～</p>	<p>単</p>	<p>2014年10月9日</p>	<p>西宮グリーンクラブ合同特別講義 主催：西宮市植物生産研究センター 西宮市職員会館大ホール（西宮市）</p>	<p>植物観察の楽しみと身近な自然の重要性を述べた後、落葉樹の落葉と紅葉の仕組みや冬芽の構造と機能を論じた。また、枝の伸長量を成長の指標とする方法を紹介した。桜ゆかりの地西宮にちなんで、ヤマザクラの基本的な花の構造と里桜の様々な品種の花の構造を解説した。また、植物観察の極意についても論じた。</p>
<p>【新聞記事】</p>				
<p>1. 子どもと一緒に参加しよう</p>	<p>単</p>	<p>2008年5月</p>	<p>環境フェア in KOBE 読売新聞 2008年5月21日（水）朝刊（近畿版） 企画・製作：読売新聞大阪本社広告局</p>	<p>地球温暖化や生物多様性、3Rについて議論されたG8環境大臣会合に先立って行なわれた「環境フェア in KOBE」の紹介記事。日本の植物の多様さとその原因、問題点を指摘するとともに、環境保全への市民の意識・取組みが必要であることを述べた。</p>
<p>【TV出演】</p>				
<p>1. 山の幸全制覇in京都</p>	<p>共</p>	<p>2011年6月6日</p>	<p>冒険チュートリアル 企画・製作：関西放送花背（京都市）</p>	<p>京都北山花背において、放棄畑に生育している野草をタレントが思いのまま摘み取り、その場で調理して食べるという企画。調理に立ち会い、種の判別と可食の適否の判別を行った。また、タラの芽やシノダケの成長様式と採集についての解説を行った。出演者、チュートリアル、羽田美智子、南明菜、長原成樹、ほっしゃん、銀シャリ。</p>
<p>【自然観察会】</p>				
<p>1. 大原野観察会</p>	<p>単</p>	<p>1997年4月20日</p>	<p>主催：環境市民 洛西大原野（京都市）</p>	<p>都市近郊の里山地域での観察会。畦道や田畑の野草の観察と山麓部のモウソウチク林、アベマキ・コナラの夏緑広葉樹林、尾根のアカマツ林の樹木の観察と解説を行った。</p>

2. 春の自然観察会 ー大文字山から三井寺へー	共	1997年5月11日	主催：聖母女学院短期大学理科 大文字山～三井寺（京都市・滋賀県大津市）	里山の自然観察会で、植物を担当した。沢筋のムクノキ林、山腹部のクスギ・コナラの夏緑広葉樹林、大文字火床の刈り払いによる低木群落、尾根のアカマツ林やスギ・ヒノキの植林地、園城寺のコジイの極相林などの観察と解説を行った。玉田 攻・片山 雅男・久米 直明
3. 樹医養成セミナー野外実習	単	1997年6月29日	第12回樹医養成セミナー 主催：日本樹木保護協会 大阪市立大学附属植物園（大阪府交野市）	造園従事者を主たる受講生とするセミナーで、1日かけて植物園内を観察し、植栽されている樹木の生態や形態、進化について解説を行った。
4. 北区民自然観察会	共	1997年9月23日	主催：京都市北区文化協議会・環境を整美する運動北推進協議会・北区市民ぐるみ運動推進本部 上賀茂神社～深泥池（京都市）	北区民対象の自然観察会で植物の観察と解説を担当した。上賀茂神社のカツラ、コジイ、三葉松、太田神社の天然記念物のカキツバタ群落、特別天然記念物の深泥池浮島植生について、観察と解説を行った。片山 雅男・板倉 豊・大久保 賢一
5. ドングリの観察会	単	1997年10月19日	主催：京都自然教室主催 京都御苑（京都市）	ブナ科の殻斗果の構造と進化について解説した後、京都御苑に植栽されているドングリ類について、葉や樹皮の特徴、殻斗果の形態比較を行った。
6. 黒姫山の自然観察会	単	1997年10月25日～26日	第13回樹医養成セミナー（1級） 主催：日本樹木保護協会 黒姫山（長野県信濃町）	樹医を目指す人たちの現地講習会で、黒姫山山麓のアハンの森やブナ林の観察と解説を行った。アハンの森では里山林の管理やシイタケ栽培、炭焼き、オニグルミの生態などを解説した。また、ブナの天然林では多雪地のブナの更新様式や多雪地に適応した日本海要素の植物の生態の観察と解説を行った。
7. 燻製を作ろう 晩秋の里山の観察	単	1997年11月8日～9日	主催：京都自然教室 洛西大原野森のフィールド（京都市）	晩秋の里山での自然観察会。アベマキ・コナラの夏緑広葉樹林の紅葉・黄葉と果実、尾根のアカマツ林の樹木の観察と解説を行った。
8. 大原野観察会	単	1997年11月16日	主催：環境市民 洛西大原野森のフィールド（京都市）	晩秋の里山での自然観察会。畦道や田畑の野草の花や果実の観察とアベマキ・コナラの夏緑広葉樹林の紅葉・黄葉と果実の観察を行うとともに、薪炭林としての利用法について述べた。
9. 秋の自然観察会 ー洛北鞍馬・貴船の地質と植物ー	共	1997年11月22日	主催：聖母女学院短期大学理科 鞍馬山～貴船（京都市）	奥山の自然観察会で、植物を担当した。北山のダイスギの生態と北山林業について解説したのち、中間温帯の夏緑広葉樹林の生態や紅葉と落葉のメカニズムについて述べた。また、尾根のモミ林では極相林の説明とモミの利用についての解説を行った。玉田 攻・片山 雅男・久米 直明
10. 炭焼きと自然観察会	単	1998年3月14日～15日	主催：環境市民 洛西大原野（京都市）	里山での自然観察会を行った後、放棄畑にて伏せ焼き法による炭焼きを行った。野草の越冬方法の観察や早春の花の観察を行った。
11. 鞍馬の野草観察会	単	1998年5月9日	主催：環境市民 鞍馬山（京都市）	中間温帯植生で植物の多様性の高い鞍馬山から貴船にかけて、草本を中心とした植物観察会を行った。クラマゴケやセキシショウ、ヤマアイ、ネコノメソウ、シャガなど、春から初夏に開花する植物を中心に観察と解説を行った。
12. 春の自然観察会 ー大文字山の地質と植物ー	共	1998年5月31日	主催：聖母女学院短期大学理科 大文字山～三井寺（京都市・滋賀県大津市）	花崗岩と古生層の境界部での自然観察会で、植物を担当した。特に、地質の違いによる植生の違いを中心に観察と解説を行った。花崗岩地帯のシデ類やコナラなどからなる夏緑広葉樹林とホルンフェルスや古生層のアカマツ林・コジイ林の林の成立要因と生育種の特性について観察と解説を行った。玉田 攻・片山 雅男・久米 直明
13. 樹医養成セミナー野外実習	単	1998年7月5日	第15回樹医養成セミナー 主催：日本樹木保護協会 大阪市立大学理学部附属植物園（大阪府交野市）	樹医を目指す者を主たる受講生とするセミナーで、1日かけて植物園内を観察し、植栽されている樹木の形態や進化、生育特性について解説を行った。

14. 夏の御苑にふれよう 『ハスについての質問』	共	1998年7月19日	平成10年度第2回 京都御苑夏の自然教室 主催：環境庁京都御苑管理事務所・国民公園保存協会京都御苑保存会 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、ハスの葉と花の形態、ショウブとハナショウブの形態比較などについて解説した。高木 俊夫・片山 雅男。『京都御苑自然教室』。p4～5.
15. 北八ヶ岳の大自然に学ぶ	共	1998年9月26日 -27日	グリーンセーバー野外スクーリング 主催：樹木・環境ネットワーク協会 北八ヶ岳麦草峠（長野県茅野市・佐久穂町）	亜高山帯針葉樹林帯で行った自然観察会。亜高山草地、シラビソ・オオシラビソの倒木更新、島枯れ現象 亜高山岩礫地の偽高山植生の観察と解説を行った。 片山 雅男・清水義和
16. 北区民自然観察会	共	1998年10月11日	主催：京都市北区文化協議会・環境を整美する運動北推進協議会・北区市民ぐるみ運動推進本部 賀茂川御園橋～志久呂橋（京都市）	北区民対象の自然に親しみ環境保護につなげる観察会で植物を担当した。今回は上賀茂神社の境内林でオニグルミの複葉と果実について、賀茂川の河川敷に生育する植物について観察と解説を行った。片山 雅男・板倉 豊・大久保 賢一
17. 秋の御苑にふれよう 『錦秋の世界』	共	1998年11月15日	平成10年度第3回 京都御苑秋の自然教室 主催：環境庁京都御苑管理事務所・国民公園保存協会京都御苑保存会 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、紅葉のしくみや植物の色素などについて解説した。高木 俊夫・片山 雅男。『京都御苑自然教室』。p21～24.
18. 冬の御苑にふれよう 『樹木の冬越し』	共	1999年1月24日	平成10年度第4回 京都御苑秋の自然教室 主催：環境庁京都御苑管理事務所・国民公園保存協会京都御苑保存会 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、落葉のしくみや枝の形態や冬芽などについて解説した。高木 俊夫・片山 雅男。『京都御苑自然教室』。p2～3.
19. 春の息吹を感じよう	単	1999年3月21日	主催：京都自然教室 静原（京都市）	自然に親しみ年齢を問わずに感性を高める観察会で植物を担当。都市近郊の早春の田畑や畔、小川の野草を観察し、見分け方や毒性、調理方法の解説を行うとともに、可食の野草を採取し、調理して提供した。
20. 春の御苑にふれよう 『御苑を彩る春の花々』	単	1999年4月29日	平成11年度第1回 みどりの日・京都御苑春の自然教室 主催：環境庁京都御苑管理事務所・国民公園保存協会京都御苑保存会 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、カンサイタンポポの頭花の構造、カンサイタンポポとセイヨウタンポポの比較、カラスノエンドウとスズメノエンドウの比較、オオイヌノフグリとタチイヌノフグリの比較イチョウの花の形態などについて解説した。『京都御苑自然教室』。p9～12.
21. 樹医養成セミナー 野外実習	単	1999年7月4日	第18回樹医養成セミナー 主催：日本樹木保護協会 大阪私立大文学部附属植物園（大阪府交野市）	樹医を目指す者を主たる受講生とするセミナーで、1日かけて植物園内を観察し、植物地理的に区分されて植栽された樹木について、葉や花、果実の形態的特性や進化、並びに生育特性について観察と解説を行った。
22. 夏の御苑にふれよう	共	1999年7月20日	平成11年度第2回 京都御苑夏の自然教室 主催：環境庁京都御苑管理事務所・国民公園保存協会京都御苑保存会 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、ハスの葉と花の形態、ショウブとハナショウブの形態比較、ハンゲショウの苞葉と花の構造などについて解説した。高木 俊夫・片山 雅男。『京都御苑自然教室』。p2.
23. 植物の標本を作ってみよう	単	1999年7月25日	主催：京都自然教室 鞍馬（京都市）	自然に親しみ年齢を問わずに感性を高める観察会で植物を担当。中間温帯林の広がる鞍馬で、主要な樹木や草本の観察と解説を行った後、小中学生の夏休みの自由研究の手法として腊葉標本の作製法を指導した。

24. 亜高山帯の植物観察	単	1999年8月27日	グリーンセイバー 八ヶ岳スクーリング 主催：樹木環境ネットワーク協会 北八ヶ岳白駒池（長野県佐久穂町・小海町）	北八ヶ岳白駒池周辺にて、亜高山帯の針葉樹林の特性と生態遷移、岩礫地の偽高山植生の観察と解説をおこなった。
25. 亜高山帯の植物観察	単	1999年8月28日	グリーンセイバー 八ヶ岳スクーリング 主催：樹木環境ネットワーク協会 北八ヶ岳麦草苑地（長野県茅野市・佐久穂町）	北八ヶ岳麦草苑地にて、亜高山帯の草地の植物の観察と解説をおこなった。
26. 亜高山帯の植物観察	単	1999年9月24日	グリーンセイバー 八ヶ岳スクーリング 主催：樹木環境ネットワーク協会 北八ヶ岳茶臼岳（長野県茅野市・佐久穂町）	北八ヶ岳茶臼岳南麓にて亜高山植生の観察をおこなった。亜高山帯針葉樹林の構造、林床植物の生態、ササと雪の関係、カラマツの形態観察、溶岩地の偽高山植生、高層湿原について解説した。
27. 亜高山帯の植物観察	単	1999年9月25日	グリーンセイバー 八ヶ岳スクーリング 主催：樹木環境ネットワーク協会 北八ヶ岳白駒池（長野県佐久穂町・小海町）	北八ヶ岳白駒池周辺にて、亜高山帯の針葉樹林の特性と生態遷移、コケ型林床と針葉樹の発芽、岩礫地の偽高山植生の観察と解説をおこなった。
28. 秋の御苑にふれよう『御苑にちいさな秋をみつけてみよう』	共	1999年11月14日	平成11年度第3回 京都御苑秋の自然教室 主催：環境庁京都御苑管理事務所・国民公園保存協会京都御苑保存会 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、落ち葉の観察、木の実の観察、どんぐりの形態比較などについて解説した。高木 俊夫・片山 雅男。『京都御苑自然教室』。p10～14.
29. 糺の森の自然観察会	単	1999年11月21日	主催：京都自然教室 下鴨神社（京都市）	暖温帯平野部の極相林的林が残っている糺の森での自然観察会で、植物を担当した。ムクノキ、ケヤキ、エノキの樹形と果実の形態、コジイの生態等の観察と解説を行った。
30. 貴船・鞍馬の自然観察会	単	1999年11月23日	主催：環境市民 鞍馬～貴船（京都市）	中間温帯にあつて植物の種の多様性の高い鞍馬山から貴船にかけて晩秋の植物観察会を行った。二叉分枝のクラマゴケ、渓谷林に生育するカツラの分枝様式、玉杉の巨木、紅葉の仕組み、尾根筋のモミの極相林、稀産種のメグスリノキなどを中心に観察と解説を行った。
31. 北区民自然観察会	単	1999年11月28日	主催：京都市北区文化協議会・環境を整美する運動北推進協議会・北区市民ぐるみ運動推進本部 上賀茂神社～深泥池（京都市）	北区民対象の自然に親しみ環境保護につなげる観察会で植物を担当した。上賀茂神社の境内林で三葉松、シロバカガシ、カジノキ等の観察と解説を行った後、太田神社のカキツバタ群集の成立要因を解説し、国の特別天然記念物の深泥池の浮島群集の歴史と現状について解説した。
32. 冬鳥と冬の深泥池観察会	単	1999年12月5日	京都アスニー環境企画 主催：京都アスニー 深泥池（京都市）	京都の自然環境を訪ねる観察会。ヒドリガモなど冬鳥の飛来する深泥池において暖温帯にありながら高層湿原植生の浮島が成立している要因と第三紀周北極要素の遺存している要因について論じた。また、そこに生育している植物種の観察と解説を行った。
33. 植物や昆虫の冬じたくをかんさつしよう	単	1999年12月12日	京都アスニー環境企画 主催：京都アスニー 糺の森（京都市）	暖温帯の平地部の極相林的の面影を残す下鴨神社の社叢林での観察会。高木優占種のムクノキ、エノキ、ケヤキの形態と生態の比較、コジイの葉と殻斗果の形態、林床植生の冬越し戦略の観察と解説を行った。
34. 冬の御苑にふれよう『植物の冬越し大作戦』	共	2000年1月23日	平成11年度第4回 京都御苑冬の自然教室 主催：環境庁京都御苑管理事務所・国民公園保存協会京都御苑保存会 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、落葉のしくみ、小枝の観察、葉痕と冬芽の形態などについて解説した。高木 俊夫・片山 雅男。『京都御苑自然教室』。p1～3.

35. 春の御苑にふれよう 『春～初夏の野草観察』	共	2000年4月29日	平成12年度第1回 京都御苑春の自然教室 主催：環境庁京都御苑管 理事務所・国民公園保存 協会京都御苑保存会 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、ノゲシ、シャガ、ハルジオンとヒメジョオンなど春から夏に見られる野草についてその形態や生態について解説した。高木俊夫・片山雅男。『京都御苑春の自然教室』。p1～2.
36. 山菜を食べてみよう	単	2000年5月14日	第169回京都自然教室 主催：京都自然教室 鞍馬（京都市）	鞍馬周辺の植物観察と山菜の調理体験のうち、植物の生態・形態の解説と食用可能な植物と有毒植物の識別について解説した。
37. 夏の御苑にふれよう	共	2000年7月20日	平成12年度第2回 京都 御苑夏の自然教室 主催：環境庁京都御苑管 理事務所・国民公園保存 協会京都御苑保存会 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、イヌビワとイヌビワコバチとの共生関係、カジノキの観察と七夕の植物など、夏に生育する樹木の形態や生態について解説した。高木 俊夫・片山 雅男。
38. 子ども自然探検隊	共	2000年8月6日	主催：京都市 宝ヶ池公園（京都市）	京都市宝ヶ池公園で行われた環境教育に関するワークショップで、子ども向けの自然観察会を担当した。光と植物の関係、樹木の生活史、多年生植物の栄養繁殖、植物と昆虫の関係、伐採跡の植生回復などをテーマに、子どもたちへの問題提起と解説を行った。片山 雅男・板倉 豊・西村仁志
39. 森の観察会	単	2000年8月12 -13日	第172回京都自然教室 主催：京都自然教室 芦生・生杉（京都府美山 町・滋賀県朽木村）	冷温帯の森の観察会。朽木生杉のブナ林と芦生京大演習林のブナ・アシュウスギ原生林の自然観察を行った。生杉のブナ林ではブナ林の生育環境と構成植物の生態、土壌の解説をおこない、芦生の原生林では雪と樹木の間を中心として解説した。
40. 植物の調べ方	単	2000年8月25日	グリーンセイバー 八ヶ 岳スクーリング 主催：樹木環境ネット ワーク協会 北八ヶ岳草苑地（長野 県茅野市・佐久穂町）	北八ヶ岳草苑地にて、植物採集と標本の作成ならびに同定方法について解説と実習指導をおこなった。同内容の観察会を2001.8.24にも行なった。
41. 亜高山帯の植物観察	単	2000年8月27日	グリーンセイバー 八ヶ 岳スクーリング 主催：樹木環境ネット ワーク協会 北八ヶ岳茶臼岳（長野県 茅野市・佐久穂町）	北八ヶ岳茶臼岳南麓にて亜高山植生の観察をおこなった。亜高山帯針葉樹林の構造、林床植物の生態、ササと雪の関係、カラマツの形態観察、溶岩地の擬似高山植生、高層湿原について解説した。
42. 北山の自然を考える	単	2000年9月24日	北区民自然観察会 主催：京都市北区役所・ 北区民ふれあい事業実行 委員会 雲が畑（京都市）	鴨川原流である雲ヶ畑の自然観察をおこなった。中間温帯の植生についての解説とともに、生育植物の生態観察をおこなった。また、京都市指定の天然記念物「岩屋山志明院の岩峰植生」とホンシャクナゲ群落の生育調査について解説し、その保護対策についても述べた。
43. 晩秋の里山を楽しもう	共	2000年11月25日	2000年度京都大学農学研 究科附属演習林上賀茂試 験地一般公開自然観察会 主催：京都大学大学院農 学研究科 上賀茂試験地（京都市）	演習林内の自然を観察し、採集した植物素材を用いてリースやキーホルダー、葉の作成をおこなった。このうち植物観察を担当し、単葉と複葉の構造、紅葉のしくみ、ツツジの生活史、ブナ科の堅果の構造などについて解説し、採集した葉や果実の同定をおこなうとともに、葉の作成を指導した。片山 雅男・板倉 豊・柴田 昌三
44. 秋の御苑にふれよう	単	2000年11月26日	平成12年度第3回 京都 御苑秋の自然教室 主催：環境庁京都御苑管 理事務所・国民公園保存 協会京都御苑保存会 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、紅葉と落ち葉のしくみ、ブナ科の堅果の構造進化など、秋の樹木の形態や生態について解説した。
45. 冬の御苑にふれよう	単	2001年1月21日	平成12年度第4回 京都 御苑冬の自然教室 主催：環境省京都御苑管 理事務所・国民公園保存 協会京都御苑保存会 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、樹木の冬芽の構造、ケヤキの管型樹形の形成過程、イイギリの雌性性、ロウバイの花の構造について解説した。

46. 竹林公園の観察	単	2001年3月25日	第179回京都自然教室 主催：京都自然教室 洛西竹林公園（京都市）	京都市洛西竹林公園にてタケ・ササ類の観察をおこない、隣接する竹林でタケノ堀を観察した。タケとササの違いと地理分布、モウソウチクの由来、タケの生長過程、竹林の維持管理などについて解説した。
47. 大原野森のフィールドを訪ねよう	単	2001年4月7日	里山市民学校フィールドワーク 「里山たんけん．はっけん．ほっとけん」 主催：環境市民 大原野～西山（京都市）	里山保全の実践的方法を体験的に学ぶために開講された里山市民学校の第4回フィールド講義。里山の現状を紹介し、その問題点を指摘するとともに、里山と人のこれからのかかわりについて提案をおこなった。
48. ブナ林の観察	単	2001年4月21日	里山市民学校フィールドワーク 「里山再生の現場を体験する」 主催：環境市民 芦生～生杉（京都府美山町・滋賀県朽木村）	里山保全の実践的方法を体験的に学ぶために開講された里山市民学校の第5回フィールド講演。奥山の原生的自然であるブナ林について、森林の効用、雪と植物の関係、植物利用などのついて解説した。
49. 春の御苑にふれよう	単	2001年4月29日	平成13年度第1回 京都御苑春の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園保存協会京都御苑保存会 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、シヤガの葉の構造、タンポポの花序の構造、春の野草の近縁種の形態比較などについて解説した。
50. 夏の御苑にふれよう	単	2001年7月20日	平成13年度第2回 京都御苑夏の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園保存協会京都御苑保存会 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、地球温暖化と植物、イヌビワとイヌビワコバチとの共生関係、カジノキの観察とセタの植物など、夏に生育する樹木の形態や生態について解説した。
51. 岩清水八幡宮の社叢の植物観察会	単	2001年7月21日	京都の真髓にふれるエコツアー 主催：環境市民 石清水八幡宮（京都府八幡市）	社叢林として保存状態のよい暖温帯の天然林での自然観察会。極相のシイ林の構造と構成植物の生態、暖地系植物の生育、放棄されたモウソウチク林の拡大状況などについて解説した。
52. 亜高山帯の植物観察	単	2001年8月26日	グリーンセイバー 八ヶ岳スクーリング 主催：樹木環境ネットワーク協会 北八ヶ岳茶臼岳（長野県茅野市・佐久徳町）	北八ヶ岳茶臼岳南麓にて亜高山植生の観察をおこなった。亜高山帯針葉樹林の構造と更新、林床植生の生態、草地植生の生態、溶岩地の擬似高山植生、帰化植物の侵入、高層湿原について解説した。
53. 北区民親子自然観察会	単	2001年8月28日	北区民親子自然観察会 主催：京都市北区役所・北区民ふれあい事業実行委員会 杉坂～沢池（京都市）	北山林業地域の自然観察会。北山杉の植林管理ならびに台杉仕立てについて解説するとともに、蔓植物、低木の生活史、秋の果実についての観察と解説をおこなった。
54. 晩秋の里山を楽しもう	共	2001年11月24日	2001年度京都大学農学研究科附属演習林上賀茂試験地一般公開自然観察会 主催：京都大学大学院農学研究科 上賀茂試験地（京都市）	演習林内の自然を観察し、採集した植物素材を用いてリースやキーホルダー、葉の作成をおこなった。このうち植物観察を担当し、針葉樹の葉の構造、紅葉のしくみ、ブナ科の堅果の構造などについて解説し、採集した葉や果実の同定をおこなうとともに、シユロの葉を用いた昆虫作りを指導した。片山 雅男・板倉豊・柴田 昌三
55. 秋の御苑にふれよう	単	2001年11月25日	平成13年度第3回 京都御苑秋の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園保存協会京都御苑保存会 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、サザンカの花の形態と植生分布、ムクノキの生態、イチヨウの樹形と葉の進化、シイの実の構造、落葉と紅葉のしくみなど、秋の樹木の形態や生態について解説した。

56. 春の御苑にふれよう 『御苑を彩る春の花々 どこが 違うでしょうか?』	単	2002年4月29日	平成14年度第1回 京都御苑春の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園保存協会京都御苑保存会 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、タンポポの雄蕊先熟、シロツメクサの生育形と花序の構造、ショウブとハナショウブの形態比較、春の野草の近縁種の形態比較などについて解説した。『春の自然教室』。P6～9.
57. 夏の御苑にふれよう 『植物のトリックを見破りましょう』	単	2002年7月20日	平成14年度第2回 京都御苑夏の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園保存協会京都御苑保存会 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、カジノキの根茎萌芽の観察と七夕の植物、サルスベリの花の構造、ナギの葉の構造と熊野信仰、ウワミズザクラの果実の構造など夏に生育する樹木の形態や生態について解説した。『夏の自然教室』。P.9～11.
58. 植物の調べ方	単	2002年8月23日	グリーンセイバー 八ヶ岳スクーリング 主催：樹木環境ネットワーク協会 北八ヶ岳麦草苑地（長野県茅野市・佐久穂町）	北八ヶ岳麦草苑地にて、植物採集と標本の作成ならびに同定方法について解説と実習指導をおこなった。
59. 亜高山帯の植物観察	単	2002年8月25日	グリーンセイバー 八ヶ岳スクーリング 主催：樹木環境ネットワーク協会 北八ヶ岳茶臼岳（長野県茅野市・佐久穂町）	北八ヶ岳茶臼岳南麓にて亜高山植生の観察をおこなった。亜高山帯の植生遷移、針葉樹林の構造、縞枯現象、風衝樹形林床植物の生態、溶岩地の擬似高山植生、高層湿原について解説した。
60. 初秋の上賀茂演習林で”草木染め体験”を	共	2002年9月21日	主催：京都市北区役所・北区民ふれあい事業実行委員会 京都大学農学研究科附属演習林上賀茂試験地（京都市）	演習林内の自然を観察し、草木染めの体験学習をおこなった。このうち植物観察を担当し、ラクウショウの呼吸根、葉の形態比較、樹木の発芽床、アカマツ林の立地環境、高木樹形と低木樹形などについて解説した。片山 雅男・板倉 豊
61. 大原野「森のフィールド」自然観察会	単	2002年11月10日	主催：環境市民大原野～西山（京都市）	京都市近郊でも里山的自然が残っている西山地域の自然観察会。耕作地の植生や竹林、落葉広葉樹二次林、アカマツ林などを人と自然のかかわりという視点で解説した。
62. 晩秋の里山を楽しもう	共	2002年11月23日	2002年度京都大学農学研究科附属演習林上賀茂試験地一般公開自然観察会 主催：京都大学大学院農学研究科 上賀茂試験地（京都市）	演習林内の自然を観察し、採集した植物素材を用いてリースやキーホルダー、葉の作成をおこなった。このうち植物観察を担当し、紅葉のしくみ、マツ類の球果の構造、シャクナゲの生態、種子の散布様式などについて解説し、採集した葉や果実の同定をおこなった。片山 雅男・板倉 豊・柴田 昌三
63. 秋の御苑にふれよう 『今年はまさに錦秋の世界！ 黄や紅に彩られた御所の秋を満喫しましょう』	単	2002年11月24日	平成14年度第3回 京都御苑秋の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園保存協会京都御苑保存会 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、落葉と紅葉のしくみ、モミツガの形態比較、ムクロジの果実の構造など、秋の樹木の形態や生態について解説した。『秋の自然教室』。p.2～5.
64. 春の御苑にふれよう 『花の饗宴を楽しみましょう』	共	2003年4月29日	平成15年度第1回 京都御苑春の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園保存協会京都御苑保存会 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、ウバメガシの花の構造、シャガの生育形と花の構造、サクラの一重と八重との形態比較などについて解説した。高木俊夫・片山雅男。『春の自然教室』。p14-16.
65. 鞍馬の自然の新しい楽しみ方	単	2003年5月4日	メッセージ列車エコモーションラストランキャンペーン 主催：NPO法人環境市民鞍馬山（京都市）	中間温帯植生の広がる京都市左京区鞍馬山で、特徴的な植生を紹介するとともに、植物の生活上の特性と生育立地との関係について解説した。（『みどりのニュースレター』No.121（環境市民）p.7）
66. 北山の自然を探索する	単	2003年5月18日	～京都の生きものを探るエコツアー～第4回 主催：京（みやこ）エコロジーセンター 山村都市交流の森（京都市）	京都・山村都市交流の森（花脊）において、中間温帯の植生の特徴を解説するとともに、多雪地帯に生育する植物の生育特性を紹介した。また、地形と植生の対応についても触れた。

67. 夏の御苑にふれよう 『どうなっているのでしょうか』	共	2003年7月20日	平成15年度第2回 京都御苑夏の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園保存協会京都御苑保存会 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、ガマの生育様式と穂状花序の構造、ハンゲショウの葉と花の形態、コブシの果実の構造、クロマツとアカマツの球果の構造、カジノキの葉と花序について解説した。高木俊夫・片山雅男。『夏の自然教室』。p15-17
68. 地域の自然を理解しよう	共	2003年8月9日	自然観察指導員養成講座 主催：日本自然保護協会 朽木村（滋賀県朽木村）	滋賀県朽木村にて、地域の自然としての植生理解の方法について解説するとともに、身近な植物の取り扱い・観察方法について述べた。また、植物の伝統的な利用法についても紹介した。
69. 植物の調べ方	単	2003年8月22日	グリーンセイバー 八ヶ岳スクーリング 主催：樹木環境ネットワーク協会 北八ヶ岳茅草苑地（長野県茅野市・佐久穂町）	北八ヶ岳茅草苑地にて、植物採集と標本の作成ならびに同定方法について解説と実習指導をおこなった。
70. 亜高山帯の植物観察	単	2003年8月23日	グリーンセイバー 八ヶ岳スクーリング 主催：樹木環境ネットワーク協会 北八ヶ岳茶臼岳（長野県茅野市・佐久穂町）	北八ヶ岳茶臼岳南麓にて亜高山植生の観察をおこなった。亜高山帯の植生遷移、針葉樹林の構造、縮枯現象、風衝樹形林床植物の生態、溶岩地の擬似高山植生、高層湿原について解説した。
71. 北区の自然をさぐる	単	2003年10月4日	主催：京都市北区民自然教室・京都市北区役所 深泥池（京都市）	京都市北区の深泥池にて、浮島高層湿原の観察を行った。浮島湿原の成り立ちと構造、浮島上のミズゴケの生育と植生遷移、食虫植物の生態、第三紀周北極要素ミツガシワの生活史、ミズグモの生態などについて解説した。
72. 大文字山に登ろう。感じよう。秋の自然	単	2003年11月3日	主催：NP0法人環境市民大文字山（京都市）	京都市左京区大文字山にて都市近郊林の自然観察を行った。地形と植生との関係、大文字の火床周辺の妨害極相の解説を行った。（『みどりのニューステータ』No.125（環境市民）p.9）
73. 晩秋の里山を楽しもう	共	2003年11月22日	2003年度京都大学フィールド科学教育研究センター里域ステーション上賀茂試験地一般公開自然観察会 主催：京都大学フィールド科学教育研究センター 京都大学フィールド科学教育研究センター里域ステーション上賀茂試験地（京都市）	演習林内の自然を観察し、採集した植物素材を用いてリースやキーホルダー、葉の作成をおこなった。このうち植物観察を担当し、紅・黄葉のしくみ、マツ類の球果の構造、ウラジロの生態、果実の形態と種子の散布様式などについて解説し、採集した葉や果実の同定をおこなった。片山 雅男・板倉 豊・柴田 昌三
74. 古都の杜をたずねて	単	2003年11月23日	～京都の生き物を探るエコツアー～ 第6回 主催：京（みやこ）エコロジーセンター 下鴨神社（京都市）	暖温帯に残された数少ない平地極相林として、京都下鴨神社境内林の観察を行った。植生についての概説を行うとともに、ケヤキ、ムキノキ、エノキの比較観察をおこなった。また、京都御苑ではクロガネモチやコブシの果実の形態について紹介するとともに、ハゼノキなどの紅葉のメカニズムを解説した。
75. 秋の御苑にふれよう 『ようこそ木の実ワールドへ！ 御苑の実りの秋を満喫しましょう』	共	2003年11月30日	平成15年度第3回 京都御苑秋の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園保存協会京都御苑保存会 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、樹木の果実の観察を中心に行った。ナギの葉の形態と種子の特徴、センダンの実の内部形態、モミとツガの樹形、葉、球果の比較、イイギリの果実、ムクロジの葉と果実、クロガネモチの果実と鳥の関係について解説した。高木俊夫・片山雅男。『秋の自然教室』。p.13-16
76. 冬の御苑にふれよう 『植物のたくましい冬越し戦略！』	共	2004年1月18日	平成15年度第4回 京都御苑冬の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園保存協会京都御苑保存会 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、落葉樹の枝を観察し、さまざまな葉痕や冬芽の形態を紹介した。ロウバイの花の構造についても解説した。高木俊夫・片山雅男。『冬の自然教室』。p.12-14

77. 春の御苑にふれよう 『ちょっと変わり者の花を愛でま しょう』	共	2004年4月29日	平成16年度第1回 京都御苑春の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園保存協会京都御苑保存会 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、ケヤキの新葉と花の構造、ヤエヤマブキの花の構造、キシウブの花の構造と繁殖様式、サクラの一重と八重との形態比較などについて解説した。高木 俊夫・片山 雅男。『春の自然教室』。p15～17。
78. 「植物じっくり観察会」－ 葉、花、実のなりたち－	単	2004年5月22日	主催：西宮市北山緑化植物園 西宮市北山緑化植物園（西宮市）	葉、花、実の形態と進化傾向についての講演の後、植物園内に生育している植物を用いて形態と機能、進化について解説した。
79. 夏の御苑にふれよう 『植物の夏姿に涼しさを求めて！』	共	2004年7月19日	平成16年度第2回 京都御苑夏の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園保存協会京都御苑保存会 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、ガマの葉と穂状花序の構造、ハスの通気システムと花の構造、ハンゲショウの葉と花の形態、コブシの果実の構造、サルスベリの花の構造について解説した。高木 俊夫・片山 雅男。『夏の自然教室』。p.13～15
80. 地域の自然を理解しよう	単	2004年7月31日	自然観察指導員養成講座 主催：日本自然保護協会 京都大学フィールド科学教育センター里域ステーション上賀茂試験地（京都市）	京都大学フィールド科学教育センター里域ステーション上賀茂試験地にて、地域の自然としての植生理解の方法について解説するとともに、身近な植物の取り扱い・観察方法について述べた。また、植物の伝統的な利用法についても紹介した。
81. 植物の調べ方	単	2004年8月6日	グリーンセイバー 八ヶ岳スクーリング 主催：樹木環境ネットワーク協会 北八ヶ岳麦草苑地（長野県茅野市・佐久穂町）	北八ヶ岳麦草苑地にて、植物採集と標本の作成ならびに同定方法について解説と実習指導をおこなった。八ヶ岳スクーリング資料集 pp. 5～12
82. 八ヶ岳の生態系について学ぶ	単	2004年8月7日	グリーンセイバー 八ヶ岳スクーリング 主催：樹木環境ネットワーク協会 北八ヶ岳茶臼岳（長野県茅野市・佐久穂町）	北八ヶ岳茶臼岳南麓にて亜高山植生の観察をおこなった。亜高山帯の植生遷移、針葉樹林の構造、縞枯現象、風衝樹形、林床植物の生態、溶岩地の擬似高山植生、高層湿原について解説した。八ヶ岳スクーリング資料集 pp. 13～16
83. 野外の環境教育	単	2004年9月4日	主催：NPO法人環境市民深泥池（京都市）	京都市北区の深泥池にて、野外の環境教育をテーマとして現地講演を行なった。浮島高層湿原を題材として、子どもたちへの環境教育への取り組み方法を述べた。浮島湿原の成り立ちと構造、浮島上のミズゴケの生育と植生遷移、食虫植物の生態、第三紀周北極要素ミツガンワの生活史、ミズゴケの生態などについても解説した。
84. 晩秋の里山を楽しもう	共	2004年11月20日	2004年度京都大学フィールド科学教育センター里域ステーション上賀茂試験地一般公開自然観察会 主催：京都大学フィールド科学教育センター 京都大学フィールド科学教育センター里域ステーション上賀茂試験地（京都市）	演習林内の自然を観察し、採集した植物素材を用いてリースやキーホルダー、葉の作成をおこなった。このうち植物観察を担当し、紅・黄葉のしくみ、マツ類の球果の構造、ウラジロの生態、果実の形態と種子の散布様式などについて解説し、採集した葉や果実の同定をおこなった。片山 雅男・板倉 豊・柴田 昌三
85. 秋の御苑にふれよう 『ようこそ錦秋の世界へ！ 黄 や紅に彩られた御苑の秋を満 喫しましょう』	共	2004年11月28日	平成16年度第3回 京都御苑秋の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、紅葉のしくみと色素の解説、センダン、ムクロジなどの樹木の果実の観察を中心におこなった。高木 俊夫・片山 雅男。『秋の自然教室』。p8～12。

86. 冬の御苑にふれよう 『植物の巧妙な冬の過ごし方！』	共	2005年1月16日	平成16年度第4回 京都御苑冬の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、サザンカとツバキの形態比較、落葉樹の葉痕や冬芽の形態を紹介し、ロウバイの花の構造についても解説した。高木 俊夫・片山 雅男。『冬の自然教室』。p13～16。
87. 春の鞍馬を歩こう！ ～鞍馬自然観察会～	単	2005年3月13日	～京都の生き物を探るエコツアー～ 第9回 主催：京（みやこ）エコロジーセンター 鞍馬山（京都市）	中間温帯植生の広がる京都市左京区鞍馬山で、特徴的な植生を紹介するとともに、樹形や休眠芽について解説した。
88. 春の御苑にふれよう 『春の花を愛でましょう』	共	2005年4月29日	平成17年度第1回 京都御苑春の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、カラスノエンドウの葉と花の構造、シロツメクサの生育特性と花序の構造、カンサイタンポポの頭花の構造、御衣黄（サクラ）の花の形態などについて解説した。高木 俊夫・片山 雅男。『春の自然教室』。p11～13。
89. 自然観察ハイク 三国・赤坂山の春	単	2005年5月22日	共催：奈良県勤労者山岳連盟女性委員会・自然保護委員会 赤坂山（滋賀県マキノ町）	マキノの赤坂山の自然観察会。日本海側ブナ林の構造について解説するとともに、林床に生育するスプリングエフェメラルの代表であるカタクリやエンレイソウ、この地域の特産種トクワソウについてその生活史について詳述した。またタムシバなどの花を用いて花の進化についても論じた。
90. 初夏の西山を歩こう	単	2005年5月29日	～京都の生き物を探るエコツアー～第10回 主催：京（みやこ）エコロジーセンター 大原野自然公園（京都市）	京都と大阪の府境にある大原野自然公園とその周辺地域において、暖温帯の植生について俯瞰するとともに、初夏の草木について解説した。また、里山の利用など人と自然のかかわりについても述べた。
91. 夏の御苑にふれよう 『植物の夏姿に涼しさを求めて』	共	2005年7月18日	平成17年度第2回 京都御苑夏の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、ガマの生育様式と穂状花序の構造、ハスの通気システムと花の構造について考察するとともに、ハンゲショウの葉と花の形態、コブシの果実の構造、サルスベリの花の構造について解説した。高木 俊夫・片山 雅男。『夏の自然教室』。p18～20。
92. 地域の自然を理解しよう	単	2005年7月29日～31日	自然観察指導員養成講座 主催：日本自然保護協会 京都大学フィールド科学教育研究センター里域ステーション上賀茂試験地（京都市）	京都大学フィールド科学教育研究センター里域ステーション上賀茂試験地にて、地域の自然としての植生理解の方法について解説するとともに、身近な植物の取り扱い・観察方法について述べ、植物の伝統的な利用法についても紹介した。また、自然観察会の運営方法についても指導した。
93. 植物の調べ方	単	2005年8月19日	グリーンセイバー 八ヶ岳スクーリング 主催：樹木環境ネットワーク協会 北八ヶ岳麦草苑地（長野県茅野市・佐久穂町）	北八ヶ岳麦草苑地にて、植物採集と標本の作成ならびに同定方法について解説と実習指導をおこなった。
94. 亜高山帯の植物観察	単	2005年8月20日	グリーンセイバー 八ヶ岳スクーリング 主催：樹木環境ネットワーク協会 北八ヶ岳茶臼岳（長野県茅野市・佐久穂町）	北八ヶ岳茶臼岳南麓にて、亜高山植生の観察をおこなった。亜高山帯の植生遷移、針葉樹林の構造、縞枯現象、風衝樹形林床植物の生態、溶岩地の擬似高山植生、高層湿原について解説した。
95. 芦生森づくり講習会	単	2005年10月8日～10日	日本の森をめぐる旅 主催：樹木・環境ネットワーク協会 京都大学芦生演習林（京都府美山町）	京都大学芦生演習林内において、冷温帯のブナ林、トチ・オニグルミからなる溪畔林の構造と主要構成種についての解説を行なった。また、シカの食害による林相の変化についても述べた。

96. 子どもに自然のすばらしさをいかに語るか	単	2005年10月16日	京都自然めぐり ～自然を通じて. 子どもと遊べる大人になろう～ 第6回 共催:京エコロジーセンター・NPO法人環境市民 深泥池(京都市)	京都市北区の深泥池にて、野外の環境教育をテーマとして現地講演を行なった。浮島高層湿原を題材として、子どもたちへの環境教育への取り組み方法を述べた。浮島湿原の成り立ちと構造、浮島上のミズゴケの生育と植生遷移、食虫植物の生態、第三紀周北極要素ミツガンシの生活史、ミズグモの生態などについても解説した。
97. 自然観察ハイク 三国・赤坂山の秋	単	2005年10月23日	共催:奈良県勤労者山岳連盟女性委員会・自然保護委員会 赤坂山(滋賀県マキノ町)	マキノの赤坂山の自然観察会。春に開催したときとの自然の季節変化を探る観察会。春には開花状態であったヤマボウシやミズナラなどの果実の観察や紅葉の仕組みについて解説した。
98. 植物不思議発見「木の実、草の実を観察しよう」	単	2005年10月29日	「植物じっくり観察会」 主催:西宮市北山緑化植物園 西宮市北山緑化植物園(西宮市)	シナノキ、アケビ、ヤマボウシ、コブシ、ナツメなどを用いて、さまざまな種子散布様式を解説するとともに、果実の構造と進化について論じた。また、シュロの葉を用いて、伝承草花遊びを紹介した。
99. 冬の御苑にふれよう 『冬のプラントウォッチング!』	共	2006年1月22日	平成17年度第4回 京都御苑冬の自然教室 主催:環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑(京都市)	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、各樹種間の枝の形態や樹形についての比較をおこなった。また、サクラの枝を観察し、葉芽と花芽や枝の成長過程を解説した。また、コブシの花芽を解剖し、その内部構造について解説するとともに、ロウバイの花の構造についても詳述した。高木 俊夫・片山 雅男。『冬の自然教室』。p15～17。
100. 春の御苑にふれよう 『比べてごらん御苑の春の花を』	単	2006年4月29日	平成18年度第1回 京都御苑春の自然教室 主催:環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑(京都市)	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、ウバメガシの花の構造、シロツメクサとムラサキツメクサとコマツブツメクサの比較、ムラサキサギゴケとトキワハゼの比較、イロハモミジの花の構造、各種サトザクラの花の構造について解説した。『春の自然教室』。p1～3。
101. やさしい植物の見方 ー 身につく植物学イロハ ー	単	2006年5月4日	共催:樹木・環境ネットワーク協会・ナチュラルガーデニングクラブ 東京大学大学院理学研究科付属植物園(東京都)	植物園に植栽されている植物を題材に、植物のもつ多様な形態を生態学的・進化的に把握する方法を提示した。また、これらの事例をいかに人に伝えるかについても言及した。
102. 春の自然観察会 ー 大文字山から三井寺へ ー	共	2006年5月7日	主催:聖母女学院短期大学理科 大文字山～三井寺(京都市・滋賀県大津市)	花崗岩と古生層の境界部での自然観察会で、植物を担当した。特に、地質の違いに着目して植生とその利用について、観察と解説を行った。炭材林としてのシデ類やコナラなどからなる夏緑広葉樹林と薪材林としてのアカマツ林、社寺林の極相林のコジエ林の成立要因と生育種の特性について観察と解説を行った。玉田 攻・片山 雅男・久米 直明
103. 自然に親しむ集い 横山岳	単	2006年5月21日	共催:奈良県勤労者山岳連盟女性委員会・自然保護委員会 横山岳(滋賀県長浜市)	滋賀県伊香郡横山岳の自然観察会。日本海側ブナ林の構造について解説するとともに、林床に生育するスプリングエフェメラルの代表であるカタクリやツクバネソウ、この地域の特産種トクワソウなど約90種についてその形態的特徴や生活史について詳述した。また雪田と植物の関係についても論じた。
104. 片山先生と行く『アドバンス第2章』をめぐる旅	単	2006年5月28日	主催:樹木・環境ネットワーク協会 京都御苑(京都市)	グリーンセイバー及び会員のスキルアップを目指すために企画された観察会。歴史と自然が調和した京都御苑で、カジノキやナギ、ウワミズザクラ、ウメ、モモ、オガタマノキ、シキミ、クロガネモチ、カツラなどについて、生活や信仰と植物のかかわりを解説した。また、植物の同定の仕方や観察法についても指導した。
105. 夏の御苑にふれよう 『小さなトンボ池を仲良く? 利用!』	単	2006年7月16日	平成18年度第2回 京都御苑夏の自然教室 主催:環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑(京都市)	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、ガマの生育様式と穂状花序の構造、ショウブとキショウブの比較、ハスの通気システムと花の構造、ハンゲショウの葉と花の形態について考察するとともに、植物による空間利用の季節変化について解説した。『夏の自然教室』。p1～3。

106. 植物の調べ方	単	2006年8月18日	グリーンセイバー 八ヶ岳スクーリング 主催：樹木環境ネットワーク協会 北八ヶ岳麦草苑地（長野県茅野市・佐久穂町）	北八ヶ岳麦草苑地にて、植物の観察とスケッチ方法ならびに図鑑を用いた実戦的の同定方法について解説と実習指導をおこなった。
107. 亜高山帯の植物観察	単	2006年8月19日	グリーンセイバー 八ヶ岳スクーリング 主催：樹木環境ネットワーク協会 北八ヶ岳茶臼岳（長野県茅野市・佐久穂町）	北八ヶ岳茶臼岳南麓にて、亜高山植生の観察をおこなった。亜高山帯の植生遷移、針葉樹林の構造、縮枯現象、風衝樹形、林床植物の生態、溶岩地の擬似高山植生、高層湿原について解説した。
108. 園内植物探検ツアー ～葉っぱ博物館～	単	2006年9月23日	花と緑の教室 主催：西宮市北山緑化植物園 西宮市北山緑化植物園（西宮市）	葉の機能と構造、葉の種類や形態、単葉と複葉、葉脈、葉の変形などについて講演したあと、園内に生育する植物を用いて、これらの形態のほか、個体内での異型葉性や偽茎についても解説した。また、シュロの葉を用いて、バツタとカタツムリの伝承草花遊びを指導した。
109. 日本の森をめぐる旅 『芦生森づくり講習会』	単	2006年10月7日～9日	主催：樹木・環境ネットワーク協会 京都大学芦生演習林・朽木村生杉（京都府美山町・滋賀県高島市）	京都大学芦生演習林内において、冷温帯のブナ林、トチ・オニグルミからなる溪畔林の構造と主要構成種についての解説を行なった。また、シカの食害による林相の変化についても述べた。
110. 羽束山植物観察登山	単	2006年10月22日	主催：兵庫県勤労者山岳連盟 羽束山（兵庫県三田市）	三田市近郊の羽束山にて、暖温帯の主要二次植生であるコナラ林やアカマツ林の構造とその利用を紹介するとともに、主要構成種の形態的特徴と生態的特性ならびにその利用について解説した。
111. 秋の西山を歩こう	単	2006年10月29日	～京都の生き物を探るエコツアー～第13回 主催：京（みやこ）エコロジーセンター 松尾大社～桂坂野鳥遊園（京都市）	松尾大社のシイ極相林を概観し、京都市天然記念物カギカズラの生態を解説した。また、背後の山域において、暖温帯の植生について俯瞰するとともに、里山の利用など人と自然のかかわりについても述べた。同内容の観察会を第14回エコツアーとして、2006年11月18日（日）にも行った。
112. 第2回 片山先生と行く『アドバンス第2章』をめぐる旅	単	2006年11月11日	主催：樹木・環境ネットワーク協会 伏見稲荷大社（京都市）	グリーンセイバー及び会員のスキルアップを目指すために企画された自然観察会。京都伏見稲荷で、シイ極相林の構造を解説するとともに、スギやオガタマノキなどについて信仰と植物のかかわりを解説した。また、稲荷信仰についても解説した。
113. 秋の御苑にふれよう 『よくみてみると変わっています！』	単	2006年11月26日	平成18年度第3回 京都御苑秋の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、カツラの樹形と枝の形態、葵祭の神事での利用について解説した。ニシギギの翼枝の構造を解剖的に解説した。メタセコイアの樹形、シュートの構造について詳述した。『秋の自然教室』。p1～3。
114. 冬の御苑にふれよう 『春の訪れを待ちわびる植物たち！』	単	2007年1月21日	平成18年度第4回 京都御苑冬の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、落葉のしくみと葉痕の形態を詳述した。また、さまざまな冬芽を紹介し、コブシの花芽の構造を示した。また、サザンカとツバキの枝葉や花について比較・考察をおこなった。『冬の自然教室』。p1～3。
115. 中間温帯の植生	単	2007年3月10日	主催：シニア自然大学主催 鞍馬山～貴船（京都市）	中間温帯植生の広がる京都市左京区鞍馬山で、モミ・ツガ極相林の構造を解説するとともに、ホウノキやカツラ、スギなどの樹形や休眠芽について詳述した。
116. 片山先生と歩く春の北山～春の樹木観察を楽しもう！～		2007年4月21日	西宮市北山緑化植物園花と緑の教室 主催：西宮市北山緑化植物園主催 西宮市北山緑化植物園（西宮市）	六甲山の地質・土壌と植生の関係、湿原の植物などについて講演したあと、園内を巡回し、生育する植物の生育立地、展葉様式などの観察を行なった。

117. 春の御苑にふれよう 『可憐な春の花を愛でましょう』	単	2007年4月29日	平成19年度第1回 京都御苑春の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、カラスノエンドウの茎葉と花と果実の形態、オオイヌノフグリとタチイヌノフグリの比較、カリンの花の構造、ヤエヤマブキの雄しべの弁化、キシヨウブの生態、各種ヤエザクラの花の構造について解説した。『春の自然教室』。P1～3.
118. 第3回 片山雅男先生と行く『アドバンス第2章』をめぐる旅 三輪の神杉と印の杉玉		2007年5月27日	主催：樹木・環境ネットワーク協会 三輪山（奈良県桜井市）	グリーンセイバー及び会員のスキルアップを目指すために企画された観察会。三輪明神の神奈備信仰について紹介し、巳の神杉の解説を行なった。酒の神と印の杉玉について述べた後、神体山である三輪山に登り、古代祭祀遺跡の磐座について解説するとともに、社寺林として残された暖温帯の極相林と二次林の観察を行なった。
119. 夏の御苑にふれよう 『都会のオアシス トンボ池の生き物』	単	2007年7月22日	平成19年度第2回 京都御苑夏の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、ハスの葉と花の構造、ガマの葉の構造と穂状花序の構造、ヤマボウシの頭状花序、ハンゲショウの半白葉と花序の形態について考察した。『夏の自然教室』。P1～3.
120. 片山先生と作るシュロパッタ！ 草遊びをしよう	単	2007年8月5日	西宮市北山緑化植物園花と緑の教室 主催：西宮市北山緑化植物園 西宮市北山緑化植物園（西宮市）	夏休みの子どもの環境学習の取組みとして、園内の各所で植物の多様な生活様式について観察し、植物の葉の役割、さまざまな葉の形態、水草のい生活様式などについてと解説を行なった。また、葉の性質を利用した伝承草花遊びとして、シュロの葉を用いて、パッタとカタツムリ、へびなどの製作を指導した。
121. 地域の自然を理解しよう	単	2007年8月10日～12日	自然観察指導員養成講座 主催：日本自然保護協会 京都大学フィールド科学教育研究センター里域ステーション上賀茂試験地（京都市）	地域の自然のとらえかたとして、暖温帯の植生の概観を行い、あわせて古生層の地質と植生について解説した。また、特徴的な生育種の形態・生態的特性について紹介するとともに、身近な植物の環境教育での取り扱い、観察方法について述べた。また、植物の伝統的な利用法についても論じた。
122. 自然観察会 ～西山の昆虫・植物を観察しよう～	共	2007年8月18日	西京区民ふれあい事業 主催：西京区民ふれあい事業実行委員会 京都市西京区洛西支所～大原野神社（京都市）	区民の郷土の理解をはかり・地域づくりを促進するための観察会。まず、ニュータウンの植栽種を中心とした人工的自然の植物を紹介したのち、耕作地域の半自然としての水田雑草の生態観察を行なった。また、大原野神社の境内において、郷土の自然である極相林としての社寺林の重要性を論じた。なお、夏休みであることから、植物採集と標本作成について解説・指導を行った。片山 雅男・板倉 豊
123. 植物の調べ方	単	2007年10月6日	グリーンセイバー 2007年度高尾山スクーリング 主催：樹木・環境ネットワーク協会 八王子セミナーハウス（東京都）	八王子セミナーハウス内の里山にて、植物の観察とスケッチ方法ならびに図鑑を用いた実地的同定方法について解説と実習指導をおこなった。
124. 高尾山の植物観察	単	2007年10月7日	グリーンセイバー 2008年度高尾山スクーリング 主催：樹木・環境ネットワーク協会 高尾山（東京）	高尾山にて、中間温帯の植生の観察をおこなった。斜面方位による植生の違いとして、北側斜面での夏緑広葉樹林、南側斜面での常緑広葉樹林を比較した。また、尾根筋の植生を紹介するとともに、ブナの隔離分布について論じた。
125. 第4回「一錦秋の秋一観察会」－片山先生と行く「アドバンス第2章」をめぐる旅－第4回「鬼門除けと日吉の桂」	単	2007年10月28日	主催：樹木・環境ネットワーク協会 日吉大社・比叡山延暦寺（滋賀県大津市）	グリーンセイバー及び会員のスキルアップを目指すために企画された観察会。坂本の街の景観と穴太積、日吉茶園を紹介し、日吉大社では叡山と山王信仰について解説した。鬼門よけの信仰と植物について述べた後、山王祭での桂の役割を論じた。また、境内林の観察を行ない、植栽されたモミジや榎についても解説を行なった。比叡山では中間温帯の植生、特にモミ・ツガ林の生態とその保全について論じた。
126. 冬の御苑にふれよう 『春の訪れを待ちわびる植物たち！』	単	2008年1月20日	平成20年度第4回 京都御苑冬の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、各樹種の葉痕と冬芽の外部形態を比較・観察した。また、コブシの花芽の内部構造の観察も行った。また、ピラカンサの果実の観察を行なうとともに、ロウバイの花の構造についても詳述した。『冬の自然教室』。P1～2.

127. 春の北山周辺散策 木々の芽吹きを観察しよう！	単	2008年4月5日	西宮市北山緑化植物園花と緑の教室 主催：西宮市北山緑化植物園 西宮市北山緑化植物園（西宮市）	六甲山の地質・土壌と植生の関係などについて講演したあと、園内を巡回し、生育する植物の生育立地、展葉様式などの観察を行なった。
128. 第5回 片山雅男先生と行く『アドバンス第2章』をめぐる旅 『葵祭』と糺の森	単	2008年5月25日	主催：樹木・環境ネットワーク協会主催 下鴨神社（京都市）	グリーンセイバー及び会員のスキルアップを目指すために企画された現地講演会。玉依姫の丹塗りの矢の神話を紹介し、鴨川の中洲の湧水地の水の信仰について述べた。また、暖温帯の平地の極相植生としての糺の森の特徴を述べ、生育種についての生態観察を行なった。
129. 夏の御苑にふれよう 『都会のオアシス トンボ池の生き物』	単	2008年7月21日	平成20年度第2回 京都御苑夏の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、ハスの花の構造、ハンゲショウの半白葉と花序の形態ショウブとキシウブの形態比較について考察した。『夏の自然教室』P*～*。
130. 自観察会「糺の森&御苑を散策しよう！」	単	2008年7月26日	主催：名神深草森の会主催 京エコロジー・センター支援事業 下鴨神社-京都御苑（京都市）	賀茂建角身命の八咫鳥、玉依媛命の丹塗りの矢の神話を紹介し、鴨川の中洲の湧水地の水の信仰と農耕神について述べた。また、暖温帯の平地の極相植生として、糺の森の特徴を述べ、生育種についての生態観察を行なうとともに、境内に植栽された樹木にまつわる信仰について解説を行なった。京都御苑の歴史を解説し、人工的に作られた自然について考察した。
131. 夏の植物園観察とシュロの葉で作るカタツムリ	単	2008年8月2日	西宮市北山緑化植物園花と緑の教室 主催：西宮市北山緑化植物園 西宮市北山緑化植物園（西宮市）	夏休みの子どもの環境学習の取組みとして、園内の各所で植物の多様な生活様式について観察し、植物の芽の仕組み、花の構造、水草の生活様式などについて解説を行なった。また、葉の性質を利用した伝承草花遊びとして、シュロの葉を用いて、バッタとカタツムリ、奄美のハブなどの製作を指導した。
132. 第6回 片山雅男先生と行く『アドバンス第2章』をめぐる旅 五穀の起源説話と「カギカズラ」自生地	単	2008年9月28日	主催：樹木・環境ネットワーク協会 松尾神社（京都市）	グリーンセイバー及び会員のスキルアップを目指すために企画された現地講演会。松尾大社の起源となった磐座信仰について述べ、渡来人秦氏による山城の開拓を神格化した祭神大山咋神と市杵島姫命について論じた。また、境内に生育するカギカズラの形態と生態の解説をおこなった。また、境外摂社月読神社において、月神信仰と桂の地名説話と五穀の起源説話について紹介した。
133. 植物の調べ方	単	2008年10月4日	グリーンセイバー 2008年度高尾山スクーリング 主催：樹木・環境ネットワーク協会 高尾の森わくわくビレッジ（東京都）	高尾の森わくわくビレッジにて、植物の観察とスケッチ方法ならびに図鑑を用いた実践的同定方法について解説と実習指導をおこなった。
134. 八王寺高尾山の植物観察	単	2008年10月5日	グリーンセイバー 2008年度高尾山スクーリング 主催：樹木・環境ネットワーク協会 高尾山（東京都）	奥多摩高尾山にて、中間温帯の植生の観察をおこなった。谷筋の植生を中心に人と自然のかかわり方について述べるとともに、自然観察のポイントや注意事項についても述べた。
135. 植物の調べ方	単	2008年10月11日	グリーンセイバー 2008年度御杖村スクーリング 主催：樹木・環境ネットワーク協会 御杖村（奈良県御杖村）	御杖村フィールドにて、植物の観察とスケッチ方法ならびに図鑑を用いた実践的同定方法について解説と実習指導をおこなった。
136. 御杖村中間温帯林の植物観察	単	2008年10月12日	グリーンセイバー 2008年度御杖村スクーリング 主催：樹木・環境ネットワーク協会 御杖村（奈良県御杖村）	御杖村フィールドにて、中間温帯の植生の観察をおこなった。谷筋から尾根までの植生を対象に人と自然のかかわり方、シカの影響について述べるとともに、自然観察のポイントや注意事項についても述べた。

137. 自然観察ハイク 三峰山	単	2008年10月19日	主催：奈良勤労者山岳連盟自然保護委員会 三峰山（三重県松阪市）	登山者の自然保全意識を高めるために行なわれた自然観察会。紀伊半島の中間温帯から冷温帯の植生と主要樹種の特性について述べた。ヒメシヤラ、ヤハズアジサイなどの襲撃紀要素の説明も行なった。併せて月出の中央構造線の観察と地質構造の解説をおこなった。
138. 秋の御苑にふれよう 『秋の香を満喫しましょう！』	単	2008年11月23日	平成20年度第3回 京都御苑秋の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、カツラの落葉の香り、抹香としての利用、生態について述べるとともに、月読命にまつわる説話を紹介した。また、類似した葉の見分け方について、イロハモミジ、オオモミジ、ヤマモミジとクスギ、アベマキ、クリの葉の特徴について解説した。
139. 冬の御苑にふれよう 『植物のエコな冬の暮らし方！』	単	2009年1月18日	平成20年度第4回 京都御苑冬の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、代表的な冬芽の構造と機能について考察した。また、カリンの果実と棘の構造についての述べるとともに、ロウバイの花の構造と樹形の形成過程についても詳述した。『冬の自然教室』。P1～2。
140. 第7回 天神さんで「アドバンス第2章をめぐる旅」と梅の健康診断 天神信仰と梅	単	2009年3月8日	主催：樹木・環境ネットワーク協会 北野天満宮（京都市）	グリーンセイバー及び会員のスキルアップを目指すために企画された現地講演会。北野天満宮の沿革を紹介した後、雷神信仰に道真の怨霊信仰が結びついて天神信仰が起こったことを述べた。天神信仰における牛の位置づけ、神の依り代としての影向松、梅と天神信仰の結合について論じた。また、境内梅苑にて、梅の系統、形態、利用、毒性について紹介するとともに、サクラとの比較を行なった。
141. 第1回 植物との交流会 『春の花とたわむれよう』	単	2009年3月29日	主催：樹木・環境ネットワーク協会 東京大学理学部附属植物園（東京都）	花の基本構造を解説した後、花の進化的観点から解説を行なった。ウメとサクラの花の比較、ツバキの花の異類合着、カエデの花の構造、トサミズキの花序の形態、ツツジ類の左右相称性等について述べた。
142. 春の御苑にふれよう 『三日見ぬ間の桜かな！ いろんな花があるものです』	単	2009年4月12日	平成21年度第1回 京都御苑春の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、オオシマザクラの花の構造、サトザクラの花の進化とおしべの弁化、モミジの花の構造について考察した。『春の自然教室』。P9～10。
143. 第2回 片山先生と歩く植物との交流会「葉っぱ博物館」	単	2009年5月6日	主催：樹木・環境ネットワーク協会 東京大学理学部附属植物園（東京都）	普通葉の基本構造を解説した後、葉の進化的観点から解説を行なった。さまざまな複葉とその機能、テンナンショウ属の苞葉、針葉樹の異形葉、ハンカチノキの苞葉等について述べた。
144. 自然観察ハイク 三峰山	単	2009年5月17日	主催：奈良勤労者山岳連盟自然保護委員会 三峰山（三重県松阪市）	登山者の自然保全意識を高めるために行なわれた自然観察会。紀伊半島の中間温帯から冷温帯の植生と主要樹種の特性について述べた。シロヤシオの観察の他、ヒメシヤラ、ヤハズアジサイなどの襲撃紀要素の説明も行なった。併せて月出の中央構造線の観察と地質構造の解説をおこなった。
145. 地域の自然を理解しよう	単	2009年7月31日～8月2日	自然観察指導員養成講座 主催：日本自然保護協会 主催 京都大学フィールド科学教育研究センター里域ステーション上賀茂試験地（京都市）	京都大学フィールド科学教育研究センター里域ステーション上賀茂試験地にて、地域の自然としての植生理解の方法について解説するとともに、身近な植物の取り扱い・観察方法について述べ、植物の伝統的な利用法についても紹介した。また、自然観察会の運営方法についても指導した。
146. 植物の調べ方	単	2009年10月3日	グリーンセイバー 2009年度高尾山スクーリング 主催：樹木・環境ネットワーク協会 高尾の森わくわくビレッジ(東京都)	高尾の森わくわくビレッジにて、植物の観察とスケッチ方法ならびに図鑑を用いた実戦的の同定方法について解説と実習指導をおこなった。同内容を2010年10月16日にもおこなった。
147. 八王子高尾山の植物観察	単	2009年10月4日	グリーンセイバー 2009年度高尾山スクーリング 主催：樹木・環境ネットワーク協会 高尾山（東京都）	奥多摩高尾山にて、中間温帯の植生の観察をおこなった。谷筋の植生を中心に人と自然のかかわり方について述べるとともに、自然観察のポイントや注意事項についても述べた。同内容を2010年10月17日にもおこなった。

148. 植物の調べ方	単	2009年10月10日	グリーンセイバー 2009年度御杖村スクーリング 主催：樹木・環境ネットワーク協会 御杖村（奈良県御杖村）	御杖村フィールドにて、植物の観察とスケッチ方法ならびに図鑑を用いた実践的同定方法について解説と実習指導をおこなった。
149. 御杖村中間温帯林の植物観察	単	2009年10月11日	グリーンセイバー 2009年度御杖村スクーリング 主催：樹木・環境ネットワーク協会 御杖村（奈良県御杖村）	御杖村フィールドにて、中間温帯の植生の観察をおこなった。谷筋から尾根までの植生を対象に人と自然のかかわり方、シカの影響について述べるとともに、自然観察のポイントや注意事項についても述べた。
150. 洛西、池公園の植物	単	2009年10月24日	共催：京都市西京区役所・西京塾 池公園（京都市）	京都市西京区の自然環境の調査・保全活動を行っている西京塾が公園の植栽を中心に行っている観察会。主要な樹木に加え池の水槽に関する解説を行った。
151. 秋の御苑にふれよう 『個性的な木々の装いを愛でましょう！』	単	2009年11月22日	平成21年度第3回 京都御苑秋の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、ニシキギの紅葉と翼の構造、イチオウの葉脈と短枝。長枝の形態の捉え方を話し、また、類似した葉の見分け方について、ムクノキ、エノキ、ケヤキの葉の比較観察を行った。『秋の自然教室』。P9～10。
152. 秋の北山を歩こう	単	2009年11月29日	西宮市北山緑化植物園花と緑の教室 主催：西宮市北山緑化植物園 北山緑化植物園（西宮市）	北山緑化植物園や北山公園の池の周辺における自然観察会。ハクモクレンの花芽の解剖観察。カエデ科の近縁種の葉の形態比較。シナノキの果実の形態、ドングリ類の殻斗と果実の形態比較。サフランノキの紅葉、ニシキギの紅葉と枝の翼の観察などを行った。
153. 冬の御苑にふれよう 『厳しい冬を乗り切るために！』	単	2010年1月17日	平成21年度第4回 京都御苑冬の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、サザンカとツバキの花や枝葉の比較観察を行った。落葉のメカニズムを論じるとともに、代表的な冬芽の構造と機能について考察した。また、さまざまな冬芽と葉痕について紹介するとともに、ロウバイの花の構造と樹形の形成過程についても詳述した。『冬の自然教室』。P1
154. 世界のマツを観察しよう！	共	2010年1月24日	第285回 京都自然教室 共催：京都自然教室・京都大学フィールド科学教育研究センター 京都大学フィールド科学教育研究センター上賀茂試験地（京都市）	京都大学がマツ属の育成研究のために、世界各地に分布する約100種のマツのうち、85種を集めた“京都大学フィールド科学教育研究センター 里域ステーション上賀茂試験地”にて、マツの生態観察を行うとともに、日常、目にすることが少ない三葉や五葉からなる世界のマツについて観察を行った。片山 雅男・板倉 豊・柴田 昌三
155. 早春の樹木観察	単	2010年3月14日	第287回 京都自然教室 主催：京都自然教室 鴨川（京都市）	都市公園として、多くの市民に親しまれている鴨川にて、樹形、樹皮、落ち葉などを手掛かりに、街路樹や植栽された樹木の比較観察を行った。
156. 桜づくし	単	2010年4月4日	第288回 京都自然教室 主催：京都自然教室 宝ヶ池公園（京都市）	さまざまな桜が植栽されている宝ヶ池公園にて、花の観察を行い、その形態や生態を考察するとともに、文化的側面についても言及した。
157. 春の御苑にふれよう 『花のトリックを見破りましょう』	単	2010年4月25日	平成22年度第1回 京都御苑春の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、ウバメガシの雄花序と雌花序、キショウブの花の構造、サトザクラの花の進化とおしべの弁化について考察した。『春の自然教室』。P3～4。
158. 植物の調べ方	単	2010年10月2日	グリーンセイバー 2010年度交野スクーリング 主催：樹木・環境ネットワーク協会 交野市（大阪府）	交野市にて、植物の観察とスケッチ方法ならびに図鑑を用いた実践的同定方法について解説と実習指導をおこなった。

159. 交野の暖温帯林の植物観察	単	2010年10月3日	グリーンセイバー 2010年度交野スクーリング 主催：樹木・環境ネットワーク協会主催 交野森のフィールド（大阪府交野市）	交野森のフィールドにて、暖温帯の植生の観察をおこなった。谷筋から尾根までの植生を対象に人と自然のかかわり方について述べるとともに、自然観察のポイントや注意事項についても述べた。
160. 身近な公園で自然観察	単	2010年11月27日	公園探検隊 in 桂坂 共催：京都市西京区区役所・西京塾桂坂（京都市）	京都市西京区の自然環境の調査・保全活動を行っている西京塾が公園の植栽を中心に行っている観察会。桂坂公園から東海自然歩道（桂坂緑道）を歩きながら、セコイア、キンモクセイ、ウバメガシ、ツバキ、タブノキ、ユキヤナギ、キンシバイ、クスノキ、アメリカデイゴ、ユズリハ、ユリノキ、トキワマンサク、クロガネモチ、シダレエンジュ、ヤマモモ、ヤナギ、サルスベリ、シラカシ、アラカシ、モチノキ、タラヨウ、ヒラギナンテン、ニシキギ、イヌツゲ、ツクバネウツギ、ダイセンキャラボクなどの樹木について解説した。
161. 片山先生と紅葉の北山を歩こう！	単	2010年11月28日	西宮市北山緑化植物園花と緑の教室 主催：西宮市北山緑化植物園 西宮市北山緑化植物園（西宮市）	緑化植物園、ならびに北山公園にて、樹木の観察を行い、紅葉と落葉の仕組みと葉の色素について論じた。
162. 甲山見て歩き、樹木の特性と名前をおぼえよう	単	2010年12月18日	第6期 森林・湿原サポーター養成講座 第4回 共催：NPO法人こども環境活動支援協会・西宮市立甲山自然環境センター 西宮市立甲山自然環境センター（西宮市）	六甲山系の夏緑広葉樹二次林の広がる甲山湿原周辺を巡回し、そこにみられる樹木の特性や樹木の状況を解説するとともに、その手入れ法や乾燥化の進む湿原の維持管理について指導した。
163. 冬の御苑にふれよう『梅の香に誘われて！』	単	2011年1月15日	平成22年度第4回 京都御苑冬の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、ウメの花や枝葉をサクラと比較して観察を行った。落葉のメカニズムを論じるとともに、冬芽の進化を考察し、代表的な冬芽の構造と機能について紹介した。また、ロウバイの花の構造と樹形の形成過程についても詳述した。『冬の自然教室』。P7～8。
164. 春の御苑にふれよう『サクラに生きる力をもらいましょう』	単	2011年4月24日	平成23年度第1回 京都御苑春の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、アカマツとクロマツの花の構造と果実の発達、ムラサキサギゴケとトキワハゼの比較生態、ヤマザクラの花とエフェドリンの効果について解説した。『春の自然教室』。P9～10。
165. 初夏の北山を歩こう	単	2011年5月29日	西宮市北山緑化植物園花と緑の教室 主催：西宮市北山緑化植物園 西宮市北山緑化植物園（西宮市）	北山緑化植物園や北山公園の池の周辺における自然観察会。ハクモクレンの果実、ハンカチノキの花の構造、トチュウの葉の観察、キッチンガーデンの植物の観察などを行った。
166. 夏の御苑にふれよう『樹陰で涼やかに観察を！』	単	2011年7月24日	平成23年度第2回 京都御苑夏の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、ヤブミョウガの開花戦略、ワルナスビの繁殖戦略、サルスベリの花の構造について観察し、質問と解説を行った。『夏の自然教室』。P9～10。
167. 「秋の北山を歩こう！」	単	2011年10月23日	西宮市北山緑化植物園花と緑の教室 主催：西宮市北山緑化植物園 西宮市北山緑化植物園（西宮市）	北山緑化植物園や北山公園の池の周辺における自然観察会。ハクモクレンとホオノキの冬芽の比較観察。カエデ科の近縁種の葉の形態比較。ホトギス、シュウメイギクの花の構造観察。カンレンボクの果実の形態観察。ドングリ類の殻斗と果実の形態比較。ニシキギの紅葉と枝の翼の観察などを行った。

168. 秋の御苑にふれよう 『秋の香を満喫しましょう！』	単	2011年11月20日	平成22年度第3回 京都御苑秋の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、カツラの落葉の香りと樹形の観察、イロハモミジとヤマモミジ、オオモミジの葉と果実の形態の比較観察。クリ、クズギ、アベマキの葉と樹皮、穀斗果の比較観察を行った『秋の自然教室』。P9～10.
169. 晩秋の東山を歩こう！	単	2011年11月24日	主催：名神深草森の会 京エコロジー・センター 支援事業 毘沙門堂一蹴上（京都市）	京都の植物や自然を知り、その保全を考える観察会。今回は、毘沙門堂一蹴上までの里山で行った。毘沙門堂のヤマモモと紅葉の観察。東山の二次林と植物を観察するとともに、ナラ枯れを解説した。
170. 里山の自然観察会	単	2011年11月27日	主催：神付・産土の森の会 神付・産土の森（神戸市）	六甲山北麓の里山林での自然観察会。ドングリ類の穀斗果の比較観察、マツボックリの成長観察を行うとともに、炭焼きの方法や稲荷信仰と愛宕信仰の話、モミの生態と材の利用法について述べた。
171. 冬の御苑にふれよう 『厳しい冬を乗り切るために！』	単	2012年1月14日	平成22年度第4回 京都御苑冬の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、サザンカとツバキの花や枝葉の比較観察を行った。落葉のメカニズムを論じるとともに、代表的な冬芽の構造と機能について考察した。また、さまざまな冬芽と葉痕について紹介するとともに、ロウバイの花の構造と樹形の形成過程についても詳述した。『冬の自然教室』。P1～
172. 油山自然観察の森現地視察	単	2012年1月25日	2011年度 国土交通分野における生きものにぎわいづくり 九州地方セミナー 主催国土交通省 油山自然観察の森（福岡市）	福岡市の自然観察の森の現地視察において、植物の解説を行った。九州北部の里山林に生育する種の観察をおこなうとともに、放棄二次林の植生遷移やアカマツ林としての再生・維持管理について述べた。
173. 春の御苑にふれよう 『花の恵みに感謝して』	単	2012年4月22日	平成24年度第1回 京都御苑春の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、ツバキの葉と花の構造の観察、オガタマノキの花の観察をおこなった。また、普賢象や御衣黄、松月、妹背などの里桜の花の比較観察をおこなった。『春の自然教室』。P9～10.
174. 初夏のなりわいの森の観察会	単	2012年5月13日	主催：なりわい創造塾 小川町（埼玉県小川町）	地域の自然をなりわいにつなげるために、小川町小瀬田の里山を踏査し、地域の自然把握を行うとともに、そこに生育している植物の生態と利用法について解説を行った。併せて、尾根のアカマツ林にて植生調査を行った。
175. 夏の御苑にふれよう 『巧みな植物の暮らしぶりに脱帽！』	単	2012年7月22日	平成24年度第2回 京都御苑夏の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、ヨウシュヤマゴボウの花序の構造と開花期間の関係、ガクアジサイの装飾花と普通花の構造と機能、センリョウの原始的な花の構造について観察と解説を行った。『夏の自然教室』。P9～10.
176. 「楽しい草遊び～シュロバッタを作ろう～」	単	2012年7月28日	西宮市北山緑化植物園花と緑の教室 主催：西宮市北山緑化植物園 西宮市北山緑化植物園（西宮市）	北山緑化植物園の園内の植物観察をおこなった後、シュロの葉を用いてバッタやカタツムリの作成の指導を行った。トンボやカエルの作成のデモンストレーションを行った。
177. 弘川寺歴史と文化の森現地視察	単	2012年10月4日	2012年度 国土交通分野における生きものにぎわいづくり 近畿地方セミナー 主催：国土交通省主催 弘川寺（大阪府河南町）	西行法師隠棲の地である弘川寺の森の現地視察において、植物の解説を行った。南河内の里山林に生育する種の観察をおこなうとともに、桜の森としての維持管理とササユリの再生について述べた。
178. 秋の里山の宝探し ～秋の里山は、恵みの宝庫 彩り、食べもの、エネルギー～	単	2012年10月14日	環境市民 野の塾（里山・町家編） 主催：環境市民 大原野～西山（京都市）	環境市民・森のフィールド周辺の里山の自然観察会。山麓部のモウソウチク林や落葉広葉樹林から尾根のアカマツ林などの植生を観察しながら、出現する植物の特徴や生態、利用方法等について解説を行った。

179. 植物の調べ方	単	2012年10月20日	グリーンセイバー 2012年度交野スクーリング 主催：樹木・環境ネットワーク協会 交野市（大阪府）	交野市にて、植物観察を行なう上でのポイントや有毒植物を述べた後、植物の観察とスケッチ方法ならびに図鑑を用いた実戦的同定方法について解説と実習指導をおこなった。
180. 秋のなりわいの森の観察会	単	2012年10月27日	主催：なりわい創造塾 小川町（埼玉県小川町）	山の恵みをなりわいにつなげるために、小川町小瀬田の”なりわいの森”を踏査し、そこに生育している植物の生態と利用法について解説を行った。併せて、主要な植物を採取し、それを用いて同定の指導を
181. 秋の御苑にふれよう 『ドングリは幼いころの宝物！』	単	2012年11月18日	平成24年度第3回 京都御苑秋の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、ツブキとフキの葉と花の比較観察、ドングリ類の殻斗果の構造と見分け方、カツラの落葉の香りと樹形の観察を行った。『秋の自然教室』。P9～10。
182. 晩秋の西山を歩こう！	単	2012年11月24日	主催：名神深草森の会主催 京エコロジー・センター支援事業 苔寺～嵐山（京都市）	京都の植物や自然を知り、その保全を考える観察会。今回は、苔寺から嵐山までの京都トレールで行った。西山の植生と植物を観察するとともに、紅葉の仕組みを解説した。また、松尾大社裏山の磐座や尾根筋に点在する古墳後期の横穴式石室についても説明を行った。
183. 里山の自然観察会	単	2012年11月25日	主催：神付・産土の森の会 神付・産土の森（神戸市）	六甲山北麓の里山林での自然観察会。ドングリ類の種子の成育様式の観察、ツツジ類の成長様式の解説、秋の木の実の散布様式などの観察を行うとともに、紅葉・黄葉の仕組みについて解説した。
184. 浅原公園の植物	単	2012年12月2日	公園探検隊 公園自然観察会 主催：西京塾 後援：京都市西京区役所 浅原公園（京都市）	京都市西京区の自然環境の調査・保全活動を行っている西京塾が公園の植栽を対象に行っている観察会。メタセコイア、フジ、コナラ、ソメイヨシノ、ツバキ、ツツジなどの主要な樹木の特徴や生態に関して解説を行った。
185. 冬の御苑にふれよう 『東西の魔よけの霊樹で幸あらんことを！』	単	2013年1月27日	平成24年度第4回 京都御苑冬の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、トベラの果実の構造と種子の散布様式、小枝の魔除けについて解説した。モミの葉と球果の観察、松かさの構造の解説を行った。『冬の自然教室』。P5～6。
186. 春の御苑にふれよう 『のどかな春のひと時を桜をめでて過ごしましょう』	単	2013年4月21日	平成25年度第1回 京都御苑春の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、シャガの体制と花の構造を観察し、繁殖様式について解説した。また、里桜の花の比較観察をおこなった。また、ヤエヤマブキの雄しべの花弁化を説明した。『春の自然教室』。P9～10。
187. ポンポン山山麓・自然観察会	単	2013年5月12日	主催：大阪府労者山岳連盟自然保護委員会 神峰山寺～本山寺（大阪府）	登山者の自然保全意識を高めるために行なわれた自然観察会。大阪府の自然環境保全地域である高槻市神峰山寺から本山寺に広がる暖温帯から中間温帯の植生と主要樹種の特徴について述べた。コナラ・クヌギの夏緑広葉樹林やアカマツ林の特徴と里山林としての維持管理について解説した。また、神峰山寺で行った自然観察の森づくりについても紹介した。
188. 夏の御苑にふれよう 『緑陰に誘われて！』	単	2013年7月21日	平成25年度第2回 京都御苑夏の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当した。まず、タイサンボクの葉の特性と花の構造を観察し、被子植物の進化を論じた。次に、モミの球果を解剖し、その構造を解説した。さらに、梅雨に開花するガクアジサイの巧みな花の作りと受粉戦略について論じた。『夏の自然教室』。P9～10。
189. 植物の調べ方	単	2013年10月19日	グリーンセイバー 2013年度交野スクーリング 主催：樹木・環境ネットワーク協会 交野市（大阪府）	交野市にて、植物観察を行なう上でのポイントや有毒植物を述べた後、植物の観察とスケッチ方法ならびに図鑑を用いた実戦的同定方法について解説と実習指導をおこなった。

190. はっぱ博士とあそぼう！ 里山観察会	単	2013年11月17日	平成25年度 里なび研修会 in 長野県飯綱町 「森の生きものと人とをつなげようー森のようちえん・昆虫の森の保全と活用を通じた里の文化的魅力の創出ー」 主催：環境省自然環境局 共催：NPO法人大地 「大地」の里山フィールド（長野県飯綱町）	幼児子ども教室「大地」の里山フィールドでの観察会。季節に特徴的な植物を取り上げ、危険性、可食かどうか、工芸の利用、子どもの遊びへの利用、民話や伝承などを実際の植物を観察しながら説明を行った。保育活動や里山の整備活動への提言も行った。
191. 北山・秋の観察会「秋の北山を歩こう！」	単	2013年11月24日	西宮市北山緑化植物園花と緑の教室 主催：西宮市北山緑化植物園 西宮市北山緑化植物園（西宮市）	北山緑化植物園や北山公園の池の周辺における自然観察会。ドングリ類の殻斗と果実の形態比較。落葉樹の落葉のメカニズムと紅葉の仕組みの解説。葉痕と冬芽の観察。ツブキの花の構造観察などを行った。
192. 里山の自然観察会	単	2013年12月2日	主催：神付・産土の森の会 神付・産土の森（神戸市）	六甲山北麓の里山林での自然観察会。コウヤボウキの繁殖戦略を紹介し、アベマキのドングリの形態と成育様式の観察やモミの葉の観察と民俗学的な解説を行った。また、葉痕と冬芽の観察を行った。
193. 冬の御苑にふれよう 『春よ来い♪早く来い♪』	単	2014年1月26日	平成25年度第4回 京都御苑冬の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、冬季のクロマツの冬芽と花芽の状態を観察した。シロバカガシの花序と果実をカシ類のものとの比較の視点で観察した。サクラとコブシの冬芽を観察し、機能面から見た解説を行った。『冬の自然教室』。P5～6。
194. 上桂公園の植物	単	2014年2月22日	公園探検隊 公園自然観察会 主催：西京塾 後援：京都市西京区役所 上桂公園（西京区）	京都市西京区の自然環境の調査・保全活動を行っている西京塾が公園の植栽を対象に行っている観察会。アメリカハナミズキの樹形と果実、ケヤキの樹形と葉の形態など、主要な樹木の特徴や生態に関して解説を行った。
195. 春の北山を歩こう！	単	2014年4月13日	西宮市北山緑化植物園花と緑の教室 主催：西宮市北山緑化植物園 西宮市北山緑化植物園（西宮市）	オオシマザクラの花の構造を観察しながら、既成概念で見てしまう危険性について論じた。イカリソウの芽の位置や形態、葉のつき方や枝の伸び、樹形などの生態学的な意味を論じた後、花の形態について解説した。また、園内を巡回し、生育する植物を例に講演内容の観察を行なった。
196. 春の御苑にふれよう 『春の御苑の楽しみ方！』	単	2014年4月20日	平成26年度第1回 京都御苑春の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、ヤマザクラの花の構造と花序、花見の由来の解説をおこなった。また、御苑に生育する里桜類の花の構造を観察し、花の進化について論じた。また、同じバラ科のアメリカザイフリボクの花の形態との比較も行った。『春の自然教室』。P9～10。
197. 里山の自然観察会 桜の里山を歩こう	単	2014年4月26日	主催：神付・産土の森の会 神付・産土の森（神戸市）	六甲山北麓の里山林での自然観察会。ウワミズザクラの花序と葉の観察、コバノミツバツツジの花と成育様式を観察し里山での利用法を紹介した。また、カエラスノエンドウやカンサイタンポポなど春の野草の生態についても解説した。
198. 夏の御苑にふれよう 『歴史と自然に囲まれて！』	単	2014年7月27日	平成26年度第2回 京都御苑夏の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当した。本年は禁門の変から150年、当時から植物を観察した。長州藩の家老が討ち死にした樹齢300年の清水谷のムクノキの葉と果実と樹皮の観察。京都守護職松平容保の仮本陣である凝華洞跡のイチヨウの葉と短枝、種子の観察。モモの実の解剖観察を行った。『夏の自然教室』。P3～4。
199. 身近な草花、樹を知る ～鞍馬山の草花、樹と親しもう～	単	2014年10月18日	環境市民 野の塾「生き物と私たちの暮らし」シリーズ【第2回】 主催：環境市民 鞍馬寺（京都市）	歴史と自然の調和した鞍馬寺において行った、生き物と私たちの暮らしを今一度考えるための自然観察会。鞍馬の集落と鞍馬寺の成立要因や中間温帯の自然環境を説明した後、仁王門から奥の院までの植物を観察した。ダイスギと北山林業、ハウノキとケヤキの生育特性、タラヨウと葉書、カツラと信仰、ヤマアイの藍染、玉杉の信仰、鞍馬の火祭、落葉と紅葉の仕組み、中間温帯のモミの植生とモミの利用法などを解説した。

200. 秋の御苑にふれよう 『秋の夕日に照る山もみじ!』	単	2014年11月16日	平成26年度第3回 京都御苑秋の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、紅葉の近縁種の比較観察、紅葉と落葉の仕組みの解説を行った。『秋の自然教室』。P9～10。
201. 大蛇ヶ池公園の植物	単	2014年11月29日	公園探検隊 公園自然観察会 主催：西京塾 後援：京都市西京区役所 大蛇ヶ池公園（京都市）	京都市西京区の自然環境の調査・保全活動を行っている西京塾が公園の植栽を対象に行っている観察会。メタセコイヤの生態、クチナシの果実、ドングリの形態、カエデの紅葉、ハンノキの生態などについて観察と解説を行った。
202. 冬の御苑にふれよう 『雪にもめげない山茶花の花』	単	2015年1月25日	平成26年度第4回 京都御苑冬の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、サザンカとツバキの形態の比較観察、イチヨウの雌雄性と樹形の解説、ロウバイの花と樹形の観察を行った。『冬の自然教室』。P9～10。
203. 春の御苑にふれよう 『春の御苑のけなげな草花たち!』	単	2015年4月19日	平成26年度第1回 京都御苑春の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、カラスノエンドウの葉と花の構造の観察、オオイヌフグリとタチイヌフグリの比較観察。カンサイタンポポの生態観察を行った。
204. 里山の自然観察会 新緑の里山を歩こう	単	2015年4月29日	主催：神付・産土の森の会 神付・産土の森（神戸市）	六甲山北麓の里山林での自然観察会。イヌザクラの花序と葉の観察、コブシの成長様式の観察。タラノキの生態と利用法、里山における稲荷信仰について解説した。
205. 野草や草餅を味わおう	単	2015年5月17日	第349回 京都自然教室 主催：京都自然教室 周山（京都市）	京都の里山の観察会。ヨモギの葉の観察、コナラの花序と雌花の観察、サンショウの葉と花の観察、シヤクナゲの花の観察などを行った。
206. 宝ヶ池公園付近の樹木観察会	単	2015年6月13日	主催：京都樹木探検塾 宝ヶ池公園（京都市）	宝ヶ池公園の地形と地質、植生と里山としての利用法を説明した後、アカマツ林、コナラ・アベマキ林、ハンノキ林の主要植生とそこに生育する樹木について、その生態と利用法について観察と解説を行った。
207. 夏の御苑にふれよう 『夏草。日陰で過ごすか、日光浴か!』	単	2015年7月26日	平成27年度第2回 京都御苑夏の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑主催 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当した。夏を彩る草花を観察した。ヤブミョウガの花と花序の構造とショウガとの比較、ネジバナの花序のらせん性とラン菌の解説、ゲンノショウコの花と果実の観察を行った。『夏の自然教室』。P5～6。
208. やすらぎ公園の植物	単	2015年10月3日	公園探検隊 公園自然観察会 主催：西京塾 後援：京都市西京区役所 やすらぎ公園（京都市）	京都市西京区の自然環境の調査・保全活動を行っている西京塾が公園の植栽を対象に行っている観察会。苔寺に隣接して作られた植栽を中心とした公園。イロハモミジの紅葉と種子散布。クロガネモチ・ムラサキシキブの果実、テイカズラの生態などについて観察と解説を行った。
209. はっぱで遊ぼう	単	2015年10月31日	主催：若狭町 河内森林公園（福井県若狭町）	熊川宿での植樹祭に合わせて企画された親子を対象とした野外活動。森林公園内に自生する植物の特徴や利用法、遊び方を紹介した。さまざまな葉の大きさと形態の紹介、カエデ類の葉の比較と切れ込みの役割、種子の散布様式などを解説した。
210. 自然観察ハイク 京都 鞍馬～貴船	単	2015年11月7日	主催：奈良勤労者山岳連盟自然保護委員会 鞍馬～貴船（京都市）	登山者の自然保全意識を高めるために行なわれた自然観察会。洛北古刹の鞍馬寺にて中間温帯の植生と主要樹種の特徴、自然と信仰について述べた。門前町と炭の集積地、鞍馬石、ダイスギと北山林業、ホウノキとケヤキの生態と形態の比較、カツラの樹形、紅葉の仕組み、鞍馬の火祭、モミの極相林、木の根道、奥之院の石灰岩・化石の観察と鞍馬信仰、フジの巨木、貴船信仰、丑の刻参り、カツラと信仰について観察と解説を行った。

211. 「北山秋の自然観察会」	単	2015年11月28日	西宮市北山緑化植物園花と緑の教室 主催：西宮市北山緑化植物園 西宮市北山緑化植物園（西宮市）	北山緑化植物園や北山公園の池の周辺における自然観察会。紅葉の仕組みとを説明した後、ハクモクレンの花芽の解剖観察を行った。さらに、十月桜の開花様式、カツラの落葉の香りや樹形、メタセコイアの樹形、ヤツデの花序の構造、スズランノキとニシキギの紅葉、アベマキとクスギの葉や樹皮、殻斗果の形態比較などの観察と解説を行った。
212. 秋の御苑にふれよう 『木の実の旅行計画 一使えるものは何でもいい』	単	2015年11月29日	平成27年度第3回 京都御苑秋の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑主催 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、ケヤキの果実と種子散布、モミの樹形形成と種子散布、クロガネモチの雌雄性について観察と解説を行った。『秋の自然教室』。P3～4.
213. 冬の御苑にふれよう 『競って暮らすか、仲良く暮らすか』	単	2016年1月24日	平成27年度第4回 京都御苑冬の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑主催 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、マテバシイの萌芽更新、トウジュロの生活様式とその利用法、巨木と共存するキツタの生活戦略について観察と解説を行なった。『冬の自然教室』。P9～10.
214. 『桜づくし 一花のいろいろ』		2016年4月10日	主催：京都自然教室主催 宝ヶ池公園（京都市）	一重の桜の花の基本構造と里桜の構造について比較観察を行い、葉から花の進化について解説した。
215. 春の里山自然観察会『桜舞い散る春の里山を歩こう』	単	2016年4月16日	主催：神付・産土の森の会 神付・産土の森（神戸市）	六甲山北麓の里山林での自然観察会。サクラの花の構造と花序の観察、ウワミズザクラの花序の観察と解説を行った。また、キランソウの繁殖様式と花の構造、ヒメハギの受粉様式、オオイヌノフグリとタチイヌノフグリのちがいについても解説した。
216. 春の御苑にふれよう 『春の御苑の花の装い』	単	2016年4月17日	平成28年度第1回 京都御苑春の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、コブシの花の構造の観察、シャガの葉と花の構造と繁殖様式の観察、オドリコソウの花の観察を行った。
217. 「春の北山を歩こう！」	単	2016年4月30日	西宮市北山緑化植物園花と緑の教室 主催：西宮市北山緑化植物園 西宮市北山緑化植物園（西宮市）	北山緑化植物園や北山公園の池の周辺における自然観察会。ハンカチノキの苞葉と花しくみ、アイラトビカズラの花と花序の説明した後、シャクヤクとボタンの近縁二種の比較観察と解説を行った。また、シャガの体制と花の構造、繁殖様式についても解説を行った。
218. 植物観察会	単	2016年6月5日	関西系活動報告会 主催：樹木・環境ネットワーク協会	長居植物園に植栽された植物を題材に、葉の形態や樹形の生態的解説を行うとともに、花の構造と進化傾向について論じた。
219. 夏の御苑にふれよう 『京都御苑は植物の迎賓館！』	単	2016年7月24日	平成28年度第2回 京都御苑夏の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑主催 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当した。今回は御苑に見られる特徴的な外来種について観察を行った。ニワウルシの生育状況を観察し、成長様式や繁殖様式の解説を行った。また、生垣に植栽されるハナゾノツクバネウツギについて、花の構造と種子の散布について説明した。さらに、ヤブミョウガの花と花序の構造とショウガとの比較した。『夏の自然教室』。P*～
220. 西京区の大きな樹を訪ねて、自然を守ろう 第1回	単	2016年11月3日	主催：西京塾 後援：京都市西京区役所 嵐山公園～上桂（京都市）	西京区の自然や樹木にまつわる話を学ぶウォーキング。第1回目として嵐山・松尾地域の巨樹を観察した。嵐山公園のムクノキ法輪寺のクロガネモチとカツラ、松尾大社のサネカツラ、ムクノキ、月読神社のコジイ、鮎屋の辻のムクノキ
221. 秋の御苑にふれよう 『木の実の巧妙な仕掛け 一いかにして遠くにたどり着けるのか』	単	2016年11月20日	平成28年度第3回 京都御苑秋の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑主催 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当した。今回は御苑に見られる植物の種子の散布についての観察を行った。動物摂食散布のムクノキ、動物付着散布のイノゾジチ、風散布のイロハモミジ、重力散布のアラカシの果実について散布様式とその生態的意義について観察と解説を行った。『秋の自然教室』。P*～*.

222. 冬の御苑にふれよう 『冬の寒さに打ち勝って暮らしています』	単	2017年1月22日	平成28年度第4回 京都御苑冬の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑主催 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当した。今回は御苑に見られる植物の冬越しについて観察を行った。アオキの生育場所と果実の形態、ノキシノブの着生生活、クスノキの葉の形態とダニ室を観察し、その生態的意義の解説を行った。『冬の自然教室』。P3～
223. 春の御苑にふれよう 『奥ゆかしい春の花を観察してみよう』	単	2017年4月16日	平成29年度第1回 京都御苑春の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑主催 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、モミの球果の構造の観察、ウバメガシの雄花と雌花の構造と結実状況の観察、アオキの花と花序の観察を行った。『春の自然教室』。P*～*。
224. 西京区の大きな樹を訪ねて、自然を守ろう 第2回	単	2017年6月25日	主催：西京塾 後援：京都市西京区役所 上桂御霊神社～下桂御霊神社（京都市）	西京区の自然や樹木にまつわる話を学ぶウォーキング。第2回目は上桂・下桂地域の巨樹を観察した。上桂御霊神社のオガタマノキ、カツラ、クスノキ、カゴノキと社叢林の観察。御所公園のクロガネモチ、下桂御霊神社のムクノキとカゴノキの巨木の観察、ムクロジの果実の観察と石鹸遊びの解説を行った。
225. 夏の御苑にふれよう 緑に触れ合う一刻を！』	単	2017年7月23日	平成29年度第2回 京都御苑夏の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑主催 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、エゴノキの果実の形態観察と石鹸の代用品としての利用方法、ガクアジサイの花の構造と開花習性の適応的意義、ナツツバキの花の構造の観察を行った。『夏の自然教室』。P7～8。
226. 「花の進化をたどってみよう」	単	2017年7月30日	西宮市北山緑化植物園花と緑の教室 主催：西宮市北山緑化植物園 西宮市北山緑化植物園（西宮市）	小学生を対象に北山緑化植物園で開花している花を観察し、被子植物の進化を考えた。被子植物の花の各部分の名称と役割を解説した後、ギンコウボク（銀厚朴）とスイレンの花を用いて原始的な花の構造の観察と解説を行った。次いで、ミヤコイバラでヤキキョウの花（キキョウ科）でやや進化した花の構造を解説した。園内にはこの他にも多種多様な花が開花していたため、花冠の形態による花の分類も紹介した。
227. 鞍馬山の自然観察	単	2017年8月20日	主催：環境市民 鞍馬山（京都市）	生物多様性の高い中間温帯にある鞍馬山での自然観察会。アシウスギの生態と樹形、ホウノキとケヤキの樹形の比較、タラヨウの葉の文字書き遊び、カツラの短枝と長枝の機能、玉杉（スギの巨木）モミの極相林とスギの木の根道について観察と解説を行った。
228. 秋の御苑にふれよう 『不思議な形をした木の実 どうしてこんな形なの？』	単	2017年10月15日	平成29年度第3回 京都御苑秋の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑主催 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、香辛料の八角に瓜二つな猛毒のシキミの果実の観察、イヌビワの偽果とイヌビワコバチの訪花様式、クリ、クヌギ、アベマキの葉と堅果の比較観察を行った。『秋の自然教室』。P7～8。
229. 西京区の大きな樹を訪ねて、自然を守ろう 第3回	単	2017年11月25日	主催：西京塾 後援：京都市西京区役所 南春日町～大原野神社～長峰八幡宮（京都市）	西京区の自然や樹木にまつわる話を学ぶウォーキング。今回は、大原野地域の巨樹を観察した。モウソウチク林の手入れと筍の収穫方法の解説、クロガネモチの雄木と雌木、大原野神社のコジイとモミの巨木の観察、正法寺のダイオウショウ、長峰八幡宮のカゴノキの観察と解説を行った。
230. 秋の里山自然観察会『紅葉の仕組み』	単	2017年11月26日	主催：神付・産土の森の会 神付・産土の森（神戸市）	六甲山北麓の里山林での自然観察会。さまざまな木々の紅葉・黄葉を観察した後、そのメカニズムについて解説した。また、ソゴの葉では常緑樹の冬越しの戦略を説明した。カマキリの生態とハリガネムシの寄生戦略についても解説した。
231. 冬の御苑にふれよう 『北限でけなげに暮らしています！』	単	2018年1月21日	平成29年度第4回 京都御苑冬の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑主催 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、北限地に生育するサザンカとツバキの近縁2種の開花時期と花の形態の比較観察、チャとツバキの開花時期と花の形態の比較観察を行った。『冬の自然教室』。P5～6。

232. 春の御苑にふれよう 『先入観を捨てて観察してみま しょう』	単	2018年4月22日	平成30年度第1回 京都御苑春の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑主催 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、ウワミズザクラの花序の構造観察と亀トへの利用方法、ムラサキケマンの花の構造と種子散布様式の観察、ヘビイチゴの花から果実への発達の観察を行った。『春の自然教室』。P3～4.
233. シリーズ自然観察会 大文字山の植物観察	単	2018年6月3日	主催：フィールドソサイエティ・法然院森のセンター 大文字山（京都市）	身近な森の植物の不思議さに気付くことに主眼を置いた観察会。光をうまく配分するナンテンの複葉。竹の皮は筍を保護するための葉の変形。ツルになったシダのカニクサ。2年かけて大きくなるウバメガシのドングリ。ニガイチゴとオランダイチゴの形態比較。ウリハダカエデの栄養状態による性転換戦略。アカマツのマツボックリの成長過程。ヤマモモやタマミズキの種子の鳥散布戦略など、観察により学びが深くなることを示した。『MURYOJU』Vol. 110(2018. 7)P4
234. 夏の御苑にふれよう 『知っているようで知らない樹木の果実』	単	2018年7月22日	平成30年度第1回 京都御苑夏の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑主催 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、トチノキの花序の構造と結実調整の解説、ソシンロウバイの偽果と種子の観察、カマツカの子房下位の果実の観察を行った。『夏の自然教室』。P9～10.
235. 西京区の大きな樹を訪ねて、自然を守ろう 第4回	単	2018年10月27日	主催：西京塾 後援：京都市西京区役所 桂駅～三宮神社～榎原～天皇の杜古墳（京都市）	西京区の自然や樹木にまつわる話を学ぶウォーキング。今回は、桂・榎原地域の自然と巨樹を観察した。ハリエンジュの巨木の観察、三宮神社の祭神にまつわる神話とクスノキ、ムクノキ、エノキの巨樹の観察、役の行者の祠とヤマザクラの巨樹の話、榎原の地名の由来とクスギによる菊炭生産、天皇の杜古墳の巨樹の
236. 「紅葉のしくみを観察で確かめてみよう！」	単	2018年11月17日	西宮市北山緑化植物園花と緑の教室 主催：西宮市北山緑化植物園 西宮市北山緑化植物園（西宮市）	北山緑化植物園における講義と自然観察会。落葉と紅葉のメカニズムについて解説した後、園内の植物観察と解説を行った。ホウノキの成長様式と葉や材の伝統的利用法、ハクモクレンの葉芽と花芽の形態的差異とその意義、ユズリハの名の由来と落葉の様式、カツラの落葉の香りの解説と月読神の神話、イチヨウの黄葉の観察と解説、世界三大紅葉樹ニシキギの紅葉と茎の形態の解説、クロガネモチの果実の観察、イロハモミジの紅葉の違いの観察と解説、季節はずれに開花していたカキツバタとアヤメの花の比較観察を
237. 秋の御苑にふれよう 『秋の紅葉十木十色！みんな違ってみんないい』	単	2018年11月18日	平成30年度第3回 京都御苑春の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑主催 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、イロハモミジ、ヤマモミジ、オオモミジの葉の比較観察、モミジの葉の木についている位置の違いによる紅葉の差を解説した。嗅覚による秋の体験としてカツラの落葉を用いて匂いの主探しのネイチャーゲームを行った。
238. 里山の自然観察会		2018年12月1日	主催：神付・産土の森の会 神付・産土の森（神戸市）	六甲山北麓の里山林での自然観察会。ヤマモモの果実の観察と種子の風散布の観察と解説。ヒガンバナの生活様式の観察と救荒食としての利用法、コシアブラの黄葉と塗料や削り花としての利用、タカノツメのマンにトールの香りの解説、クロモジの香りと楊枝としての利用法、ドングリの殻斗の比較観察、イノシシのぬたば利用などの観察と解説を行った。
239. 冬の御苑にふれよう 『木々のさまざまな冬の過ごし方』	単	2019年1月20日	平成30年度第4回 京都御苑冬の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑主催 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、コブシの冬芽について、葉芽と花芽の違いの観察を行った。また、ロウバイの花の構造と生育形の生態的意義について観察と解説を行った。また、センダンの実と種子の形態観察を行った。『冬の自然教室』。P*～*.
240. 早春の植物観察会	単	2019年3月16日	グリーンセイバーガイド ンス（大阪） 主催：樹木・環境ネットワーク協会 住之江公園（大阪府）	住之江植物園に植栽された植物について、葉の形態や樹形の生態的解説を行うとともに、花の構造と進化傾向について論じた。

241. 春の御苑にふれよう 『春の御苑、目立たない花に光を！』	単	2019年4月21日	平成31年度第1回 京都御苑春の自然教室 主催：環境省京都御苑管理事務所・国民公園協会 京都御苑主催 京都御苑（京都市）	京都御苑内の植物、きのこ、野鳥、昆虫などの観察をおこなう自然教室。このうち、植物を担当し、ヤマグワの花序の構造観察、御衣黄の花弁、雄しべと雌しべの構造の観察、関西タンポポの生育形の生態的意義について観察と解説を行った。『春の自然教室』。P*～*.
【社会における活動等】				
<p>京都市深泥池学術調査団調査員（1980年4月～1981年3月）</p> <p>京都市天然記念物植物調査団調査員（1982年4月～1992年3月）</p> <p>京都府緑化センター（京都府立林業試験場）自然観察会講師（1989年7月～1992年7月）</p> <p>特定非営利活動法人環境市民理事（1993年～2002年3月、2003年7月～現在に至る）</p> <p>グリーンセイバー検定 検定委員（NPO法人 樹木・環境ネットワーク協会）（1997年～現在に至る）</p> <p>京都自然観察学習会講師（環境庁（現環境省）京都御苑管理事務所・国民公園保存協会京都御苑保存会（現国民公園協会京都御苑））（1998年～現在に至る）</p> <p>特定非営利活動法人森林再生支援センター専門委員（2000年1月～現在に至る）</p> <p>世界文化遺産貢献の森林設定等に関する有識者懇談会委員（林野庁近畿中国森林管理局 座長 梅原 猛）（2000年7月～2000年12月）</p> <p>大見地区基本計画策定委員会準備会委員（京都市建設局水と緑環境部・道路部。委員長：牛野正）（2004年2月）</p> <p>自然観察指導員養成講座講師（日本自然保護協会）（2003年8月～2009年8月）</p> <p>大見地区基本計画策定委員会委員（京都市建設局水と緑環境部・道路部 座長 牛野 正）（2004年3月～2005年3月）</p> <p>林野庁補助事業「森林総合利用推進事業」里山林活用手引策定委員会委員（NPO法人 共存の森ネットワーク 座長 宮浦 富保）（2010年～2014年3月）</p> <p>特定非営利活動法人 樹木・環境ネットワーク協会理事（2011年4月～現在に至る）</p> <p>西京まちづくり区民会議委員（学識者）（京都市西京区区役所）（2011年8月～現在に至る）</p> <p>国土交通分野における地域の生物多様性保全活動の促進に関する検討会専門家委員（国土交通省 座長 進士 五十八）（2011年9月～現在に至る）</p>				